

高知県立大学
University of Kochi

社会福祉学部報

Bulletin of Department of Social Welfare

第26号
2024年

(2023年度自己点検評価資料)

高知県立大学社会福祉学部

〒781-8515 高知市池2751-1

Tel 088-847-8700 (大学代表)

Tel 088-847-8757 (学部代表)

Fax 088-847-8672 (学部専用)

<http://www.u-kochi.ac.jp/>

教育目的・3つのポリシー

【教育研究上の目的】

社会福祉学部は、福祉の現代的課題に対応する、深い人間理解や人権尊重の精神に裏打ちされた専門的知識と実践的知識と実践的技能を教授研究することにより、共感する心と豊かな人間性をもって、社会生活で生じるさまざまな問題に主体的に対応できる福祉の実践能力を修得させ、社会の幅広い分野で福祉の向上に寄与できる有為な人材を育成することを目的とする。

(1) 地域・家族のもつ福祉課題への対応能力の養成

ノーマライゼーションを基本的視点として、人権を基礎とする福祉理念を理解させる。また、多様化・複雑化する福祉ニーズに対応するために、これまで地域や家族が補完しあいつながら担ってきた機能を再編成し、これを支援していく能力の開発が求められている。こうした問題に対応できる専門的知識を身に付けさせる。

(2) 社会福祉実践能力の養成

各種の福祉ニーズに対応できる専門的技能を修得し、科学的な根拠に基づく主体的な福祉援助を実践しうる能力を養う。

(3) 保健・医療・福祉の効果的な連携をめざした社会福祉専門職の養成

高知県において急速に進行している少子・高齢化問題に対応するため、保健・医療・福祉の効果的な連携を図ることとし、そのために必要な専門的知識を有し、福祉援助を可能とする社会福祉専門職を養成する。

【ディプロマ・ポリシー】

共生社会を志向する市民としての素養を基礎に、社会福祉専門職として必要な価値・知識・技術を獲得することを目指し、以下の各項目における能力を身につけた者に学士の学位を授与する。

(知識・理解)

- 1 現代社会で暮らす人々のニーズに対応する幅広い教養を基盤として、社会福祉の専門的知識を体系的に理解することができる。
- 2 人々の生活を人間と環境の両側面から理解し、個々におかれている状況から普遍的な福祉課題までに対応する実践的な知識を身につけている。

(汎用的・実践的技能)

- 3 多様化・複雑化する福祉ニーズを科学的視点で捉え、個人が抱えている課題を社会との関係において把握することができる。
- 4 コミュニケーションスキルを用いて、福祉課題の解決に必要な情報を収集・分析し、複眼的・論理的に検討したうえで、課題解決の方策を提案することができる。

(態度・志向性)

- 5 社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使しつつ、人々の生活の安寧と質の向上に貢献することができる。
- 6 ノーマライゼーションを基本的視点として、人権や社会正義の観点から福祉課題に主体的に対応する志向性を身につけている。

(総合的な学習経験と創造的思考力)

- 7 個人の尊厳と福祉理念を重視し、権利擁護に向けた支援を創造的・科学的に展開することができる。
- 8 総合的な視野を持って、保健・医療・福祉の専門職と連携しながら社会福祉を実践することを通して、専門職としての自己の成長を追求することができる。

【カリキュラム・ポリシー】

社会福祉学部では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、「共通教養教育科目」と「専門教育科目」を置く。

1 共通教養教育科目

- (1) 共生社会の市民の素養を身につけるため、コミュニケーションスキル（リテラシー科目）、諸科学の基本的な知識（教養基礎科目）、地域社会や国際社会の課題（課題別教養科目）、生涯にわたる健康の維持・増進のための知識・技能（健康スポーツ科目）、地域課題への実践的取り組み（域学共生科目）を学ぶ科目群を設置する。
- (2) 英語コミュニケーションは1、2年次必修とし、域学共生科目中の基礎的科目は必修、応用的科目は選択とする。他の科目は各自の興味・関心に応じて選択して履修させる。
- (3) 可能な限り少人数で、アクティブラーニングの手法を取り入れ、個々の科目の特性や内容に応じた多様な形式で授業を実施し、きめ細かな学修評価を行う。

2 専門教育科目

(カリキュラムの構造・教育内容)

専門教育科目については、ソーシャルワークを基礎として、介護福祉や精神保健福祉分野にも関連する人権や社会正義の価値に裏打ちされた社会福祉学の専門的及び実践的な知識・技術を修得するために11科目群を設定している。科目群を構成する科目については、基礎から応用・発展段階へと連続的に配置している。

基礎段階では、11科目群のうち、「基本科目」・「社会福祉制度科目」・「からだところろの理解科目」を置いている。基礎及び応用段階に属する科目群として、「ソーシャルワーク基礎科目」・「介護福祉理解科目」を置いている。加えて応用段階では、科目群として、「地域・国際福祉科目」・「社会復帰支援科目」を置いている。応用及び発展段階に属する科目群として、「ソーシャルワーク実践科目」・「介護福祉実践科目」・「精神保健福祉実践科目」・「総合科目」を置いている。

(履修方法・順序)

基礎段階の科目は、主に1～2年次に履修する。応用段階の科目は、主に2～3年次に履修する。発展段階の科目は、主に3～4年次に履修する。また、社会福祉領域における

ソーシャルワークに必要な知識と技術を担保する前提となる資格として、社会福祉士国家試験受験資格を位置づけており、加えて、希望により介護福祉士国家試験受験資格又は精神保健福祉士国家試験受験資格も取得することができる。

（教育方法）

各科目については、事前・事後課題、グループ討議、リアクションペーパーなどを取り入れ、アクティブラーニングを重視した教育方法により展開する。特に応用段階及び発展段階の各科目では、基礎段階で学んだ知識・技術を定着・深化させ、専門職としての社会福祉実践に求められる総合的な知識・技術や社会福祉学を探究する力を身につけるために、少人数での演習・実習形式を積極的に取り入れる。

（評価）

学部のディプロマ・ポリシーに基づいて各授業科目の具体的な到達目標を定め、成績評価の基準・方法と共に学生に周知している。各段階及び各科目の特性に応じた多面的な評価方法を取り入れ、社会福祉専門職にふさわしい資質能力を獲得できたかについて、科目ごとに定める評価項目と基準に沿った成績評価を行う。さらに学生による教育に関する評価結果に基づいて、カリキュラムの改善を図り、教育の質の保証を行う。

【アドミッション・ポリシー】

社会福祉学部は、福祉の現代的課題に対応する、深い人間理解や人権尊重の精神に裏打ちされた専門的知識と実践的知識と実践的技能を教授研究することにより、共感する心と豊かな人間性をもって、社会生活で生じるさまざまな問題に主体的に対応できる福祉的実践能力を修得させ、社会の幅広い分野で福祉の向上に寄与できる有為な人材を養成します。

したがって、社会福祉学部では、次のような人を求めています。

求める学生像

- 1 高等学校等で学ぶ基本的な科目の学力を有する人〔知識・教養〕
- 2 人に対して関心を持ち、協調性を大切にして柔軟に行動できる人〔思考力・判断力・表現力〕
- 3 自ら行動することによって、課題の発見や分析を行うことができる人〔思考力・判断力・表現力〕
- 4 地域や家族の福祉課題に関心を持ち、その解決方法を学びたい人〔熱意・意欲〕
- 5 他者と協働して、人々の生活を支え、よりよい地域社会を創造したい人〔熱意・意欲、主体性・協働性〕

入学者選抜の基本方針

社会福祉学部が行う入学者の選抜方法には、一般選抜（前期日程・後期日程）、学校推薦型選抜（県内・全国）、社会人選抜、私費外国人留学生選抜があります。

・一般選抜（前期日程）

基礎学力の把握のため、学部が指定する大学入学共通テスト教科・科目を課すとともに、個別学力検査等では面接を行います。面接は、課題図書の内容を中心とした個別形式で行います。面接では、社会福祉への熱意・意欲を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断す

る観点から、受験者の思考力・判断力・表現力等の様々な能力を総合的に評価します。面接者は、調査書も参考にして質問します。

- ・一般選抜（後期日程）

基礎学力の把握のため、学部が指定する大学入学共通テスト教科・科目を課すとともに、個別学力検査等では面接を行います。面接は、自己PR書の内容を中心とした個別形式で行います。面接では、社会福祉への熱意・意欲を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の思考力・判断力・表現力等の様々な能力を総合的に評価します。面接者は、調査書も参考にして質問します。

- ・学校推薦型選抜（県内・全国）

学校長が推薦する者を対象として、調査書により基礎学力を評価するとともに、当日指定するテーマに関するレポート及び集団討論、面接を行います。レポートでは、知識、思考力、表現力等を評価します。集団討論では、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度等を評価します。面接では、社会福祉への熱意・意欲を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の思考力・判断力・表現力等の様々な能力を総合的に評価します。面接者は、調査書・志望動機書・推薦書も参考にして質問します。

- ・社会人選抜

社会人の経験を有する者を対象として、小論文と面接を課します。小論文では、社会福祉学部で学ぶ上で必要な理解力、論理的思考力、文章表現力及び英文読解力等、高等学校等での学習を前提にした基礎的な学力を総合的に評価します。面接は、志望動機書及び履歴書を中心とした個別形式で行います。面接では、社会福祉への熱意・意欲を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の思考力・判断力・表現力等の様々な能力を総合的に評価します。

- ・私費外国人留学生選抜

日本国籍を有しない者を対象として、日本留学試験の日本語と総合科目を課すとともに、面接を行います。面接は、志望動機書の内容を中心とした個別形式で行います。面接では、社会福祉への熱意・意欲や日本語によるコミュニケーション能力を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の思考力・判断力・表現力等の様々な能力を総合的に評価します。

目 次

I. 2023年度を振り返る

1. 社会福祉学部活動の概要及び自己点検評価 1
2. 2023年度 社会福祉学部の主要行事 4
3. 2023年度 社会福祉学部時間割 5

II. 社会福祉学部教員の教育研究活動（教育研究活動報告書）

社会福祉学部社会福祉学科 教員一覧（2023年度）	7
1. 杉原俊二	9
2. 田中きよむ	12
3. 長澤紀美子	16
4. 西内章	19
5. 横井輝夫	22
6. 河内康文	24
7. 遠山真世	26
8. 西梅幸治	28
9. 福間隆康	31
10. 矢吹知之	33
11. 大井美紀	36
12. 加藤由衣	38
13. 田中真希	40
14. 辻真美	42
15. 行貞伸二	46
16. 稲垣佳代	48
17. 上杉麻理	51
18. 大熊絵理菜	53
19. 片岡妙子	55
20. 玉利麻紀	57
21. 福田敏秀	60
22. 湯川順子	63

Ⅲ. 社会福祉学部教員の委員会活動（委員会活動年度報告書）

社会福祉学部社会福祉学科 委員会体制一覧（2023 度）	65
1. 教 務 委 員 会	66
2. 入 試 委 員 会	68
3. 学 生 委 員 会	70
4. 実 習 委 員 会	71
5. 就 職 委 員 会	73
6. 広 報 委 員 会	74
7. 介 護 人 材 確 保 部 会	75
8. キャリア支援委員会	81
9. 健康長寿センター	84
10. 高知医療センター・高知県立大学包括的連携協議会	85
11. 災害対策プロジェクト	89
12. 総務・予算委員会	91
13. 国試対策支援委員会	92

Ⅳ. 学生を中心とした活動

1. 国家試験に向けての取り組み	94
2. P シ ス タ ー ズ	95
3. イ ケ あ い	96
4. か ん き も ん	97

Ⅴ. 卒業論文題目一覧（2023 年度）

編 集 後 記

I

2023年度を振り返る

社会福祉学部活動の概要及び自己点検評価

学部自己点検評価委員会【学部長 長澤 紀美子】

1. 学部の組織・教員体制

○2021年度迄の退職者4名、2022年度9月に1名、2022年度末に定年退職者1名に対し、R5年度より3名が入職、助教1名が講師に昇任し、計21名体制。

(職位構成：教授5名、准教授5名、講師4名、助教7名)。

○10月からは精神保健福祉コースに特任講師1名を採用。

特任を含めた教員構成(分野別)は、福祉基礎4名、社会福祉9名、介護福祉6名、精神保健福祉3名(計22)。

○2023年度末に2名の退職者があり、2024年度より1名採用。3名昇任(准教授から教授へ：2、助教から講師へ：1)。

2. 教育(専門教育の質の向上に資する活動)

1) 目標

- ①R3年度からの社士・精神の新カリキュラムの完成年度を迎え、課題を整理する。
- ②【教育の質保証】DPとCPとの関連、DPの見直しの検討/授業評価やルーブリック評価の活用、アセスメントプランによるデータの可視化(全学)
- ③データサイエンス科目の履修指導及びICTを用いた専門教育の検討【継続】
- ④国試対策を強化し、3福祉士の国家試験の合格率の向上に繋げる。【継続】

2) 実施状況& 3) 評価

①CPの用語の修正、DPについては特に変更なし。

②DPに基づいた学修成果の評価指標による学習到達度評価アンケートを4回生に実施。

学習到達度アンケート(32項目4件法)において、「DPで目指す項目」では、最も高い4/高い3の評価の合計は、令和2年度が97%、令和3年度が99%、令和4年度が97%、令和5年度が99%となり、昨年を上回った。「4年間の学習についての満足度」項目では、最も高い4/高い3評価の合計は、92%であった。双方から、本学部の教育の質は保証されていると考えられる。また卒業研究のルーブリック評価(修正版)は、実際の成績評価との相関係数(r)については、0.88(p=0.00)の高い相関を示し、妥当性が担保されたと思われる。今後も学習成果の経年的推移を確認し、教育の質保証に取り組んでいく。

- ・卒業研究とルーブリック評価との高い相関により、妥当性が確保されている。
- ・CAP制への対応については、引き続き検討(3福祉士の高い合格率の優位)。

③データサイエンス科目の履修指導の強化により履修生が増加。

④国家試験対策(国試対策委員会)

国試合格率の維持・向上に向けて、4回生に対して、専任教員による国試対策講座9科目18講座及び卒業生による対策講座2講座、過去問対策4回、模擬試験3回、学生自身が企画する国試対策勉強会(2回)を実施し、74名が参加した。

※第23期生(2023年度卒業生)の3福祉士合格率

- ・社会福祉士 68/72=94.4%(平均58.1%) [全国2位/52校]* *受験者50人以上/新卒
- ・精神保健福祉士 22/22=100.0%(平均70.4%) [1位/88校]** **受験者10人以上
- ・介護福祉士 19/19=100.0%(平均:82.8%) [1位/244校]** **受験者10人以上

2023 年度を振り返る

4) 次年度の目標 (教務委員会のR6度活動計画を参照)

- ①DPの時代の変化に合わせた検討、新カリの課題の整理を踏まえての改善
- ②【教育の質保証】DPとCPとの関連、DPの見直しの検討／授業評価やルーブリック評価の活用の検討、アセスメントプランによるデータの可視化(全学)【継続】
- ③データサイエンス科目の履修指導及びICTを用いた専門教育の検討【継続】
- ④国試対策を強化し、3福祉士の国家試験の合格率の向上に繋げる。【継続】

3. 研究(研究の質の向上に資する活動)

1) 目標: 研究活動の活性化

2) 実施状況& 3) 評価

○2024年度科研費の応募・採択状況

応募率69%(応募可能者13名中9件応募)、3件採択で採択率33.3%、2023年度は8件応募、3件採択で採択率37.5%、2022年度は9件応募、4件採択で採択率44.4%(他に22~24文科省実践研究1件あり)。

R5年度に科研費の研究代表者16名(教員21名中76%)、研究課題は18。科研費の研究分担者としての参画4名。その他外部資金による研究課題(研究代表者4、分担者3)。

○教員の研究業績

- ・『高知県立大学紀要(社会福祉学部編)』第73巻に7編掲載(論文3、論説1、報告3)。
- ・研究成果としては著書7編(日本語共著6、その他の言語の共著1)、和文査読付論文14編(内筆頭8)、英文査読付き論文4(内筆頭2)、和文その他論文(報告)等22編(内筆頭16)、日本語学会発表25件(内筆頭または単独19)。

○FD活動(FD委員会)

- ・令和4年度の成果と課題をふまえ、学部FDを年間6回開催、内ゲストスピーカーを招いたものが3回(若年性認知症当事者や精神医療の研究者)、研究倫理1回、研究方法・研究成果の公表や投稿について2回、計6回実施し、参加率は65~90%。

4) 次年度の目標

研究の活性化及び教育の質保証を目的としたFDを継続的体系的に行うとともに、地域関係者の参画による共同研究の推進や、若手教員を対象とした研究支援を強化する。

4. 2024(R6) 年度入試及び入試広報

1) 目標: 受験生確保及びそれに向けた入試広報の継続

2) 実施状況& 3) 評価

- ・入試課、教育研究戦略課と連携しながら、学部教員が県内35校、県外52校を高校訪問。高校から指導が難しいとの声もあった学校推薦型選抜における集団討論に関する情報をHP上に公開し、高校訪問時やオープンキャンパスにおいてわかりやすい説明を補足した。
- ・OC(オープンキャンパス)の社会福祉学部のOC参加者
総申込者数: 237人(内高校生 133人)
- ・第27期生76名(県内出身34名、男子15名、私費外国人2名、社会人1名)が入学。

内訳: ①学校推薦型入試

県内〔20名〕: 志願・受験26名 > 合格・入学20名 志願倍率1.3倍

全国〔10名〕: 志願・受験15名 > 合格・入学10名 志願倍率1.5倍

②前期日程入試〔35名〕: 志願139名 > 受験125名 > 合格41名 > 入学33名

志願倍率4.0倍、合格倍率3.0倍

2023 年度を振り返る

- ③後期日程入試 [5名]：志願75名＞受験29名＞合格10名＞入学10名
志願倍率15.0倍、合格倍率2.9倍。
- ④留学生入試 [若干名]：志願6名＞受験5名＞合格2名＞入学2名(韓国・中国)
- ⑤社会人入試 [若干名]：志願1名＞受験1名＞合格1名＞入学1名
- ※すべての入試枠で昨年度より出願者増加。

4) 次年度の目標

- ・引き続き入試課と協力し、学部教員全員態勢により高校訪問を行い、要因分析の上で、今後の中長期的な志願者確保策を検討する。
- ・対面及びHP上でR7年度からの配点変更や入試方法に関する情報提供を行う。
- ・学部HPを抜本的に改善(全学広報室)社会福祉学の魅力、卒業生の進路や福祉職のやりがいなどについて発信する。

5. 就職・進路状況

- ・第23期生卒業生(+22期卒1名を含む)79名のうち就職希望者75名、内4月末までに就職決定75名(100%)【県内23名(31%)、県外52名(69%)】

【福祉施設等28名(37.3%)、医療機関18名(24%)、公務員等12名(16%)、社会福祉協議会10名(13.3%)、一般企業7名(9.3%)】

※学部教員の丁寧なサポートにより100%を継続。

⇒R6年度：R5年度と同様の就職率100%を継続

6. 地域貢献活動

- ・高知県との連携事業(補助金)として「高知県キャリア教育推進事業」を実施。7/29(OC兼)、9/23(職場見学ツアー)、10/22(福祉体験ツアー)、3/21(新2・3年生のための入門講座：対面・オンライン)に開催した4回の集合研修で延べ348人(高校生及び保護者、外部講師、学生、スタッフなど含む)、県内10高校への訪問型講座で延べ248人(高校生及び高校教員、外部講師、学生、スタッフなど含む)が参加した。

⇒R6年度：キャリア支援事業の訪問型講座県内10高校⇒12高校へ追加、4回の集合研修は変わらず継続して実施する。

- ・リカレント教育講座2講座を同日に対面・遠隔のハイブリッドで配信し、併せて71人が参加(10/14)(健康長寿センターの事業を通して、一般市民や高校生へ講座の案内を行い参加を促した)。

⇒R6年度：R5年度と同様の水準で事業を継続する。

7. 卒業生への支援

- ・卒業生に対する支援として実施している領域別リカレント研究会を4分野で実施し、のべ30名が参加(SW学習会7,SSW学習会11,児童福祉4,精神8)。／卒業生・在学生・教員をつなぐ学内講演会(研究と社会正義)を実施し、241名が参加(6/12)

⇒R6年度：R5年度と同様の水準で事業を継続する。

8. 国際交流活動

協定校である韓国・慶尚国立大校への短期研修を9月に実施(引率教員2、学生8名参加)。事前学習で韓国の文化や福祉を学び、帰国後1月18日に報告会を開催し、報告書を発行した。6月にはアメリカ・エルムズ大学短期研修の受入行事の一環として、社会福祉学部学生等との交流会を実施し、8名の学部生が参加し、日本文化の紹介等を行った。

⇒R6年度：韓国短期研修について課題整理と次年度実施に向けた体制整備を行う。

2023年度社会福祉学部の主要行事

4月	5日(水)	学生ガイダンス
	6日(木)	入学式 (26期生 72名)
	7日(金)	学生ガイダンス
	7日(金)	第1回連絡会・教授会
	10日(月)	前期授業開始 (~8月8日)
	14日(金)	第2回連絡会・教授会
	27日(木)	第3回連絡会・教授会
5月	1日(月)	第4回連絡会・教授会
	8日(月)	介護福祉実習(介護実習Ⅰ) 報告会
	19日(金)	第5回連絡会・教授会
	22日(月)	第6回連絡会・教授会
	29日(月)	実習連絡協議会(相談援助実習・ソーシャルワーク実習)
	31日(水)	第7回連絡会・教授会
6月	26日(月)	第8回連絡会・教授会
7月	24日(月)	第9回連絡会・教授会
	29日(土)	EVENT1: 社会福祉の事を分かりやすく学ぶ・オープンキャンパス
	31日(月)	介護福祉実習連絡協議会/介護福祉実習(介護実習Ⅲ) 報告会
9月	7日(木)	第10回連絡会・教授会
	10-17(日-日)	韓国慶尚国立大 短期派遣研修
	23日(土・祝)	EVENT2: 県大生と行く職場見学ツアー
	25日(月)	第11回連絡会・教授会
10月	2日(月)	後期授業開始 (~2月20日)
	4日(水)	第12回連絡会・教授会
	10日(火)	第13回連絡会・教授会
	14日(土)	リカレント教育講座 ハイブリッド開催
	20日(金)	第14回連絡会・教授会
	22日(日)	EVENT3: 県大生と行く最新の福祉体験ツアー
	24日(火)	第15回、16回連絡会・教授会
	25日(水)	卒業研究中間発表会
	26日(木)	第17回連絡会・教授会
11月	6日(月)	介護福祉実習(介護実習Ⅱ) 報告会
	27日(月)	第18回、19回連絡会・教授会
12月	12日(火)	第20回連絡会・教授会
	21日(木)	第21回連絡会・教授会
	25日(月)	第22回連絡会・教授会
1月	22日(月)	第23回連絡会・教授会
	28日(日)	第36回介護福祉士国家試験
	29日(月)	第24回連絡会・教授会
2月	3-4日(土-日)	第26回精神保健福祉士国家試験・第36回社会福祉士国家試験
	5日(月)	第25回連絡会・教授会
	9日(金)	卒業研究発表会
	16日(金)	第26回連絡会・教授会
3月	4日(月)	第27回、28回連絡会・教授会
	5日(火)	精神保健福祉援助実習連絡協議会
	19日(火)	卒業式(県民文化ホール、23期79名卒業)
	19日(火)	第29回連絡会・教授会
	21日(木)	EVENT4: 新2・3年生のための入門講座(対面&WEB開催)
	25日(月)	第30回連絡会・教授会

令和5年度 社会福祉学部 時間割 <前期>

月	1時間		2時間		3時間		4時間		5時間		
	8:50~10:20	10:30~12:00	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50	教員	教室	教員	教室	教員	教室
月	1 地味学概論	英語コミュニケーションC	土佐の食と健康			廣内	A306				
	2 英語コミュニケーションII 基礎プレゼンテーション	英語コミュニケーションC	介護生活支援技術I	(介護)生活支援技術I	F110	田中真・片岡	F110				
	3 英語コミュニケーションII 基礎プレゼンテーション	ソーシャルワーク演習III	ソーシャルワーク演習IV	女性性権能が入ることがある	E103 E102 E103 E204 D222 F207	長澤 田中真・片岡・大塚 山崎	E103 大講義室	長澤 田中真・行員	E103 大講義室	長澤	E103
	4 福祉と健康と安全	社会福祉史が入ることがある	社会福祉史	権利関係論	大講義室	行員	大講義室	名和 鈴木(康)	D207 A306	名和 風間	D207 A318
火	1 介護の基礎と基本I	基礎化学	介護介護の基本I	社会福祉の原理と改変I	A306	長澤・行員	大講義室	鈴木(康)	A306		
	2 介護の基礎と基本II	介護介護の基本II	ソーシャルワーク演習I	(介護)生活支援技術III	F110	田中真・上杉	F110	田中真・上杉	F110		
	3 介護の基礎と基本III	精神保健福祉援助実習指導I	精神保健福祉援助実習指導I	精神保健福祉援助実習指導II	E102 D221 D222	横井	E102	福岡ほか	E102 E103 E204 D207	福岡ほか	E103
	4 介護の基礎と基本IV	社会福祉論I	社会福祉論I	日本国憲法	D221	田中真	大講義室	若清	D221 D222	風間	大講義室
水	1 介護の基礎と基本V	介護介護の基本V	介護介護の基本V	心理学と心理的支援	A306	杉原・玉利	大講義室	杉原・玉利	A306		
	2 介護の基礎と基本VI	介護介護の基本VI	介護介護の基本VI	高齢者福祉論II	E102	福岡	E102	福岡	F110		
	3 介護の基礎と基本VII	介護介護の基本VII	介護介護の基本VII	ソーシャルワークの理論と方法IV	E103	西崎	E103	細理	F110		
	4 介護の基礎と基本VIII	介護介護の基本VIII	介護介護の基本VIII	介護介護の基本VIII	E103	西内	大講義室	池添・源田・西内	大講義室		
木	1 介護の基礎と基本IX	介護介護の基本IX	介護介護の基本IX	介護介護の基本IX	E103	横井	E103	横井	F110		
	2 介護の基礎と基本X	介護介護の基本X	介護介護の基本X	介護介護の基本X	E103	横井	E103	横井	F110		
	3 介護の基礎と基本XI	介護介護の基本XI	介護介護の基本XI	介護介護の基本XI	E103	横井	E103	横井	F110		
	4 介護の基礎と基本XII	介護介護の基本XII	介護介護の基本XII	介護介護の基本XII	E103	横井	E103	横井	F110		
金	1 介護の基礎と基本XIII	介護介護の基本XIII	介護介護の基本XIII	介護介護の基本XIII	E103	横井	E103	横井	F110		
	2 介護の基礎と基本XIV	介護介護の基本XIV	介護介護の基本XIV	介護介護の基本XIV	E103	横井	E103	横井	F110		
	3 介護の基礎と基本XV	介護介護の基本XV	介護介護の基本XV	介護介護の基本XV	E103	横井	E103	横井	F110		
	4 介護の基礎と基本XVI	介護介護の基本XVI	介護介護の基本XVI	介護介護の基本XVI	E103	横井	E103	横井	F110		
土	1 介護の基礎と基本XVII	介護介護の基本XVII	介護介護の基本XVII	介護介護の基本XVII	E103	横井	E103	横井	F110		
	2 介護の基礎と基本XVIII	介護介護の基本XVIII	介護介護の基本XVIII	介護介護の基本XVIII	E103	横井	E103	横井	F110		
	3 介護の基礎と基本XIX	介護介護の基本XIX	介護介護の基本XIX	介護介護の基本XIX	E103	横井	E103	横井	F110		
	4 介護の基礎と基本XX	介護介護の基本XX	介護介護の基本XX	介護介護の基本XX	E103	横井	E103	横井	F110		
日	1 介護の基礎と基本XXI	介護介護の基本XXI	介護介護の基本XXI	介護介護の基本XXI	E103	横井	E103	横井	F110		
	2 介護の基礎と基本XXII	介護介護の基本XXII	介護介護の基本XXII	介護介護の基本XXII	E103	横井	E103	横井	F110		
	3 介護の基礎と基本XXIII	介護介護の基本XXIII	介護介護の基本XXIII	介護介護の基本XXIII	E103	横井	E103	横井	F110		
	4 介護の基礎と基本XXIV	介護介護の基本XXIV	介護介護の基本XXIV	介護介護の基本XXIV	E103	横井	E103	横井	F110		
前期	1 介護の基礎と基本XXV	介護介護の基本XXV	介護介護の基本XXV	介護介護の基本XXV	E103	横井	E103	横井	F110		
	2 介護の基礎と基本XXVI	介護介護の基本XXVI	介護介護の基本XXVI	介護介護の基本XXVI	E103	横井	E103	横井	F110		
	3 介護の基礎と基本XXVII	介護介護の基本XXVII	介護介護の基本XXVII	介護介護の基本XXVII	E103	横井	E103	横井	F110		
	4 介護の基礎と基本XXVIII	介護介護の基本XXVIII	介護介護の基本XXVIII	介護介護の基本XXVIII	E103	横井	E103	横井	F110		
集中講義	1 介護の基礎と基本XXIX	介護介護の基本XXIX	介護介護の基本XXIX	介護介護の基本XXIX	E103	横井	E103	横井	F110		
	2 介護の基礎と基本XXX	介護介護の基本XXX	介護介護の基本XXX	介護介護の基本XXX	E103	横井	E103	横井	F110		
	3 介護の基礎と基本XXXI	介護介護の基本XXXI	介護介護の基本XXXI	介護介護の基本XXXI	E103	横井	E103	横井	F110		
	4 介護の基礎と基本XXXII	介護介護の基本XXXII	介護介護の基本XXXII	介護介護の基本XXXII	E103	横井	E103	横井	F110		

この色は令和5年度から始まる新カリキュラム(または新カリリ科目)を示す

令和5年度 社会福祉学部 時間割 <後期>

月	1時間			2時間			3時間			4時間			5時間		
	教室	教員	科目	教室	教員	科目	教室	教員	科目	教室	教員	科目	教室	教員	科目
月	8:50~10:20	英語コミュニケーションII 応用プレゼンテーション	英語コミュニケーションID (別途記載)	13:00~14:30	土佐の自然と暮らし 土佐の歴史と文化	14:40~16:10	※介護総合演習Iが入ることもある	16:20~17:50							
	10:30~12:00	英語コミュニケーションID (別途記載)	英語コミュニケーションID (別途記載)	13:00~14:30	福祉研究法入門	14:40~16:10		16:20~17:50							
	10:30~12:00	英語コミュニケーションII 応用プレゼンテーション	英語コミュニケーションID (別途記載)	13:00~14:30	福祉研究法入門	14:40~16:10	※介護総合演習Iが入ることもある	16:20~17:50							
	10:30~12:00	英語コミュニケーションII 応用プレゼンテーション	英語コミュニケーションID (別途記載)	13:00~14:30	福祉研究法入門	14:40~16:10	※介護総合演習Iが入ることもある	16:20~17:50							
火	8:50~10:20	医学概論	医学概論	13:00~14:30	ケアマネジメント演習	14:40~16:10		16:20~17:50							
	10:30~12:00	社会学の原理と政策II	社会学の原理と政策II	13:00~14:30	社会学と社会システム	14:40~16:10	ソーシャルワークの基礎と専門職I	16:20~17:50	健康スポーツ科学II(社福)	清原	健康スポーツ科学II(社福)	清水			
	10:30~12:00	社会学の原理と政策II	社会学の原理と政策II	13:00~14:30	社会学と社会システム	14:40~16:10	ソーシャルワークの基礎と専門職I	16:20~17:50	健康スポーツ科学II(社福)	清水	健康スポーツ科学II(社福)	清水			
	10:30~12:00	社会学の原理と政策II	社会学の原理と政策II	13:00~14:30	社会学と社会システム	14:40~16:10	ソーシャルワークの基礎と専門職I	16:20~17:50	健康スポーツ科学II(社福)	清水	健康スポーツ科学II(社福)	清水			
水	8:50~10:20	対人関係とメンタルヘルス	心理学 社会保険論II	13:00~14:30	健康とヘルスプロモーション	14:40~16:10	データサイエンス入門	16:20~17:50	基礎ジェンダー学 高齢者福祉論I	長澤・岩崎 福田	基礎ジェンダー学 高齢者福祉論I	長澤・岩崎 福田			
	10:30~12:00	社会学の原理と政策II	社会学の原理と政策II	13:00~14:30	社会学と社会システム	14:40~16:10	ソーシャルワークの基礎と専門職I	16:20~17:50	健康スポーツ科学II(社福)	清水	健康スポーツ科学II(社福)	清水			
	10:30~12:00	社会学の原理と政策II	社会学の原理と政策II	13:00~14:30	社会学と社会システム	14:40~16:10	ソーシャルワークの基礎と専門職I	16:20~17:50	健康スポーツ科学II(社福)	清水	健康スポーツ科学II(社福)	清水			
	10:30~12:00	社会学の原理と政策II	社会学の原理と政策II	13:00~14:30	社会学と社会システム	14:40~16:10	ソーシャルワークの基礎と専門職I	16:20~17:50	健康スポーツ科学II(社福)	清水	健康スポーツ科学II(社福)	清水			
木	8:50~10:20	英語コミュニケーションII 応用プレゼンテーション	英語コミュニケーションID (別途記載)	13:00~14:30	英語コミュニケーションID (別途記載)	14:40~16:10	英語コミュニケーションID (別途記載)	16:20~17:50	英語コミュニケーションID (別途記載)	清水 原崎	英語コミュニケーションID (別途記載)	清水 原崎			
	10:30~12:00	英語コミュニケーションII 応用プレゼンテーション	英語コミュニケーションID (別途記載)	13:00~14:30	英語コミュニケーションID (別途記載)	14:40~16:10	英語コミュニケーションID (別途記載)	16:20~17:50	英語コミュニケーションID (別途記載)	清水 原崎	英語コミュニケーションID (別途記載)	清水 原崎			
	10:30~12:00	英語コミュニケーションII 応用プレゼンテーション	英語コミュニケーションID (別途記載)	13:00~14:30	英語コミュニケーションID (別途記載)	14:40~16:10	英語コミュニケーションID (別途記載)	16:20~17:50	英語コミュニケーションID (別途記載)	清水 原崎	英語コミュニケーションID (別途記載)	清水 原崎			
	10:30~12:00	英語コミュニケーションII 応用プレゼンテーション	英語コミュニケーションID (別途記載)	13:00~14:30	英語コミュニケーションID (別途記載)	14:40~16:10	英語コミュニケーションID (別途記載)	16:20~17:50	英語コミュニケーションID (別途記載)	清水 原崎	英語コミュニケーションID (別途記載)	清水 原崎			
金	8:50~10:20	英語コミュニケーションII 応用プレゼンテーション	英語コミュニケーションID (別途記載)	13:00~14:30	英語コミュニケーションID (別途記載)	14:40~16:10	英語コミュニケーションID (別途記載)	16:20~17:50	英語コミュニケーションID (別途記載)	清水 原崎	英語コミュニケーションID (別途記載)	清水 原崎			
	10:30~12:00	英語コミュニケーションII 応用プレゼンテーション	英語コミュニケーションID (別途記載)	13:00~14:30	英語コミュニケーションID (別途記載)	14:40~16:10	英語コミュニケーションID (別途記載)	16:20~17:50	英語コミュニケーションID (別途記載)	清水 原崎	英語コミュニケーションID (別途記載)	清水 原崎			
	10:30~12:00	英語コミュニケーションII 応用プレゼンテーション	英語コミュニケーションID (別途記載)	13:00~14:30	英語コミュニケーションID (別途記載)	14:40~16:10	英語コミュニケーションID (別途記載)	16:20~17:50	英語コミュニケーションID (別途記載)	清水 原崎	英語コミュニケーションID (別途記載)	清水 原崎			
	10:30~12:00	英語コミュニケーションII 応用プレゼンテーション	英語コミュニケーションID (別途記載)	13:00~14:30	英語コミュニケーションID (別途記載)	14:40~16:10	英語コミュニケーションID (別途記載)	16:20~17:50	英語コミュニケーションID (別途記載)	清水 原崎	英語コミュニケーションID (別途記載)	清水 原崎			

この色は令和5年度から始まる新カリ名(または新カリ科目)を示す

科目名等	教員	開講月日
異文化理解海外フィールドワーク	高西	開講月日
地域学実習I	高西	通年
地域学実習II	秋谷・清原	通年
地域学実習III	秋谷・清原	通年
チーム形成論	秋谷	通年
介護実習I	田中真・河内・片岡・上杉	別途連絡
介護実習II	田中真・河内・片岡・上杉	通年(別途連絡)
介護実習III	田中真・河内・片岡・上杉	通年(別途連絡)
介護実習IV	田中真・河内・片岡・上杉	通年(別途連絡)
ソーシャルワーク実習I	福岡他	通年(別途連絡)
ソーシャルワーク実習II	福岡他	通年(別途連絡)
ソーシャルワーク実習III	福岡ほか	通年(別途連絡)
精神医学I・II	山崎	別途連絡
精神保健福祉援助実習I	福岡・玉利	通年(別途連絡)
精神保健福祉援助実習II	福岡・玉利	通年(別途連絡)
介護総合演習I	田中真・河内・片岡・上杉	通年(別途連絡)
介護総合演習II	片岡・河内・上杉・田中	通年(別途連絡)
地域福祉活動	田中真	別途連絡
福祉行政と福祉計画(4回生)	田中真	別途連絡

II

社会福祉学部教員の教育研究活動
(教育研究活動報告書)

社会福祉学部社会福祉学科 教員一覧（2023年度）

職 位	氏 名	学 位	専 門 分 野
教 授	杉 原 俊 二	博 士（医 学）	児童・家庭福祉論／心理療法
教 授	田 中 きよむ	修 士（経 済 学）	社 会 保 障 論
教 授	長 澤 紀 美 子	博 士（学 術）	福祉政策/国際福祉/女性福祉
教 授	西 内 章	博 士（臨床福祉学）	ソーシャルワーク論
教 授	横 井 輝 夫	博 士（保 健 学）	リハビリテーション科学
准教授	河 内 康 文	博 士（社会福祉学）	介 護 福 祉 論
准教授	遠 山 真 世	博 士（社会福祉学）	障 害 者 福 祉 論
准教授	西 梅 幸 治	博 士（福祉社会学）	ソーシャルワーク論
准教授	福 間 隆 康	博 士（マネジメント）	福祉施設運営管理論
准教授	矢 吹 知 之	博 士（教育情報学）	保 健 福 祉 学
特 任 講 師	大 井 美 紀	博 士（看 護 学）	精神保健福祉援助技術論
講 師	加 藤 由 衣	博 士（福祉社会学）	児 童 ・ 家 庭 福 祉 論
講 師	田 中 眞 希	博 士（社会福祉学）	介 護 福 祉 論
講 師	辻 真 美	博 士（社 会 学）	介 護 福 祉 論
講 師	行 貞 伸 二	修 士（社会福祉学）	生 活 困 窮 者 支 援
助 教	稲 垣 佳 代	修 士（社会福祉学）	精神保健福祉援助技術論
助 教	上 杉 麻 理	修 士（社会福祉学）	介 護 福 祉 論

教育研究活動報告書（教員一覧）

助 教	大 熊 絵 理 菜	修 士（社会福祉学）	医 療 福 祉 論
助 教	片 岡 妙 子	修 士（看 護 学）	介 護 福 祉 論
助 教	玉 利 麻 紀	修 士（人 間 科 学）	精神保健福祉援助技術論
助 教	福 田 敏 秀	博 士（保 健 学）	高 齢 者 福 祉 論
助 教	湯 川 順 子	博 士（創 造 都 市）	地 域 福 祉 論

杉原 俊二

Shunji SUGIHARA

○ 研究活動

（1）論文（原著・研究ノート・書評）（7件）

1. 杉原俊二「自分史の描き方（Ⅰ）—個人の年表から発想する—」『人間科学』104, 2-7. (2023年5月)
2. 杉原俊二「自分史の描き方（Ⅱ）—放送作家になったHさんのその後（前編）—」『人間科学』105, 2-7. (2023年7月)
3. 杉原俊二「自分史の描き方（Ⅲ）—放送作家になったHさんのその後（中編）—」『人間科学』106, 2-7. (2023年9月)
4. 杉原俊二「自分史の描き方（Ⅳ）—放送作家になったHさんのその後（後編）—」『人間科学』107, 2-7. (2023年11月)
5. 杉原俊二「自分史の描き方（Ⅴ）—再び個人の年表から発想する—」『人間科学』108, 2-7. (2024年1月)
6. 杉原俊二「『面接技法』のシラバス研究」『人間科学』109, 2-7. (2024年3月)
7. 杉原俊二「書評『オープンダイアログとは何か』（斎藤環著訳）」『ふまにすむす』35, 69-75. (2024年3月)

（2）学会発表等（3件）

1. 杉原俊二「社会的養護研究の自分史（Ⅰ）—社会的養護研究の振り返りと近年の家庭的養護・家庭養護への移行と混乱—」日本社会福祉学会中国四国地域ブロック第54回島根大会（島根大学）2023年7月8日
2. 杉原俊二「これまでとこれからの自分史分析研究の進め方—『自分史分析20周年』から考えたこと—（特別講演）」日本人間科学研究会第21回大会（聖学院大学：ハイブリッド）2024年1月6日
3. 杉原俊二「稼げるユーチューバーになりたかった小学生への支援—SNS時代の不登校3事例から—」日本人間科学研究会第21回大会（聖学院大学：ハイブリッド）2024年1月6日

○ 教育活動

（1）学部：講義・演習

「心理学と心理的支援」（1回生前期8コマ分、看護学科「心理学理論と心理的支援」を同時開講）、「発達と老化の理解Ⅰ」（2回生後期）、「面接技法」（3回生後期）、「実践記録法」（4回生前期）、「社会福祉基礎演習Ⅰ・Ⅱ」（3回生7名）、「社会福祉基礎演習Ⅲ・Ⅳ」（4回生7名）

（2）大学院：講義・演習

人間生活学研究科（博士前期課程）：「研究と倫理」、「家庭支援福祉論」、「社会福祉学課題研究

教育研究活動報告書（杉原 俊二）

演習」（主指導 1 名＋研究生 1 名）、（博士後期課程）「社会福祉学特別研究Ⅱ」（主指導 1 名）

○ 委員会活動

- (1) 大学院人間生活学研究科長（「研究科委員会（議長）」、「部局長会議」「教育研究審議会」）
- (2) 全学委員「紀要委員会（委員長）」「入学試験委員会」「大学院入学試験実施委員会」「非常勤講師審査委員会」「奨学金返還免除選考会委員会」「学術研究戦略委員」「戦略的研究プロジェクト審査会・中間審査会」「大学院研究助成金審査委員会」「国内・国際研修審査委員会」「自己点検・評価運営委員会」「不正防止委員会」「後援会学生研究等支援事業審査会委員会」「大学院あり方検討部会」「大学教育改革委員会」「学生懲罰委員会」
- (3) 学部委員「人事関係検討会」「自己点検委員会」「教員評価部会」

○ 社会的活動

(1) 社会活動

高知県児童福祉審議会委員（8回参加）、高知県社会福祉協議会理事選考委員、高知県教育委員会スクールソーシャルワーカースーパーバイザー

(2) 学会など

人間科学研究会（常務理事・会報編集委員）、K J 法学会（運営委員・編集委員）、日本社会福祉学会中国四国地域ブロック（運営委員：研究担当）・所属学会等の編集協力（査読者）

(3) 講演など

1. 不登校児童生徒の多様な教育機会確保に関する協議会：5月19日（高知県教育委員会事務局）
2. スクールソーシャルワーカー連絡協議会：1月26日3時間（高知青少年の家）。
3. スクールソーシャルワーカー研修会：2月24日3時間（心の教育センター）。
4. スクールソーシャルワーカースーパービジョン（本山町）2月27日3時間（本学会議室）

○ 総合評価と課題

人間生活学研究科長再登板の2年目（通算6年目）となった。研究科長の仕事は、多くの教職員と一緒にこなうものであり、今年度も何とか終わることができた。まずは、皆様にお礼を述べる。

仕事についての大きな変化は、今年度から学部の実習指導・実習の担当を外れたことである。関係する教員には調整をしていただきお礼を申し上げる。身体的・心理的負担が一気に減りありがたかった。ただ、講義とゼミ以外、学部生に関わる時間が減っているため、少しさみしい気もする。一方、大学院では定年退職する方が増え、教員審査をおこなうことが増えた。また、学長発案の新領域について検討することになった。来年度はこれらの点を実施したい。

教育に関しては、赴任して15年目で、第23期生を卒業させることができた。今年度のゼ

教育研究活動報告書（杉原 俊二）

ミでは、4回生・3回生とも7名であり、卒論指導も時間はかかったが楽しかった。4回生は中間報告会までは対面の授業で、それ以後は個別指導であったが、1か月近くをそれに費やした。3回生は学生主体で対面の授業を行った。これも学生の協力があり、無事に終わらせることができた。4回生は国試に全員が合格し、かつ福祉職に就いた。ゼミ生全員の国試合格は2回目である。3回生も頑張ってもらいたい。

授業では、これまでの蓄積に加え、自著論文（自分史・書評）を工夫しながら授業で使わせてもらっている。その準備に時間はかかるものの、いろいろと勉強になっている（実践記録法・面接技法）。講義科目については、ポストコロナ時代となり、授業のほとんどにパワポを導入し、出席代わりのミニレポートなどを昨年度から実施している。今年度も少し形を変えて学生の意見聴取に務めた。

研究に関しては、昨年度までの科研費研究の積み残し分の検討と、新しい研究テーマ（日本社会福祉学会中国四国地域ブロックの課題研究）を同時並行で行っている。また、2002年に研究が始まった自分史研究から20年以上経つため、その研究も進めている。また、論文にできていないインタビューも数事例残っている。これは、定年までには何とかしたいと考えている。

各種委員については、研究科長の業務が増えたため、学部での負担はできるだけ減らしてもらった。それでも、週単位で見れば授業（週5コマ）の時間よりも、会議の時間が多いということもよくあった。

社会的な活動については、昨年度から地域貢献として高知県の児童福祉審議委員をしている。所属する委員会の数も多く、出席しなければならない会議も多い（今年度は8回）。ただ、本学の児童・家庭福祉分野の教員であるため「一丁目一番地」の仕事と考え、できることはやりたい。また、高知県教育委員会の「スクールソーシャルワーカー」のスーパーバイザー（各種研修会の講師、東部ブロックのスーパービジョン）を引き続き行い会議や研修会に出席した。学会では、これまでの活動に加えて日本人間科学研究会の常務委員も2年目になった。日本社会福祉学会中国四国地域ブロックの運営委員（研究）も継続している。大学内の仕事は多いが、それでも、できるだけ地域への貢献をしたいと考えている。

研究科長は再任され、あと2年間継続しなければならない。多くの方々のご助力をお願いします。

○研究活動

(1) 著書（共著）

- ・行貞伸二監修『改訂 社会福祉士養成基本テキスト 第3巻 社会保険制度 社会福祉制度』日総研, 2023年4月, 第1章「社会保障財源」（7-16頁）
- ・村田隆史・長友薫輝・曾我千春編『基礎から考える社会保障』自治体研究社, 2024年3月, 第4章「年金保険制度」（71-86頁）, 第15章「社会保障と財政」（245-263頁）

(2) 論説

- ・田中きよむ・霜田博史・玉里恵美子「都市部におけるホームレス支援の動向と特徴—ソウル近郊を事例として—」『高知論叢』第125号、2023年10月（1-24頁）
- ・田中きよむ・霜田博文・玉里美恵子「生活困窮者支援をめぐる都市部の取り組みの動向と特徴—大阪・東京・神奈川の追調査をふまえて—」『高知論叢』第126号、2024年3月（129-154頁）

(3) 報告

- ・田中きよむ・山田孝明「生活困窮者や引きこもりの方への支援」『第60回全国隣保館職員四国ブロック研修会報告書』2023年10月（83-142頁）
- ・田中きよむ「防災と地域福祉」三菱UFJリサーチ&コンサルティング『中山間地域において災害時でも安心して住み続けられる地域づくり政策に関する調査研究事業報告書〔令和5年度 厚生労働省老人保健事業推進費等補助金（老人保健健康増進等事業）〕』2024年3月（67-72頁）
- ・田中きよむ・辻真美「韓国の福祉事情—晋州市内を中心とする福祉養成校・福祉施設—」『Humanismus』第35号、2024年3月（76-86頁）

(4) 学会発表等

- ・田中きよむ（基調講演）「コロナ禍や震災が与えた地域への影響と支え合いの共生型地域づくり」第17回高知県作業療法学会（2023年6月）
- ・田中きよむ「都市部におけるホームレス支援の取り組み—日本と韓国の場合—」日本民俗学会第75回年会（東京：成城大学）2023年10月
- ・田中きよむ（基調講演）「東日本地域に学ぶ震災と震災後のコミュニティづくり」（高知県リハビリテーション研究大会）2023年11月5日
- ・田中きよむ「福祉NPOの動向と独自性—高知県内の事例をふまえて—」（四国財政学会第67回研究会）2023年12月16日
- ・田中きよむ「高知における生活困窮者支援の取り組み—ホームレスやDV被害者等の支援を中心に—」日本国際保健医療学会第42回地方会（高知工科大学）2024年3月
- ・中井あい・田中きよむ「中山間地域のひとり暮らし高齢者が捉える看取りの思い」日本国際保健医療学会第42回地方会（高知工科大学）2024年3月

(5) 研究助成外部資金

- ・田中きよむ（研究代表者）「地方におけるホームレスの実態把握と支援方法の研究」（文部科学省科学研究費基盤研究（B）（一般）；2022-2024年度）
- ・田中きよむ（研究代表者）「高齢者の認知機能と運転時注意挙動との関係解析」（公益信託 高知新聞・高知放送「生命の基金」；2023-2024年度）
- ・中井あい（研究代表者）田中きよむ（共同研究者）「地域共生拠点を活用した独居高齢者の看取りを支える多職種連携」（同上「生命の基金」；2023-2024年度）

○教育活動

（1）学部

（専門教育）

1. 地域福祉論Ⅱ
2. 社会保障論ⅠⅡ
3. 福祉行財政と福祉計画
4. 公的扶助論
5. 権利擁護論
6. 福祉NPO論
7. 社会福祉専門演習ⅠⅡ
8. 福祉研究演習ⅢD
9. 社会保障と看護（看護学部）
10. 保健医療福祉論（健康栄養学部）

（共通教育）

1. 地域学概論

（2）大学院

（修士課程）

1. 福祉行財政論
2. 社会保障論
3. 社会福祉課題研究演習

○委員会活動

- ・（学部）人事関係検討会委員、社会福祉研究倫理審査委員会委員長、キャリア支援委員会委員、学生委員、国際交流委員会委員長
- ・（全学）入試監査委員会委員長（学部入試）、国際交流委員会委員、図書館委員会委員

○社会的活動

（委員等）

- ・高知県運営適正化委員会委員
- ・高知県地域年金事業運営調整会議委員長
- ・高知県青年農業士認定委員会委員長
- ・高知県弁護士会綱紀委員会委員、高知弁護士会資格審査会予備委員
- ・高知県介護ケア研究会会長
- ・全国障害者問題研究会高知支部支部長
- ・高知県社会保障推進協議会会長
- ・高知県保育運動連絡会会長
- ・高知市社会福祉審議会委員長、同審議会民生委員審査専門分科会会長
- ・高知市国民健康保険運営協議会委員
- ・高知市福祉有償運送運営協議会委員
- ・高知県内各市町村地域福祉（活動）計画アドバイザー
- ・高知市生活困窮者支援運営委員会委員長、セーフティネット連絡会委員
- ・公益財団法人ひかり協会高知県地域救済対策（森永ヒ素ミルク中毒事件被害者救済対策）委員会委員長
- ・高知県リハビリテーション研究会理事
- ・高知県高次脳機能障害支援委員会委員
- ・高知県居住支援協議会会長
- ・社会福祉法人「高知福社会」「すずめ福社会」「ファミリーユ高知」各第三者委員
- ・NPO法人「福祉住環境ネットワークこうち」理事、NPO法人「みらい予想図」副理事長
NPO法人「あさひ会」理事長、NPO法人「あまやどり高知」理事、社会福祉法人「さんかく広場」理事、NPO法人「こうちネットホップ」理事長

教育研究活動報告書（田中 きよむ）

（研究・学習会、講演等）

- ・高知県社会保障推進協議会総会（会長）オーテピア 4F 研修室（2023年5月20日）
- ・高知県立大学立志塾「高知県の地域課に向けての住民と学生の取り組み」（講師）高知県立大学永国寺キャンパス（2023年6月3日）
- ・社会福祉法人「さんかく広場」理事会（理事）県民体育館会議室（2023年6月6日）
- ・公益財団法人ひかり協会高知県地域救済対策（森永ヒ素ミルク中毒事件被害者救済対策）委員会（委員長）保健衛生総合庁舎・web開催・大阪コロナホテル（2023年6月13日・9月21日・12月3日）、研修講師（徳島事務所）2023年12月19日
- ・高知市生活支援相談センター運営委員会（委員長）高知市社会福祉協議会・あんしんセンター（2023年6月13日・2024年3月13日）
- ・NPO こうちネットホップ総会（代表）記念講演講師・NPO「抱樸」奥田知志理事長講演会コーディネーター、県立大学永国寺キャンパス（2023年6月17日・7月15日）
- ・高知市社会福祉協議会主催「市民後見人講座」（講師）高知市社会福祉協議会・あんしんセンター（2023年6月22日）
- ・佐川町地域福祉計画（アドバイザー）佐川町保健福祉課・社会福祉協議会「かわせみ」他（2023年7月6日・9月26日・9月29日・10月17日・10月18日・2024年3月17日）
- ・高知県青年農業士認定審査会（委員長）県民文化ホール（2023年7月10日）
- ・高知市社会福祉審議会審議会民生委員審査専門分科会（会長）高知市役所（2023年7月18日）
- ・高知県居住支援協議会（会長）永国寺キャンパス（2023年7月25日）、人権啓発センター（2024年2月5日）
- ・全国障害者問題研究会（分科会「働く場の支援」研究協力者）Web開催（2023年8月6日）
- ・高知県運営適正化委員会（委員）現地調査・委員会（2023年8月16日・18日・23日）
- ・本山町地域福祉計（アドバイザー）本山町内各地区（2023年8月24日・9月24日・9月28日・10月19日）
- ・高知県弁護士会綱紀委員会（委員）2023年8月30日
- ・厚生労働省老人保健事業推進費等補助金（老人保健健康増進等事業）「中山間地域において災害時でも安心して住み続けられる地域づくり政策に関する調査研究事業」検討委員会（委員長）厚生労働省高松支局（Web併用）、現地調査（2023年8月29日・9月6日・10月23日・12月26日・2024年2月15日・2月28日）
- ・高知県保育運動連絡会（会長）研究集会 2023年9月9日（共済会館）、2024年2月4日（高知城ホール）
- ・域学共生連携拡大会議（報告者）「地域に学ぶ、学生に学ぶ地域づくり」県立大学永国寺キャンパス（2023年9月19日）
- ・幡多福祉保健所あったかふれあいセンター研修（基調講演）「地域共生社会とあったかふれあいセンター」四万十市防災センター（2023年9月27日）
- ・第60回全国隣保館職員四国ブロック研修会（講師）「生活困窮者や引きこもりの方への支援」南国市サザンシティホテル（2023年10月6日）
- ・高知県文化遺産総合活用推進委員会主催パネルディスカッション「民俗芸能を守るために今できること」（パネリスト）高知城歴史博物館（2023年10月8日）
- ・高知県年金調整会議（委員長）高知会館（2023年10月16日）
- ・佐川町地域福祉計画策定委員会（アドバイザー）2023年10月17日・18日・23日・24日・11月30日・1月18日・2月15日）
- ・四国ブロック・ファミリホーム協議会研修会講師「子どもの生存・発達と里親への期待」

教育研究活動報告書（田中 きよむ）

県立大学池キャンパス（2023年10月28日）

- ・厚生労働省高松支局居住支援セミナー研修（コーディネーター）高知城ホール（2023年11月2日）
- ・高知市国民健康保険運営協議会（委員）高知市役所（2023年11月10日）
- ・高知県立大学社会福祉学部オープンキャンパス「福祉・介護の本質」（講師）高知県立大学池キャンパス（2022年11月3日）
- ・本山町社会福祉大会基調講演・コーディネーター（本山町プラチナセンター）2023年12月4日
- ・高知県脳外傷友の会リハビリテーション講習会コーディネーター（オーテピア）2023年12月9日
- ・高知県FP協会研修講師「年金・医療・生活保護の動向と課題」（ソーレ）2023年12月10日
- ・高知県生活困窮者自立支援制度人材養成研修講師（ちよりテラス）2023年12月11日
- ・高知市民の大学講師「日本福祉の正念場」（かるぽーと）2023年12月15日
- ・室戸市健康福祉大学講師「住民主体の小さな拠点を軸とする生き生き福祉型まちづくり」（ニューサンパレスむろと）2024年1月21日
- ・ひきこもり当事者体験発表・パネルディスカッション「生きづらさと自分らしく生きたいと思うはざまの中で」（コーディネーター）オーテピア（2024年1月27日）
- ・四万十市社会福祉大会基調講演「地域福祉（活動）計画と住民主体の共生型地域づくり」（四万十市社会福祉センター）2024年2月10日
- ・自治労連退職者の会学習会講師「社会保障を取りまく環境の変化と高齢者の暮らし」（共済会館）（2024年3月2日）
- ・四万十町地域福祉活動計画（アドバイザー）四万十町社会福祉協議会（2024年3月6日）

○総合評価及び今後の課題

- ・ 研究面では、2023年度は、①生活困窮者の実態把握と支援方法に関する検討、②生活困窮者の多様性と共通性の検討、③防災と地域福祉の連関構造の分析、④地域福祉（活動）計画策定・実行・評価プロセスにおける住民の主体性形成要因の事例検討、⑤近年の社会保障制度改革と社会保障財政の連関構造の分析を進めてきた。2024年度は、それらに関する実態調査をさらに進める一方で、理論的検討を深めていきたい。
- ・ 教育面では、講義に関しては、地域福祉論、社会保障論、公的扶助論、福祉行財政と福祉計画、権利擁護論、福祉NPO論などを担当しているが、授業アンケート結果をふまれば、それらの科目に関する学生の理解力、関心の向上や主体的取り組みを改善する授業の工夫が依然として課題となっている。学生の教育ニーズにきちんと向き合いながら、その主体性を高める工夫を図っていきたい。専門演習に関しては、地域とのつながりを大切にしながら、生の声や生活実態をふまえた理論化や課題解決を図れる姿勢が培えるように指導していきたい。

2024年度は、講義においては、ミクロの個別支援に関心が強い学生に対して、それをメゾレベル（地域福祉）やマクロレベル（社会保障）で捉え直すことの意義を理解してもらえ工夫に一層努めたい。

社会的活動は、2023年度は、地域の生活課題の多様性を明らかにしつつ、対策を考えたり、持続可能な地域の仕組みづくりについて実践的に検討する機会を戴けた。今後も、学生と共に、地域との接点を持ち、住民の現実の生活課題を明らかにしつつ対策を検討するとともに、各地域ならではの積極的な固有価値を再発見して、それを活性化する関係づくりに少しでも寄与していきたい。

長澤 紀美子

Kimiko NAGASAWA

○研究活動

(1) 論文 (なし)

(2) 学会発表 (2件)

- ・長澤紀美子「トランスジェンダーのトラウマ経験：ソーシャルワーク教育におけるトラウマ・インフォームドケアの有用性の検討」

日本社会福祉学会第71回秋季大会「特定課題セッションⅡ：性的マイノリティをめぐる課題から社会福祉学を再考する」武蔵野大学武蔵野キャンパス 2023年10月15日

- ・長澤紀美子「イギリスにおけるケアの『生産性』と『質』の測定—そこから何を学べるか」

日本介護経営学会第19回学術大会パネルディスカッション「まっとうな介護の生産性論を真正面から議論する」シンポジスト（招待）東京・大塚商会本社 2023年11月26日

(3) 厚生労働省事業での委員会報告及び報告書 (1件)

- ・長澤紀美子「イギリスの社会的ケアの質評価：自治体評価及び事業者評価の指標」令和5年度老人保健健康増進等事業「LIFEを用いた自治体向け介護サービスの質評価に関する調査研究」【研究代表者：近藤克則(千葉大学)】

第2回委員会 2023年12月14日

(4) 競争的資金等の獲得状況 (1件)

- ・科学研究費補助金 基盤研究(C) (一般)

「クィア視点に基づく性的指向・性自認に関する社会福祉士養成教育プログラムの開発」(令和2年度～令和4年度：令和5年度延長) 研究代表者

○教育活動

(1) 学部

① 講義科目【学部専門科目】

- ・「社会福祉の原理と政策Ⅰ」及び同科目「Ⅱ」1回生必修(行貞講師とのオムニバス)

新カリ3年目で、より平易な記述の教科書に変更した。また歴史及び法律・制度と共に、実際の社会課題や現場での支援課題と連動して理解できるよう努めた。

- ・「女性福祉論」3回生選択(学年の約半数が受講)

1回生時に「基礎ジェンダー学」を受講した学生が多いため、よりアドバンスドな講義として、現場の支援者を招き、事例を中心に福祉職の支援のあり方を検討した。

(女性相談支援センター(婦人相談所)、ひとり親家庭支援センター、こうち男女共同参画センター、母子父子自立支援員等高知県の女性支援機関の相談員、DVや性暴力被害者への支援を行うNPO法人(女性/LGBTQ+対象)相談員や専門医療機関の看護師、災害に関して国際的ネットワークを持つLGBTQ+研究者など。)

教育研究活動報告書（長澤 紀美子）

- ・「国際福祉論」 2回生選択（玉利助教・河内准教授とのオムニバス）

英コミ代替の2回生科目として定着し、受講生は学年人数の8割強である。担当回（8コマ）において、在留外国人等への多文化ソーシャルワーク、入管や技能実習生に関わる人権課題、制度の国際比較に加え、国際経験豊かなゲストスピーカーを招き、欧州と日本における多文化共生などグローバルな視点を涵養する機会を設けた。

② 講義科目【共通教育科目】

「基礎ジェンダー学(永国寺)」及び同科目「(池)」(看護学部岩崎講師とオムニバス)

3年目となり、初めて全面的に対面となった。ソーレ共催講座やこうち減災女子部、妊娠 SOS の団体等を招き、雇用や災害での性差別、性暴力や妊娠・性教育など身近な問題として多角的にジェンダー問題に関心を深めるよう努めた。

- ③ 卒業研究指導（ゼミ）：「社会福祉専門演習Ⅲ・Ⅳ」（受講者7名）, 「社会福祉専門演習Ⅰ・Ⅱ」（受講者3名）

(2) 大学院

【人間生活学研究科博士前期課程】

- ・「多文化福祉論」（受講生4名） 研究指導：副研究指導教員としてM1生1名

【人間生活学研究科博士後期課程】

- ・研究指導：主研究指導教員としてD2生1名（休学期間含む）、副研究指導教員としてD3生1名を担当

○委員会活動

【全 学】 社会福祉学部長

*全学会議委員（部局長会議、教育研究審議会、大学教育改革プロジェクト、入学試験委員会、自己点検評価運営委員会、教員評価専門委員会、非常勤講師審査委員会、学術研究戦略委員会、研究不正防止委員会、大学院あり方検討委員会）

【学 部】 *学部教授会議長 学部自己点検評価委員長 学部教員評価部会長

【大学院】 人間生活学研究科 博士後期課程 学務委員

○社会的活動

(1) 委員等

高知県社会福祉審議会委員（副委員長）（令和5年度～）

高知県困難な問題を抱える女性及びDV被害者への支援協議会（令和5年度）委員（令和3年度～第4次高知県DV被害者支援計画策定委員会より継続）

高知県社会福祉協議会理事（令和5年度～）

高知県福祉活動支援基金運営委員会（高知県社会福祉協議会）（令和5年度～）

高知県人権尊重の社会づくり協議会委員（令和元年度～）

高知市人権尊重のまちづくり審議会委員（令和元年度～）

高知地方労働審議会委員・高知労働局「求職開拓事業」に係る提案書技術審査委員会（委員長）（令和3年度～）

（2）地域での講演（人権研修会講師）

- ・「多様な性を認め合う職場・まちづくりをめざして」高知県香美市企業等人権啓発連絡会総会研修会（香美市中央公民館）2023年4月26日
- ・「多様な性の理解とLGBTQ+の人権課題－国際動向を踏まえて－」第55回しらさぎ会愛媛の集い（松山市・道後山の手ホテル）2023年6月25日
- ・「SOGIとはなにか－多様な性を尊重するために－」県立中村高校人権研修（高校1～2年生全員対象）2023年12月8日
- ・「ジェンダー平等、LGBTQ+への差別解消に対する日本の周回遅れ」第94期高知市民の大学：金曜日総合コース「歴史の転換点に立って－「懸崖勒馬」の現在」（かるぽーと高知市立中央公民館）2023年12月22日
- ・「SOGIESCの人権とフェミニズム」新日本婦人の会高知県支部 国際女性デー高知県中央集会（こうち男女共同参画センターソーレ）2024年3月8日

○総合評価及び今後の課題

（1）教育活動

- ・学生への細やかなフィードバックや可能な限り個別対応等の双方向的な教育を心がけているが、学部長としての管理的業務との両立が課題である。

（2）研究活動

- ・イギリスの社会的ケアの評価制度・システムの研究及び、LGBTQ+への支援とソーシャルワーク教育への適用と、異なるテーマに関して学会報告を行った。それぞれの報告に続き、論文執筆を進める必要がある。
- ・昨年度までの科研分担研究「社会福祉における評価レジーム再編の課題をめぐる理論的・実証的研究」（研究代表者：平岡公一（東京通信大学））の研究チームが継続され、社会政策学会分科会や対面での研究会に参加し、福祉・介護に係る国際的な評価政策の動向について示唆を得られた。本研究チームでの次年度の社会政策学会報告について準備する。

（3）社会貢献

- ・SOGIに関する人権課題について、県内の福祉及び企業・教育関係者や一般に向けた研修講師を継続して行った。また女性支援新法のR6年度よりの施行に向けて、県計画策定委員を務め、県職員や県の関係機関との連携を深めた。

（4）学内業務について

- ・学部長1期目の2年目として、学部教員や入試課をはじめとした事務職員との協力のもと、志願者確保に向けた高校訪問等入試広報を優先課題として取り組んだ。全国的に社会福祉学領域の志願者の伸び悩みの中で、本学が志願者増に繋がったことは成果である。しかし今後の若年人口の急減の想定を踏まえ、次年度以降も継続して多様な媒体での広報に取り組む必要がある。
- ・教育や学生支援、学内行事がコロナ禍以前に戻りつつあり、新学長のもとで、今後の持続的な学部運営のあり方を検討する機会となった。
- ・次年度以降に持ち越した課題（公募人事の継続と未充足科目への対応、教員の研究活性化、卒業生等のネットワーク化等）は多様な側面があるが、新任教員も含めた教職員の連携体制で粘り強く取り組んでいきたい。

西 内 章

Akira NISHIUCHI

○ 研究活動

1. 論説

西内章（2024）「地域連携ネットワークにおけるソーシャルワークによる権利擁護ー地域の人材活用に着目してー」『高知県立大学紀要（社会福祉学部編）』 73， 87-96 頁.

大熊絵理菜・西内章（2023）「スーパービジョンにおけるスーパーバイザーが抱く感情についての一考察」『医療社会事業』 62， 135-140 頁.

2. 研究ノート

御前由美子、安井理夫、西内章、小榮住まゆ子（2023）「人口減少地域から限界化する集落における定常態の集落实態とソーシャルワーク実践の必要性」『関西福祉科学大学紀要』 27， 27-38 頁.

3. 学会発表

御前由美子・安井理夫（関西福祉科学大学）、小榮住まゆ子（椋山女学園大学）、西内章（2023）「人口減少地域から限界化する集落の定常態に着目する必要性ー人口減少地域の現状と議論に関する文献研究の整理にもとづく考察ー」日本社会福祉学会（第71回・武蔵野大学：2023年10月）.

4. 科学研究費助成事業

研究種目 基盤研究 (C) :2018 ～ 2023 年度

研究代表者 西内章

研究課題 『ソーシャルワークにおける ICT を活用した多職種連携モデルの構築』

研究種目 基盤研究 (C) :2023 ～ 2025 年度

研究代表者 西内章

研究課題 『身上保護を行う地域連携ネットワークにおけるソーシャルワーク実践モデルの構築』

5. 研究会

ソーシャルワークの研究会である「エコシステム研究会（大阪府立大学名誉教授・関西福祉科学大学名誉教授 太田義弘主宰、京都府立大学公共政策学部教授 中村佐織会長）」に所属し、アセスメント支援ツールの研究開発を行った。

○ 教育活動

[共通教育教養科目]

① 「専門職連携論」

[学部専門教育科目]

① 「事例研究法」

② 「ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ」

③ 「ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ」

④ 「虐待防止論」

⑤ 「ケアプラン策定法」

⑥ 「ソーシャルワーク演習Ⅲ」

教育研究活動報告書（西内 章）

- ⑦「ソーシャルワーク演習Ⅳ」
- ⑧「ソーシャルワーク演習Ⅴ」
- ⑨「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」
- ⑩「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ」
- ⑪「ソーシャルワーク実習Ⅰ」
- ⑫「ソーシャルワーク実習Ⅱ・Ⅲ」
- ⑫「社会福祉専門演習Ⅰ」
- ⑬「社会福祉専門演習Ⅱ」
- ⑭「社会福祉専門演習Ⅲ」
- ⑮「社会福祉専門演習Ⅳ」

[大学院人間生活学研究科・博士前期課程]

- ①研究方法論Ⅱ
- ②ソーシャルワーク論
- ③高齢者福祉論
- ④課題研究演習

※主指導教員として院生2名の研究指導を行い、修士論文を提出した。

○委員会活動

- ・入試実施委員長
- ・学部総務・予算委員長
- ・人事関係検討会委員
- ・自己点検評価委員
- ・入試広報部会委員

○社会的活動

[委員等]

- ・高知リハビリテーション専門職大学非常勤講師
- ・高知県行政不服審査会委員
- ・高知県高齢者・障害者権利擁護センター運営協議会副委員長
- ・高知県地域福祉活動支援計画推進委員会副委員長
- ・高知県教育振興基本計画推進会議委員
- ・高知市成年後見制度利用促進審議会会長
- ・高知市高齢者虐待予防ネットワーク会議会長
- ・高知市社会福祉協議会評議員
- ・高知市成年後見サポートセンター運営委員会会長
- ・日常生活自立支援事業契約締結審査会委員
- ・高知市社会福祉協議会これから安心サポート事業審査委員会委員長
- ・津野町地域包括支援センター及び地域密着型サービス運営協議会委員
- ・津野町成年後見制度利用促進協議会委員
- ・津野町認知症初期集中支援チーム検討委員会委員

[研修会講師・講演等]

- ・高知県教育委員会研修講師「令和5年度スクールソーシャルワーカー活用事業初任者研修会」（2023年6月23日及び10月27日）

教育研究活動報告書（西内 章）

- ・令和5年度高知県教育委員会子育て支援員養成研修講師「児童虐待と社会的養護」（オンデマンド開催）（2023年5月12日）
- ・高知県児童福祉司任用前講習会講師「児童家庭支援のためのケースマネジメント基本（1）」（2023年6月8日）
- ・高知市成年後見サポートセンター第7回市民後見人養成講座講師「対象者理解－高齢者・認知症の理解－」（2023年6月15日）
- ・令和5年度高知県社会福祉協議会コミュニティソーシャルワーカー養成研修講師「対人援助における権利擁護の視点」（2023年7月7日）
- ・令和5年度第20回地域福祉実践セミナー第3分科会アドバイザー「法人間連携の継続的な取組と強みを目指して」（2023年7月16日）
- ・第49回高知女子大学看護学会ワークショップI 話題提供者「社会的課題への看護職の挑戦－ヤングケアラーの支援－」（2023年7月22日）
- ・令和5年度中土佐町高齢者虐待防止研修会講師「事業所による高齢者・障害者虐待防止の仕組みづくり」（2023年8月4日）
- ・令和5年度高知県入退院支援事業研修講師「第2回多職種協働研修」（2023年8月25日）
- ・高知県社会福祉協議会・高知県運営適正化委員会主催令和5年度福祉サービス苦情解決セミナー講師「日常の関わり方と苦情解決の基本と応用」（2023年9月13日）
- ・高知県心の教育センター主催学習会講師「令和5年度第3回スクールソーシャルワーカーグループ学習会」（2023年9月30日）
- ・令和5年度高知県キャリア教育推進事業訪問型研修「中村高校×高知県立大学社会福祉学部『社会福祉って何だろう』」（2023年10月6日）
- ・令和5年度医療的ケア児等支援者養成研修講師「【福祉】支援の基本的枠組み、福祉制度、遊び・保育・家族支援」（2023年12月6日）
- ・令和5年度日常生活自立支援事業専門員研修会講師「記録の基本－個別支援において必要なポイント－」（2023年12月15日）
- ・高知県社会福祉協議会・高知県運営適正化委員会主催福祉サービス第三者委員ブロック別研修会講師「当事者・家族からの申し出と事故やトラブルの実際」（2024年3月7日）

○総合評価及び今後の課題

社会福祉専門演習Ⅲ・Ⅳでは、4回生7名の卒業研究論文指導を行った。大学院では大学院生2名の主指導を担当し、修士論文を提出し修了させることができた。次年度はこれまで取り組んできた教育活動について、授業目標・授業内容・教材の関連性を検討し、これまでの授業の組み立てが適切であるか、学生からも意見を聞きながら再構築したいと考えている。研究活動では、新たに科研費が採択されたため2つの研究を進めた。当初の計画通りに進んでいない内容もあることから、計画を修正しながら研究を行いたい。

委員会活動では、学部総務・予算委員長として学部連絡会・教授会の準備、備品や資料の購入・管理等に取り組んだ。

社会的活動については、外部委員としての活動と、外部研修の講師を行った。社会的活動は、自らの研究活動と関連しているテーマも多いため自己研鑽になっている。

次年度も教育活動及び研究活動、委員会活動、社会的活動に継続的かつ積極的に取り組み、現在の自分を見つめ直し、気づきを得ながら改善に取り組み、尽力したいと考えている。

横井 輝夫

Teruo YOKOI

○研究活動

論文

- ・ Teruo Yokoi, Erina Oguma, Inagaki Kayo, Toshihide Fukuda: Suicide in stroke survivors and social work. Health & Social Work, 2024 (in press).

○教育活動

（学部）

- ・精神保健学Ⅰ
- ・精神障害リハビリテーション論
- ・こころとからだのしくみⅠ
- ・介護の基本Ⅱ
- ・精神保健学Ⅱ
- ・発達と老化の理解Ⅱ
- ・こころとからだのしくみⅡ
- ・社会福祉専門演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ

（大学院）

- ・福祉リハビリテーション論
- ・社会福祉学課題研究演習

○委員会活動

（全学）

- ・教務委員会
- ・人権委員会

（学部）

- ・教務委員会
- ・自己点検評価委員会
- ・人権委員会
- ・人事関係検討会

（大学院）

- ・入試委員会

○社会的活動

（学外非常勤講師）

- ・吉備国際大学（「運動発達学」「理学療法技術実習」担当）

○総合評価及び今後の課題

（１）教育活動について

介護福祉士指定科目である「こころとからだのしくみⅠ」「こころとからだのしくみⅡ」「発達と老化の理解Ⅱ」については、ほぼ毎回到知識確認テストを行い、知識を着実に獲得できるように進めた。また精神保健福祉士指定科目である「精神保健学Ⅰ」「精神保健学Ⅱ」「精神障害リハビリテーション論」については、深い思考を求める資料を提供して進めた。

大学院では、主指導を務めた博士前期課程の院生が、記憶障害者の生活を克服するスマートフォンの研究で修士論文を提出し、現在英文誌に投稿中である。

教育研究活動報告書（横井 輝夫）

（2）研究活動について

上記1論文が英文誌に採択され、2023年度に投稿し、現在査読中の英語論文が3編ある。

（3）学内業務について

全学では人権委員会の委員長を、学部では学部教務委員会の委員長を務めた。

（4）社会貢献について

特に、研究での新たな知見を発表することを通して社会に貢献していきたい。

河内 康文

Yasufumi KOCHI

○研究活動

1. 論文

河内康文・矢吹知之・田中眞希「介護福祉士の資質向上を見据えた越境的学習の有用性に関する研究」. 『介護福祉教育』28(2), pp.54-62. 2024年1月.

2. 競争的資金の獲得

- (1) 科学研究費補助金若手研究[2019年度～2021年度]「介護現場リーダーの越境的学習に基づく職場学習の実証研究－混合研究法に基づく分析－」(研究代表者:河内康文)

※新型コロナウイルスの影響により期間延長

○教育活動

1. 介護の基本 I
2. 介護過程 I
3. コミュニケーション技術
4. 介護総合演習 I
5. 介護総合演習 II
6. 介護総合演習 III
7. 介護総合演習 IV
8. 介護実習 I
9. 介護実習 II
10. 介護実習 III
11. 障害の理解 II
12. 社会福祉専門演習 I
13. 社会福祉専門演習 II
14. 社会福祉専門演習 III
15. 社会福祉専門演習 IV
16. 国際福祉論 (オムニバス)

○委員会活動

1. 入試広報委員会委員長
2. 広報委員会委員長
3. 介護福祉コース主担当
4. 健康管理センター運営委員会
5. 教務委員会
6. 入試実施委員会
7. 共通テスト実施委員会
8. 大学院学務委員

○社会的活動

1. 委員等

- (1) 高知県障害者施策推進協議会 副会長
- (2) 高知県自立支援協議会専門部会長
- (3) 高知県自立支援協議会 副会長
- (4) 高知市障害者計画等推進協議会 会長
- (5) 南国市高齢者及び障害者虐待防止ネットワーク委員会委員
- (6) いの町社会福祉協議会成年後見運営委員

2. 講演等

- (1) あすらむランド徳島職員研修講師「ノーマライゼーションと人権」（徳島市）
2023年6月28日.
- (2) 夢ナビライブ 2023 in Summer（於：Zoom）, 「ふくしの学び」: 2023年7月15日.
- (3) 出前講義 講師「福祉と介護の仕事」（池田高校） 2023年11月30日.

○総合評価及び今後の課題

1. 教育活動について

担当科目では、新規に担当することになった介護過程Ⅰの教材を作成した。コミュニケーション技術では、ルーブリック評価を継続して実施した。介護実習Ⅰ・介護実習Ⅱ・介護実Ⅲでは、ルーブリック評価を作成して試験的に運用をした。社会福祉専門演習Ⅱでは田中眞希ゼミとともに大島青松園へ訪問し入園者の語りから学びを得た。

2. 研究活動について

代表者として科学研究費で取り組んでいる研究の量的調査と質的調査の関連を分析し、論文としてまとめ発表した。今年度は質的調査の詳細について分析を進めている。

3. 社会活動について

高知県・高知市の障害者計画等が最終年度であり、総括と次年度計画作成に参画した。打ち合わせや会議が多い年となったが、当事者・家族・専門職・行政関係者との協議から学ぶことが多かった、高知県の福祉・介護について、少しでも貢献ができるように研鑽をしていきたいと強く思えた一年であった。

○研究活動

（1）競争的資金の獲得

- ・科学研究費補助金（基盤研究（C）, 課題番号 18K02112, 2018年度－2022年度）

研究代表者：遠山真世

研究課題名：重度障害者の就労支援における工賃向上のための「高知モデル」の構築

○教育活動

（1）担当科目

- ・相談援助演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ
- ・相談援助実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
- ・相談援助実習
- ・福祉研究演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
- ・障害者福祉論
- ・社会調査の基礎

（2）学生支援

- ・卓球サークル顧問

○委員会活動

（1）全学

- ・入試実施委員会
- ・地域教育研究センター運営委員会

（2）学部

- ・学生委員会
- ・入試広報部会
- ・実習委員会

○社会的活動

- ・高知県要約筆記者養成講座講師「社会福祉の基礎知識Ⅱ」担当
- ・高知県社会福祉協議会福祉職員基礎講座講師「障害福祉サービス」担当
- ・こうち福祉会虐待防止研修講師
- ・高知県障害者介護給付費等不服審査会委員
- ・土佐あけぼの会評議員及び第三者委員

○総合評価及び今後の課題

（1）研究活動について

本年度は高知県内すべての障害者就労継続支援B型事業所を対象とし、アンケート調査

教育研究活動報告書（遠山 真世）

を実施した。110事業所に調査票を送付し、回答がえられたのは58事業所、回収率は52.7%であった。主な質問項目は、事業所の状況（運営主体や職員数等）、利用者の状況（利用者数や障害種別等）、利用者の作業状況（作業時間や作業の種類、工賃等）、工賃向上のための取り組みや課題、新型コロナウイルス感染拡大の影響などであった。次年度はデータ分析を進め、高知県内の障害者就労継続支援B型事業の現状と課題を明らかにし、今後求められる政策や支援について具体的に考察していきたい。

（2）教育活動について

昨年度と比べ本年度は、学生のコロナ感染も少なく、年間を通して対面授業を行うことができた。インフルエンザが流行し、特別欠席となる学生が増えた時期もあったが、後日授業の資料を配布したり、課題提出の期限を延長するなど配慮した。授業は対面で行いつつ、moodleを活用して課題提出やフィードバックを行った。

ソーシャルワーク実習についても、コロナ感染の影響はなく、予定通りに行うことができた。実習にあたって抗原検査が求められるケースは少なくなったが、毎日の検温や体調管理をしっかりと行う必要がある。学生も、発熱した場合は実習先に連絡するとともに、教員にも報告をするなど、迅速で的確な行動をとることができた。

講義科目においては、ポイントを明確化し理解しやすい授業を心掛けた。復習問題や課題、小テストを用いて、学生自身が理解度を確認できるようにした。実習指導においては、個別指導を通じて学生の関心や考えを引き出したり、実習で得た経験について考察を深めたりできるよう努めた。3回生のゼミでは、前期には特別支援学校、後期には重症児デイサービス事業所や障害者就労継続支援事業所、障害者スポーツセンターなどを訪問した。とくに後期は、学生自らが企画し、訪問先への依頼・調整などを行った。学生が主体的に企画・運営することにより、各自が何を学びたいのかを明確にし、それを訪問先へ伝える力を伸ばすことができた。4回生のゼミでは、個別指導が中心となったが、個々の学生の関心に沿ってスムーズに研究が進められるよう、情報収集や分析方法、論文としてのまとめ方などについて助言を行った。

また本年度は3回生の学年担当を務めた。ゼミ活動やソーシャルワーク実習など、学外での活動が多くなる学年であるため、いろいろな場での経験や成果をふまえて卒業後の進路選択を考えられるようサポートした。

（3）委員会活動・社会活動等について

委員会活動では、学部入試実施委員会の主担当となって活動した。例年より教員数が少なく、また、学校推薦型選抜と社会人選抜を同じ日に実施しなければならず、入試業務の分担に苦慮したが、滞りなく運営することができた。

社会活動では、対面による専門職の養成講座を行うことができた。今後もさまざまな形で、地域住民や専門職の方々、高校生などに学んでいただけるよう貢献していきたいと考える。

西梅 幸治

Koji NISHIUME

○研究活動

- (1) 研究会参加
 - 1) エコシステム研究会（太田義弘大阪府立大学名誉教授主催）への参加
- (2) 研究資金の導入
 - 1) 基盤研究（C）「エンパワメント志向ジェネラル・ソーシャルワークにおける協働アセスメント方法の構築」（令和2～4年度）研究代表者：西梅幸治
 - 2) 基盤研究（C）「分担研究：クィア視点に基づく性的指向・性自認に関する社会福祉士養成教育プログラムの開発」（令和2～4年度）研究代表者：長澤紀美子
- (3) 論文等
論文
 - 1) 西梅幸治（2024）「エンパワメント実践における協働アセスメントのスキーマ」『高知県立大学紀要』73, 1-18頁.
 - 2) 西梅幸治（2024）「ジェネラル・ソーシャルワークにおけるeスキナーを介した社会実装への方法と課題」『ソーシャルワーク支援研究』1, 47-69頁.
 - 3) 西梅幸治・山口真里・加藤由衣・河野高志・中村佐織「ソーシャルワーク実践における過程展開に関する科学化—エコシステム視座の具体化に向けた試みに焦点化して—」『福祉社会研究』24, 31-48頁.

○教育活動

- (1) 担当科目
(学部)

「ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ」	「ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ」	
「ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ」	「ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ」	
「ソーシャルワーク演習Ⅰ」	「ソーシャルワーク演習Ⅱ」	
「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」	「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ」	
「ソーシャルワーク実習指導Ⅲ」	「ソーシャルワーク実習Ⅰ」	
「ソーシャルワーク実習Ⅱ」	「ソーシャルワーク実習Ⅲ」	
「社会福祉専門演習Ⅰ」	「社会福祉専門演習Ⅱ」	「社会福祉専門演習Ⅲ」
「社会福祉専門演習Ⅳ」	「スーパービジョン」	「ソーシャルワーク演習Ⅴ」

(大学院)

「研究方法論Ⅱ」	「ソーシャルワーク論」
----------	-------------
- (2) クラブ活動
 - ・ グローカルクラブ顧問
 - ・ 手話サークル顧問
 - ・ 編み物サークル顧問

○委員会活動

全学

- ・ 入試監査委員会（大学院：委員長）
- ・ キャリア支援委員会

学部

- ・ 実習委員会（長）
- ・ 総務予算委員会
- ・ 国試対策支援委員会（長）
- ・ 教務委員会
- ・ 学部キャリア支援委員（長）

○社会的活動

- ・エコシステム研究会 副代表
- ・四国中央医療福祉総合学院 非常勤講師
- ・全国社会福祉協議会中央福祉学院 相談援助演習講師
- ・高知リハビリテーション専門職大学 非常勤講師
- ・高知県スクールソーシャルワーカー活動事業 スーパーバイザー
- ・日本学校ソーシャルワーク学会 中国四国ブロック運営委員
- ・日本学校ソーシャルワーク学会 第17回岡山大会実行委員
- ・高知県福祉教育・ボランティア学習推進委員会委員長
- ・特定非営利活動法人 結人の紬 就労支援事業所 未来ドア 第三者委員
- ・高知市不登校対策専門家支援チーム委員
- ・令和5年度地域共生社会フェスタ開催等委託業務公募型プロポーザル審査委員
- ・不登校児童生徒の多様な教育機会確保に関する協議会委員
- ・高知県介護支援専門員法定研修検討ワーキンググループ委員
- ・高知県心の教育センター 講師「令和5年度第1回スクールソーシャルワーカーグループ学習会」（2023年5月27日）
- ・高知県子ども・福祉政策部 講師「児童福祉司任用前講習会 ソーシャルワークの基本」
「子ども家庭福祉における倫理的配慮」（2023年6月1日）
- ・要約筆記者養成講座 講師「社会福祉の基礎知識Ⅰ」（2023年7月1日）
- ・高知県社会福祉協議会 講師「先輩職員研修」（2023年7月20日）
- ・高知県子ども・福祉政策部障害福祉課 講師「令和5年度サービス管理責任者等更新研修SV勉強会」（2023年7月20日、9月7日、10月13日、11月15日）
- ・高知県社会福祉協議会 講師「高知県中堅民生委員児童委員研修会」（2023年10月20日、10月27日）
- ・高知県隣保館職員等研修事業 講師「新任職員研修Ⅱ」（2023年11月16日）
- ・要約筆記者養成講座 講師「対人援助」（2023年12月9日）
- ・介護支援専門員実務研修 講師「相談援助の専門職としての基本姿勢及び相談援助技術の基礎」（2023年12月17日）
- ・高知県社会福祉協議会 講師「サービス管理責任者としてのスーパービジョン」（2024年2月14日、2月29日）
- ・高知県社会福祉協議会 講師「相談援助応用研修」（2024年2月15日）
- ・高知県社会福祉協議会 講師「新任職員研修ステップ3」（2024年3月15日）
- ・学部リカレント研究会事業「卒業生・在学生・教員をつなぐ学内講演会」（2023年6月12日）
- ・学部リカレント研究会事業「スクールソーシャルワーク研究会」（1月26日、3月8日、3月14日：計3回）
- ・学部リカレント研究会事業「ソーシャルワーク学習会」（10月19日、10月30日、3月8日：計3回）

○総合評価及び今後の課題

（１）研究活動について

研究活動については十分とはいえませんが、継続的に研究を行ってきた。科研費による研究については、協働アセスメントに関する成果を提出することができた。定期的な研究会は、今年度は対面で開催することができ、各大学の研究者から助言や示唆を得ながら、e スキャナーの新たな開発に取り組むことができた。自身の主たる研究テーマについては、その成果の一部を公表できたものの課題が残ったと感じており、次年度も継続して取り組んでいきたい。

（２）教育活動について

今年度も、新カリキュラム移行に伴い、一部の科目で大きな変更をしなければならなかった。特に講義系科目（理論と方法Ⅳ）では、より実践に向けた応用的な内容を教授する必要性から、演習的な要素を増やし、具体的な展開をイメージできるように工夫した。講義後には、フィードバックによって、授業展開の修正ならびに学生回答の提供、追加資料の配付なども行った。引き続き、理論と実践を融合した支援展開の修得や国試対策も見据え、学生自身が目標を持って取り組むための工夫を重ねていきたい。

実習科目では、新カリキュラムで初めての実習Ⅱ・Ⅲの配属かつ、久しぶりに児童福祉領域を担当することになり、その領域を意識した事前指導に努めた。今年度は、変更や延期はあったものの、全員が無事に実習を終えることができた。ふり返りの授業である演習Ⅴでは、グループ・スーパービジョンに取り組み、自己覚知や専門職としての姿勢が養われ、将来への動機づけを高めていく成長プロセスを感じることもできた。

また今年度は、7名の学生の卒論指導を行った。ゼミでの相互作用をとおして指導に取り組み、グループでの添削や意見交換とともに、iThenticateなどのツールの活用も図った。それぞれの努力によって就職・卒業論文・国家試験いずれもよい成果を残すことができた。

（３）委員会活動・社会的活動について

実習委員長としては、関連授業の効果・効率的な授業運営と連絡調整、および統合的な予算執行に努めた。キャリア支援委員長としては、キャリア支援特別講座やリカレント研究会を開催し、卒業生・在学生・教員をつなぐ機会や共同研究への契機となるような機会をつくることができた。

国試対策支援委員長としては、対策プログラムの効果・効率的運営と、4回生自身が企画する国試対策講座や国試対策勉強会のサポートに少なからず貢献できたと感じている。今年度は、学生の努力が成果に直結し、社会福祉士の合格率が学部創設以来、最も高い合格率となり、精神保健福祉士・介護福祉士ともに100%の好成績となった。今後も対策の成果を合否の結果に結びつけていくことに努めていきたい。

社会的活動についても、継続して高知県スクールソーシャルワーカー活用事業や要約筆記者養成、ならびに高知県社会福祉協議会での研修などにも尽力できたと感じている。特に今年度は、サービス管理責任者等更新研修の実施に向けて準備段階から参画し、無事に終えることができた。事業担当者や共に研修を企画してきたファシリテーターの皆様に感謝したい。今後も努力と経験を重ね、学内はもちろん地域や社会に、全国的な視野を持ちながら貢献していきたい。

福 間 隆 康

Takayasu FUKUMA

○研究活動

1 論文

- ・Takayasu Fukuma 「Determinants Distinguishing Organizational Adaptation from Maladaptation: An Empirical Investigation of Employees with Mental Disabilities」『高知県立大学紀要社会福祉学部編』第73巻, pp.19-34, 2024年3月。

2 学会発表

- ・福間隆康 「自己効力感, 上司-部下交換関係, 職務特性がプロアクティブ行動を媒介して組織適応に与える影響: 民間企業の精神障がい者を対象とした定量的分析」日本社会福祉学会 中国・四国地域ブロック第54回島根大会 (2023年7月)
- ・福間隆康 「精神障がいのある従業員の組織適応と不適応を分ける要因に関する実証研究: プロアクティブ行動, 職務特性, 上司サポート, 組織的支援の関係性」日本社会福祉学会 第71回秋季大会 (2023年10月)
- ・福間隆康 「プロアクティブ行動の組み合わせによる組織適応状態の特徴: 民間企業の精神障がいのある従業員を対象とした定量的分析」第31回職業リハビリテーション研究・実践発表会 (2023年11月)

3 外部資金の獲得状況

- ・科学研究費助成事業(基盤研究(C))「障害のある従業員の組織社会化過程における個人の適応行動に関する研究」(2022年度~2025年度) 研究代表者: 福間隆康

○教育活動

1 学部

福祉対象入門, 福祉援助入門, 地域福祉論Ⅰ, 福祉研究法入門, 福祉サービスの組織と経営, 社会福祉専門演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ, ソーシャルワーク演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ, ソーシャルワーク実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ, ソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

2 研究科

研究方法論Ⅱ, 福祉マネジメント論, 副研究指導

○委員会活動

1 全学

- ・図書館委員会委員
- ・総合情報センター運営委員会
- ・教務システム&学修管理システム(LMS)検討ワーキング
- ・学修ポートフォリオ検討ワーキング

2 研究科

- ・総合情報センター情報処理施設委員会

○社会的活動

1 委員等

- ・特定非営利活動法人大阪障害者雇用支援ネットワーク 地域連携事業部委員
- ・一般社団法人四国ソーシャルインクルージョンセンター 協力委員
- ・南国市社会福祉協議会 南国ネットワーク連絡会委員
- ・南国市社会福祉協議会 南国市あったふれあいセンター運営委員会委員
- ・日本ソーシャルワーク学校教育連盟中国四国ブロック運営委員

○総合評価及び今後の課題

1 研究活動

科学研究費助成事業（若手研究）および（基盤研究（C））の研究成果の一部を学会報告するとともに、研究紀要に掲載することができた。次年度は、科学研究費助成事業（基盤研究（C））の研究計画書に基づき着実に研究を遂行し、研究成果の一部を学会で報告するとともに、学術雑誌に投稿する予定である。

2 教育活動

授業ではアクティブ・ラーニングを重視し、学生が自ら主体的に答えのない問題への解答を見つけ出せるように取り組んだ。これには、講義を単に聞くだけでなく、学生に進んだ疑問を考えさせることや、自らの意見を発表させるための思考の可視化が含まれた。

具体的な取り組みとして、学習意欲を促す ARCS モデルに基づき、次のような方法を採用した。1)興味を刺激する質問を投げかけ、最新の研究テーマを紹介して探究心を呼び覚ました。2)口頭説明中に動画を挿入したり、多様な資料を用いて表現方法を変えた。3)授業内容が将来に役立つことを示し、目的意識を高めた。4)身近な例を用いて授業内容を学生の体験や知識に関連付けた。5)小さなステップで課題に取り組む方法を示し、成功体験を積む機会を提供した。6)自己評価を促し、成功要因を自己帰属させるようにした。7)仮想ではなく実際の事例やデータを用い、学習そのものを楽しむサポートを行った。8)課題に追加点を与え、外的報酬を提供した。

次年度は、学生からの授業評価を基に授業改善を図るとともに、学生間の積極的な意見交換を促すオンラインツールを活用して、より充実した授業を目指していきたい。

3 委員会・社会的活動

社会福祉コース主担当として、新カリキュラムに対応した実習関連科目および実習を実施することができた。日本ソーシャルワーク学校教育連盟中国四国ブロックセミナー開催校担当者として、中国四国ブロックセミナーを企画・運営することができた。

南国ネットワーク連絡会および南国市あったかふれあいセンター運営委員会において、関係機関・団体とつながりをつくることができた。今後は、高知県内の企業等との共同研究や産学官民の交流の場への参加等を通じ、産業界および地域の発展に貢献できるよう取り組んでいきたい。

○研究活動

（著書）

- ・ 矢吹知之：치매를 두려워하지 마라. 2023年4月 . SHOEISYA (SEOUL, KOREA)

（論文）

- ・ Shuji Tsuda, Hiroshige Matsumoto, Shun Takehara, Tomoyuki Yabuki, Satoko Hotta : Family caregiver's concerns and anxiety about unaccompanied out-of-home activities of persons with cognitive impairment. *BMC geriatrics*23 (1) pp396 - 399, 2023
- ・ Hiroshige Matsumoto, Shuji Tsuda, Shun Takehara, Tomoyuki Yabuki, Satoko Hotta : Association between Support after Dementia Diagnosis and Subsequent Decrease in Social Participation. *Annals of Geriatric Medicine and Research*27 (3) pp274 - 276, 2023

（学会誌巻頭言）

- ・ 矢吹知之：認知症基本法という器. 日本認知症ケア学会誌 Journal of Japanese Society for Dementia Care 22 (4), 630-631, 2024

（学会報告）

- ・ 矢吹知之：10年目の認知症カフェの全国調査報告. 第24回日本認知症ケア学会京都大会, 2023年6月.
- ・ 津田修治, 松本博成, 竹原敦, 矢吹知之, 堀田聡子：認知症のある人の自宅外活動に対する家族の不安. 第24回日本認知症ケア学会京都大会, 2023年6月.
- ・ 広瀬美千代, 矢吹知之：認知症本人と家族介護者に対する一体的支援プログラムの特徴 既存のサポート体制と比較して. 第24回日本認知症ケア学会京都大会, 2023年6月.
- ・ 矢吹知之：高知県における認知症施策の取り組みと現状. 第39回認知症の人と家族の会全国研究集会, 2023年6月.
- ・ 矢吹知之：脳卒中医療・ケアにおけるピアサポート支援の在り方「認知症の人のピアサポートと認知症カフェ」第49回日本脳卒中学会学術集会合同大会, 2023年6月.

（雑誌寄稿）

- ・ 矢吹知之, 松本望, 梅崎薫：チェックリストで点検 ケアに潜む“虐待のリスク”. おはよう 21 12月号, 中央法規出版, 2023年.

（競争的研究資金獲得状況）

- ・ 認知症の本人と家族介護者の日本版統合ケアプログラムの開発（日本学術振興会, 基盤研究C 研究課題 20K02270）（研究代表者） 2019年～2024年3月.

○教育活動

（担当科目）

認知症の理解Ⅰ，認知症の理解Ⅱ，社会福祉入門演習，社会福祉基礎演習，社会福祉専門演習Ⅰ，社会福祉専門演習Ⅱ，社会福祉専門演習Ⅲ，社会福祉専門演習Ⅳ，生活支援技術Ⅴ，介護課程Ⅲ，生活と社会福祉

○委員会活動

- ・教務委員会，共通教育専門委員会，1回生学年担当

○社会的活動

（大学主催学外向け研修等）

- ・高知県立大学地域教育研究センター「令和5年度「域学共生連携拡大会議」講話
- ・高知県立大学社会福祉学部リカレント教育講座
- ・高知県立大学令和5年度県民大学（夏季）

（学会等）

- ・日本認知症ケア学会理事，日本認知症ケア学会学会誌編集委員（委員長），
- ・日本高齢者虐待防止学会理事，日本高齢者虐待防止学会組織拡大委員会（委員）
- ・日本老年社会科学会評議員

（委員等）

- ・厚生労働省令和5年老人保健健康増進等事業「認知症施策の在り方に関する研究」検討委員（委員）
- ・高知市認知症になっても安心街歩き委員会（委員）

（学外講師，講演）

- ・宮城県登米市令和5年度認知症カフェセミナー 研修講師（2023年6月）
- ・令和5年度高知県・高知市合同認知症カフェ研修会 研修講師（2023年6月）
- ・岩手県盛岡市地域包括支援センター職員研修 研修講師（2023年7月）
- ・令和5年度仙台市認知症地域支援推進新任養成研修 研修講師（2023年7月）
- ・和歌山県介護支援専門員協会定例研修 研修講師（2023年7月）
- ・愛媛県四国中央市認知症カフェ研修会 研修講師（2023年7月）
- ・公益財団法人認知症の人と家族の会令和5年度電話相談担当者研修会 講演（2023年8月）
- ・認知症介護研究・研修仙台センター認知症介護指導者フォローアップ研修 研修講師（2023年9月）
- ・大分県豊後大野市認知症カフェ10周年記念講演会 講演（2023年9月）
- ・大阪府泉南市防災教育講演会（2023年9月）
- ・東京都千代田区認知症まちづくり講演会（2023年9月）
- ・東京都品川区令和5年度認知症講演会（2023年9月）
- ・高知県地域共生フェスタシンポジウム（2023年10月）
- ・大阪府・奈良県認知症ケア専門士会年次研修会 講演（2023年11月）
- ・認知症介護指導者ネットワーク東北部会講演（仙台市）（2023年11月）
- ・愛知県名古屋市中川区認知症サポーターフォローアップ研修講演（2023年11月）
- ・三重県四日市市認知症サポータースキルアップ研修 研修講師（2023年11月）

教育研究活動報告書（矢吹 知之）

- ・茨城県水戸市認知症カフェ運営者研修 研修講師（2023年12月）
- ・長野県上田市認知症カフェ研修会 講演（2023年12月）
- ・近畿ブロック認知症介護指導者ネットワーク研修会（2023年12月）
- ・認知症ケア専門士研修会 講師（2023年12月）
- ・令和5年認知症カフェ運営者研修会 講師（2024年1月）
- ・令和5年度第10回仙台市地域包括支援センター職員研修 講師（2024年1月）
- ・令和5年度大仙市認知症カフェ運営団体交流会（2024年2月）
- ・オレンジカフェ・本人・介護者のつどい勉強会講師（2024年2月）
- ・四万十町認知症講演会（2024年2月）
- ・津野町認知症勉強会 講師（2024年2月）
- ・令和5年香南市通所介護事業所連絡会 研修講師（2024年2月）
- ・令和5年度高知県若年性認知症フォーラム（2024年3月）
- ・土佐市あったかふれあいセンターつながりカフェ研修会講師（2024年3月）
- ・桑名市認知症の人や家族を地域で支えよう講演会 講師（2024年3月）
- ・香川県認知症グループホーム協会研修会講師（2024年3月）
- ・福岡県認知症の人と家族への一体的支援プログラム 講師（2024年3月）

○総合評価及び今後の課題

（研究活動）

日本学術振興会、基盤研究C「認知症の本人と家族介護者の日本版統合ケアプログラムの開発」は、最終年度であり、研究成果を学外に広く普及することに務める。また、研究成果としての実践を展開し継続及びその評価を行うため研究協力者を募る予定である。これらの成果を学会誌等に投稿する。

（教育活動）

新規科目が多数あり準備に追われることがあった。次年度はさらに講義内容を精査するとともに、研究内容と講義内容の循環を高めていきたい。

（委員会活動）

着任初年度であったことから業務遂行の一年であったが、次年度はさらに学内委員会活動に十分な貢献ができるようにしたい。

（社会的活動）

市町村自治体や専門職団体から研究内容に対する研修依頼、講演依頼が多くあった。研究と研修及び大学の知名度の向上に務められるよう研究と教育の発信を続けたい。また、県内自治体についても積極的な発信を務めたい。

大井 美紀

Miki OI

○研究活動

1. 論文・学会発表
なし

2. 研究会

関西大学社会安全学部廣川空美教授、菊池美奈子准教授（梅花女子大学看護リハビリテーション学部他と「大阪府下の学校教職員における『子ども食堂』支援サービスのニーズに関する実態調査』を実施する（論文投稿中）とともに、関係機関等との連携を図りながら社会的処方に関する研究を行っている。

○教育活動

(1)担当科目（学部）

- 1) 精神保健福祉援助実習指導Ⅰ
- 2) 精神保健福祉援助実習指導Ⅱ
- 3) ソーシャルワークの理論と方法（精神専門）

(2)学生支援（学部）

- ・ 国家試験受験生への個別支援を行った。
- ・ 就職活動に関する個別支援を行った。

○委員会活動

なし

○社会的活動

(1)学外非常勤講師等

- ・ 高知開成専門学校看護学科（「公衆衛生学」担当：2023年9～12月）
- ・ 関西大学社会安全学部廣川ゼミ特別講義「ヤングケアラーへの支援」
(2024年1月18日)

(2)委員等

- ・ 一般社団法人ライフコンシェル・ミモザ 理事
(成年後見活動：弁護士・司法書士らとともに神戸市において活動)
- ・ 特定非営利活動法人みどりの手 理事

(3)その他

- ・ 香南市教育委員会：チャレンジ塾学習支援委員（2023年9月～2024年2月）
- ・ 高知県中芸広域連合地域づくりサポーター養成講座：アドバイザー、講師

○総合評価及び今後の課題

（1）学部教育

- ・2023年10月より特任講師（精神・社会福祉コース）として着任した。
- ・学生への教育の質を保証するため、2名の専任教員らと協働し、主に、学部専門科目の構成や教授方法を検討し授業において実施した。
- ・また、担当コマ授業においては、具体的な事例の検討や、ロールプレイ（演習）を多く取り入れ、多職種連携による支援の実際について指導した（3回生には、次年度の実習に向けて、実習で活用できる保健医療の基礎知識や、アセスメント手法家庭訪問等に関する技術についても指導した）

（2）地域貢献活動

- ・ライフワークとして高知県内で研究及び実践活動を続けている「精神障がいを持つ人の運動支援（健康体力の促進）」について、2023年度には、支援している団体の1つ「社会福祉法人ファミリーユ高知しごとサポートセンターウェーブ」が助成金を得ることができた（公益信託高知新聞・高知放送：生命の基金）。次年度には、より効果ある運動プログラムの開発とこれまでの取り組みについて県下関係機関等への活動報告を行い、精神障がいを持つ人への運動支援が重要な社会的処方の一つであることを伝えたいと計画している。
- ・現在委員等を務めている社会的活動については継続、自らの役割を果たしたい。
 - 1）一般社団法人ライフコンシェル・ミモザ（成年後見活動）：近年、裁判所からの困難事例（外国人支援含む）の依頼も増えており、多職種連携による新たな地域支援システムの構築等も課題となっている。
 - 2）高知県香南市チャレンジ塾学習支援：本年度の支援内容をふり返り、より個別の学習レディネス・進捗状況にあわせた授業を実施する。
 - 3）高知県中芸広域連合の地域づくりにおいては、今後は、学校（小・中学校）との連携（個別事例などを通して）方法について、保健師や精神保健福祉士らとともに検討し実践活動につなげてゆく計画である。

加藤 由衣

Yui KATO

○研究活動

（1）論文・著書等

- ・西梅幸治・山口真里・加藤由衣・河野高志・中村佐織「ソーシャルワーク実践における過程展開に関する科学化—エコシステム視座の具体化に向けた試みに焦点化して—」『福祉社会研究』第24号，31-48頁，2024年3月
- ・山口真里・加藤由衣・西梅幸治「ソーシャルワーク教育におけるグループワークの再考—2021年度からの新カリキュラムに焦点化して—」『広島国際大学医療福祉学科紀要』第19号，1-15頁，2023年3月

（2）研究会参加

- ・エコシステム研究会（太田義弘主催）への参加

（3）競争的資金の獲得状況

- ・科学研究費助成事業（若手研究）「省察的実践の理論に基づくソーシャルワーク実践方法と省察ツールの開発」（平成30年度～令和5年度），研究代表者
- ・科学研究費助成事業（基盤研究C）「省察ツールを活用したソーシャルワークにおける省察的実践家の熟達モデルの開発」（令和5年度～令和7年度），研究代表者

（4）その他

- ・日本社会福祉士養成校協会編（2023）『社会福祉士国家試験模擬問題集 2024』中央法規

○教育活動

（1）担当科目

- ・「ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ」
- ・「ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ」
- ・「ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ」
- ・「ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ」
- ・「児童・家庭福祉論」
- ・「社会福祉基礎演習」
- ・「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」
- ・「ソーシャルワーク演習Ⅴ」
- ・「ソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」
- ・「社会福祉専門演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」

（2）学生支援

- ・2回生学年担当
- ・バスケットボール部顧問
- ・ハモ☆いけ顧問
- ・こどもみらい塾顧問

○委員会活動

（1）全学委員

- ・入試実施委員会
- ・FD委員会

（2）学部委員

- ・学部キャリア支援委員会
- ・学部入試実施委員会
- ・学部国試対策支援委員会
- ・学部学生委員会

○社会的活動

（１）委員・学外講師等

- ・南国市教育委員会スクールソーシャルワーカー
- ・高知県教育委員会チーフスクールソーシャルワーカー
- ・高知県社会福祉士会理事
- ・高知県子どもの環境推進委員会委員
- ・学校法人すみれ学園 高知福祉専門学校非常勤講師（「社会調査の基礎」担当）
- ・三好市社会福祉協議会 講師「よりそい相談研修会」（2023/10/27）
- ・高知県福祉研修センター事業 講師「相談援助技術基礎研修」（2023/10/12、12/11）
- ・要約筆記者養成講座 講師「社会福祉従事者としての専門性」（2023/12/16）

○総合評価及び今後の課題

（１）研究活動について

科研費の研究については、若手研究の省察的実践を支援するツール開発と基盤研究Cの熟達モデルの検討を進めた。具体的には、エコシステム研究会で開発してきた実践支援ツールを省察的実践支援ツールとして活用するための改修を進め、省察的実践の枠組みをツールに導入した。また省察的実践家としての熟達モデルの開発に向けて、理論研究から着手し、ソーシャルワーカーの熟達に関する先行研究の整理を行った。次年度は、省察的実践の熟達モデルの開発に向けて、質的調査を計画・実施していきたい。

（２）教育活動について

4月～6月まで産前産後休暇を取得していたため、講義科目を集中講義や後期へ移動するなど調整し、可能な範囲で担当した。特に集中講義科目は1日3～4コマの実施であったため、適宜グループワーク等を設定し学生の集中力を継続できるように工夫した。また、本年度は全科目対面授業で実施したため、学生の表情や取り組みの様子などを見ながら授業を進めることができた一方で、学修支援システムの機能を活用して学生の考えや意見を全体で共有するなど、遠隔授業で取り入れた方法も活かして授業を進めることができた。今後もICTを導入しながら、学生がソーシャルワークへの理解を深め、学生間や教員との相互作用を活性化できるよう工夫していきたい。

実習教育においては、事前指導期間に休暇を取得していたため、十分事前指導に関わることができなかったが、学生が安心して実習に向かうことができるように、実習開始前の少ない時間で各学生との関係構築を意識した。また実習事後指導では、クラスでグループスーパービジョンを実施し、各学生の体験をもとに子ども・家庭分野のソーシャルワークについて、ディスカッションしながらクラス全体で深めることができた。

同様に2回生学年担当としても休暇により年度当初の学生支援に携わることができなかったが、学生の就職やゼミナール選択の相談などに応じながら、個々の学生が充実した学生生活を送ることができるように支援した。また年度終わりには学年交流会を学生に企画してもらうなど、学生間の交流を促した。次年度以降も、実習教育や学生支援においては、個々の学生の状況を丁寧に把握し、ゼミ担当教員や学生支援に関わる職員、実習指導者など関係者と連携しながら学生をサポートしていきたい。

○研究活動

1. 論文

河内康文・矢吹知之・田中眞希「介護福祉士の資質向上を見据えた越境的学習の有用性に検する研究」介護福祉教育 28(2), 130-138 頁. 2024 年 1 月

2. 学会発表 なし

3. 競争資金の獲得

科学研究費補助金 基盤研究(C)課題番号：23K02164

「施設職員の『演じる行為』を涵養する研修プログラムの開発」（令和5年度～令和8年度）研究代表者

○教育活動

- ・障害の理解Ⅰ
- ・社会福祉専門演習Ⅰ
- ・生活支援技術Ⅰ
- ・生活支援技術Ⅲ
- ・介護総合演習Ⅰ
- ・介護総合演習Ⅲ
- ・介護実習Ⅰ
- ・介護実習Ⅲ
- ・介護等体験事前指導（文化学部）
- ・介護過程Ⅲ
- ・社会福祉専門演習Ⅱ
- ・生活支援技術Ⅱ
- ・生活支援技術Ⅳ
- ・介護総合演習Ⅱ
- ・介護総合演習Ⅳ
- ・介護実習Ⅱ
- ・介護論（健康栄養学部）

○委員会活動

- ・学部総務予算委員
- ・学部実習委員
- ・学部学生委員
- ・高知県キャリア教育推進事業委員長
- ・学部FD委員
- ・学部国試対策委員
- ・学部入試広報委員

○社会的活動

1. 委員等

- ・社会福祉法人ミレニアム 障害者支援施設 アドレス・高知 第三者委員
- ・高知県介護福祉士会 介護福祉士実習指導者講習会研修企画委員会委員
- ・公益財団法人ひかり協会 高知県地域救済対策委員

2. 学外講師等

- ・令和5年度 介護福祉士実習指導者講習会「実習指導の理論と実際」講師（2023年

教育研究活動報告書（田中 眞希）

11月21日）

- ・高知工科大学「介護等体験事前指導」講師（2023年3～4月※Moodle）
- ・高知県キャリア教育推進事業 高校生のための訪問講座
高知商業高等学校：2023年8月23日，室戸高等学校：2023年8月6日，高知工業高等学校：2023年9月26日，高知小津高等学校：2023年10月20日
- ・高知県キャリア教育推進事業
高校生のための講座2「県立大生と行く 職場見学ツアー」コーディネーター兼講師（2023年9月23日）
高校生のための講座4「認知症サポーター養成講座 認知症を地域で支える」コーディネーター兼講師（2024年3月21日）

○総合評価及び今後の課題

1. 教育活動について

新型コロナウイルス感染症が5類になったが，介護実習先の利用者にとってはリスクが高いため感染対策は必須のままである。そのため今年度も，実習施設や実習期間の変更などの対応が必要であった。直前の変更は学生の実習実施状況が変わるため，なるべく混乱しないことを心がけて取り組んだ。施設利用者は今後も慎重な対応が必要となるため，介護実習においては実習先との連絡や先生方と情報共有をしながら，学生の教育効果を考えて取り組みたい。

一方で，授業ではゲストスピーカーを招く，ゼミでの施設見学など，教育効果を考えた取り組みを実践できた。今後もディスカッションの場をつくることやリアクションペーパーの活用など，学生が主体的に取り組むことができるような授業内容の工夫を継続して実践したい。

介護コース卒業生を対象とした学部リカレント研究会を例年行っていたが，厚生労働支局による指導調査など業務多忙のためスケジュール調整が難しく，今年度は行うことができなかった。次年度は計画的に準備し行いたい。

2. 研究活動について

科研費を獲得した研究を今年度より進める予定であったが，業務多忙でほとんど進めることができなかった。2月より利用者への調査を開始したので，次年度以降は計画的に進めたい。

3. 社会活動について

今年度は，高知県キャリア教育推進事業委員長として4回の集合研修と10校の訪問講座を企画・運営した。今年度は全ての研修において対面で行うことができた。高校生や保護者と学生・教員が直接関わり合うことは，高校生への影響も大きく，予定時間を過ぎることも多々あった。また志願状況などから，研修に参加した高校生が受験につながっていることを肌で感じ，達成感を感じている。次年度は訪問研修の高校を12校に増やし，より充実した研修内容にしたいと考えている。

○研究活動

1. 論文

- ・ 辻真美・三好弥生・荒川泰士・下元佳子「ハラスメント事例に向き合うホームヘルパーの意識や思い」『高知県立大学紀要社会福祉学部編』73, pp49-60. 2024年3月.
- ・小原弘子・辻真美・廣内智子・島田郁子・池田光徳「非都市部在住高齢者の熱中症予防行動の実施状況」『四国公衆衛生学会誌』69(1), pp121-128. 2024年2月.
- ・田中きよむ・辻真美「韓国の福祉事情－晋州市内を中心とする福祉養成校・福祉施設－」『Humanismus』35, pp76-86. 2024年3月.

2. 学会発表

- ・ 辻真美・三好弥生・荒川泰士「ハラスメント事例に向き合うホームヘルパーのワークモチベーション」第29回日本介護福祉教育学会. 抄録集 p47. 2024年2月17日.

3. 学内外の競争的資金の獲得状況

- ・令和2年度～5年度 日本学術振興会科学研究費補助事業（若手研究）「ホームヘルパーが利用者から受けているハラスメントの実態と要因に関する研究」（代表者）
- ・高知県立大学戦略的研究推進プロジェクト「特別養護老人ホームにおける入所者の自分らしさを支えるケア指針の作成」（代表者：藤村真紀）（研究分担者）

4. その他（ポスター展示）

- ・第6回高知家ノーリフティングフォーラム「高知県ホームヘルパー連絡協議会キャリア教育推進事業 高校生へのアプローチ」荒川泰士・川田麻衣子・筒井賀代・田辺建太・吉名絵美・下元源周・谷岡幹修・戸田理恵・福島寿道・辻真美, 2024年2月4日

○教育活動

1. 担当科目

- ・介護過程Ⅱ
- ・介護の基本Ⅱ, Ⅲ
- ・コミュニケーション技術
- ・社会福祉専門演習Ⅰ～Ⅳ
- ・介護総合演習Ⅰ～Ⅳ
- ・介護実習Ⅰ～Ⅲ
- ・介護論（健康栄養学部）

2. クラブ活動

- ・UOK 手話サークル副顧問（立志社中）

○委員会活動

- ・災害対策委員
- ・健康長寿センター運営委員
- ・国際委員
- ・総務予算委員会
- ・学生委員会（23期生学年担当）
- ・就職委員会
- ・介護人材確保事業部会

○社会的活動

1. 委員等

- ・富士屋ヘルパーステーションベターライフ登録ヘルパー
- ・高知県ホームヘルパー連絡協議会理事
- ・一般社団法人高知の在宅ケアを守る会理事
- ・高知県介護福祉士会倫理委員会委員
- ・高知市斎場運営協議会委員
- ・介護労働安定センター高知支部
（ヘルスカウンセラー，雇用管理コンサルタント，介護人材育成コンサルタント）
- ・日本認知症ケア学会査読委員
- ・日本介護福祉学会評議員及び査読委員
- ・特定非営利活動法人るーちえ第三者委員
- ・高知県公立学校ハラスメント等第三者委員会委員

2. 学外講師等

- ・高知市三里地域包括支援センター，高知市社会福祉協議会「いきいき百歳体操体力測定の見学会 レクリエーション」（2023年4月5日）
- ・高知大学「介護等体験事前指導」（2023年4月10日 オンライン）
- ・永国寺キャンパス「介護等体験事前指導」（2023年5月8日）
- ・高知県立嶺北高等学校「介護の基本Ⅲ」授業見学（2023年6月8日）
- ・なないろ クレヨンUoK! UOK手話サークル学生とラジオ出演(2023年6月20日)
- ・高知県福祉研修センター ケアテーマ別基本研修「レクリエーション」（2023年7月5日，8月9日，10月5日 オンライン併用）
- ・高知県・香川県 16校への高校訪問（内香川中央高校訪問講座）（2023年6月～9月）
- ・高知市三里地域包括支援センター「いき百応援プロジェクト いきいき百歳体操×高知県立大学」（2023年7月6日 晴海公民館，2023年11月10日，12月7日，2024年3月28日 船倉津波避難タワー）
- ・高知市居宅介護支援事業所協議会（西部ブロック研修）「多職種連携 ハラスメントについて」（2023年8月21日）
- ・高知県ヘルパー連絡協議会「事業所で取り組むハラスメント」（2023年8月24日）
- ・介護労働安定センター 短期専門講座「見直そうレク支援」（2023年9月2日）
- ・第39回本山町公開講座夜学（お昼の特別講座）「健康体操」（2023年9月5日）

教育研究活動報告書（辻 真美）

- ・高知県キャリア教育推進事業訪問講座 室戸高等学校，安芸高等学校，春野高等学校（2023年9月6，8，28）
- ・社会福祉学部韓国短期研修引率（2023年9月10日～17日）
- ・高知県福祉・介護職員若手職員研修及び介護交流会「コミュニケーションについて考える」（2023年9月21日，12月22日）
- ・令和5年度 中芸広域連合 生活援助従事者研修「職務の理解」（2023年9月27日）
- ・ひなた薬局認知症カフェ講座と参加「秋からはじめよう！風邪の予防」（2023年9月30日，10月28日）
- ・高知県キャリア教育推進事業 集合研修3「県大生と行く最新の福祉体験ツアーinふくしフェア2023」（2023年10月22日）
- ・第17回高知医療センター学術集会特別演題座長「UOK 手話サークルの活動発表」（2023年10月28日）
- ・日中・認知症ケア研究の交流会 南京都市職業学院（2023年10月30日，11月6日）
- ・介護労働講習（実務者研修含）介護現場実習代替授業「介護職が受けるハラスメント」（2023年11月7日）「サービス提供責任者とは」（11月20日）
- ・第16期安芸シルバー短期大学「高齢者が元気になる介護予防」（2023年11月24日）
- ・進化型実務家教員養成プログラム TEEP セミナーin 高知 登壇（2023年12月11日）
- ・高知県介護支援専門員連絡協議会 令和5年度高知ブロック研修会「これってアウト？ハラスメント研修」（2023年12月9日 オンライン）
- ・令和5年度高知県老人福祉施設協議会合同研修「職場におけるパワハラ・モラハラについて」（2023年12月12日）
- ・第8回認定看護師・専門看護師実践発表会 基調講演「命や暮らしを支える看護—ともに生きるを支えるホームヘルパーとの相互理解—」（12月16日）
- ・香南市高齢者介護課「ちょっと気になる介護のこと」（2023年12月18日）
- ・土佐町社会福祉協議会 令和5年度介護予防普及啓発事業「介護予防～体操を日常に！転びにくい身体づくり～」（2024年1月12日）
- ・第67回高知医療センター地域医療連携研修会／高知医療センター・高知県立大学 包括的連携事業 講演3「将来の自分に投資！！今から貯筋！！」（2024年2月3日）
- ・津野町高齢者対象健康教育「老いを受け止める」参加（2024年2月14日）
- ・令和5年度第29回介護福祉教育学会パネルディスカッション パネリスト「地域での実践による学びをいかに学生に語り、伝えていくか」（2024年2月17日）
- ・高知県ヘルパー連絡協議会 令和5年度高知県キャリア教育推進事業「第8回高校生介護カフェ」宿毛高校訪問講座（2024年2月20日）
- ・第9回高知県社会教育実践交流会「立志社」UOK 手話サークル担当教員関係者として交流会タイムに参加（2024年2月24日）
- ・令和5年度高知県ホームヘルパー連絡協議会キャリア教育推進事業 カイゴのシゴト1日バスツアー「進路についての講義」（2024年3月2日）
- ・川崎医療短期大学松丘会医療介護福祉科支部同窓会「福祉の学び舎研修会—社会とつながるバトンリレー」参加（2024年3月2日）
- ・高知県認知症ケア専門士会準備委員会 事例発表及び意見交換会（2024年3月30日）
- ・介護労働安定センター高知支部 ヘルスカウンセラー，雇用コンサルタント，介護人材育成コンサルタント（4月3，26，5月20，22，23，6月9，23，8月16，18，10月20，11月14，30，12月21，2024年1月19，2月21，3月1，5 計17回）
- ・令和5年度 立志社中プロジェクト2023 担当教員 UOK 手話サークル「～誰一人取り

教育研究活動報告書（辻 真美）

残さない街づくり～」活動地域 高知市

- ・健康長寿センター熱中症予防教育チームによる予防行動啓発媒体として「熱中症予防カレンダー」を作成
- ・高知県在住高齢者を対象とした熱中症予防教育の実施とその評価（6 / 30, 7 / 4, 7, 8, 11, 15, 8 / 11）
- ・富士屋ヘルパーステーションヘルパー定例会及び研修会（2023 年 4 月, 2024 年 3 月）

○総合評価及び今後の課題

1. 教育活動について

介護福祉士養成教育において重要な科目の一つ「介護過程」を担当した。また「介護の基本Ⅱ」では、対象者の生活を地域の中で支えることの気づきにつなげるべく、片岡先生とともに体験型セミナーへの参加を授業の一環として取り入れた。地域住民の方との交流やサポートを学生らは積極的に行っていた。今後、地域住民の方と学生が新たにつながっていくことが期待できる。

行貞先生と泣き笑いしながら4回生の学年担当を務め終えた。実習先の利用者の方、指導者の方、地域住民の方、学部の先生方、学部事務の前田さん、事務局の方、皆さまには多大なるご尽力、ご支援を頂きましたこと、心より感謝申し上げます。23期生の幸せと活躍をこれからも祈っております。

2. 研究活動について

科研最終年となった今年度、先生方の励ましや貴重なご助言を得ながら口頭発表と論文（報告）をなんとか公表することができた。得られた研究成果は、現場の実践者の方にフィードバックできるよう、丁寧に分析を続けていくことを常に忘れず研究を進めていきたい。

3. 社会活動について

各現場のニーズに沿った研修内容を検討し、目指していくことは、利用者の方や家族介護者の方の生活の豊かさや安心、居場所づくりへと繋がっていく。現場で今まさに起こっている事象を実践者の方々から学び、自らも触れることを続けていきたい。利用者及びケアラーの方々、エッセンシャルワーカーとして尊敬する実践者の方々や卒業生に向けて、少しでも貢献につながる機会を創出できる社会活動を目指していきたいと考えている。

行 貞 伸 二

Shinji YUKISADA

○研究活動

1. 論文

行貞伸二「町村部における子ども・子育て支援事業計画の現状と課題—プログラム評価の理論にもとづく3町村の分析—」『高知県立大学紀要 社会福祉学部編』、第73巻、pp. 63-70、2024年3月。

西島文香・行貞伸二「地方自治体における住宅確保・居住支援施策の現状—高知県全市町村を対象にした2021年アンケート調査分析から—」『高知論叢（経済学会）』第126号、pp. 177-197、2024年3月。

2. 著書

なし

3. 研究発表

行貞伸二「町村部における社会福祉行政の実態と福祉計画」第64回日本社会医学学会総会（早稲田大学、2023年7月29日）。

4. 競争的資金の獲得

なし

○教育活動

【担当科目】

- | | |
|----------------|--------------------|
| ・社会福祉史 | ・権利擁護論 |
| ・公的扶助論 | ・社会福祉の原理と政策Ⅰ・Ⅱ |
| ・ソーシャルワーク演習Ⅱ・Ⅴ | ・ソーシャルワーク実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ |
| ・ソーシャルワーク実習 | ・社会福祉専門演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ |
| ・生活と社会福祉 | ・地域学実習Ⅰ |

○委員会活動

1. 全学

情報処理施設委員会、学生委員会、紀要委員会、防災対策プロジェクト

2. 学部

研究倫理審査委員会

○社会的活動

[学外非常勤講師、研修会講師等]

- ・高知学園短期大学看護学科（「看護と福祉」、全8回）
- ・高知市社会福祉協議会 市民後見人養成講座「市民後見概論」（2023年6月16日）

[委員等]

- ・高知県共同募金会 配分委員

- ・高知県共同募金会 評議員
- ・高知県営住宅入居者選考基準等審査委員会 委員
- ・高知市民生委員推薦会 委員
- ・高知市行政改革推進委員会 委員

○総合評価及び今後の課題

1. 教育活動について

（1）授業について

「社会福祉史」「権利擁護論」「公的扶助論」「社会福祉の原理と政策Ⅰ・Ⅱ」などの講義科目も対面授業に戻った。対面授業においても Moodle の活用は継続し、配布資料を掲示し、また、授業回ごとに Moodle のフィードバック機能でリアクションペーパーを提出してもらい、学生個々の理解度を確認するばかりでなく、学生に対してコメントも行うなど双方向性に配慮し、また、授業内容や教授方法の改善にも役立てた。「社会福祉史」および「権利擁護論」は4回生配当科目であることから、社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験への対応の観点から、Moodle の小テスト機能を利用して、国家試験の過去問に回答する小テストをすべての授業回ごとに実施し、知識の定着に配慮した。

演習科目については、事例を用いる、グループワークを取り入れるなど、学生の主体的学びを促すよう配慮した。また、学生個々の思いや到達度をつねに把握できるよう心掛けた。

（2）学年担当について

2021年度より辻真美先生と23期生の学年担当を受け持ち、今年度が最終学年であった。就職活動、卒業論文、国家試験など関門が多い4回生であったが、3月には卒業式の日を迎え、ほぼすべての学生を見送ることができた。

2. 研究活動について

高知県の町村福祉行政の実態に関する研究を進めた。

最大の課題として、今後10年の研究を見通し、研究計画を再検討したい。体系立てた研究に取り組みたい。

3. 社会活動について

社会福祉学部教員として社会に貢献できる活動を行いたい。

○研究活動

（1）論文

- ・稲垣佳代，井上夏子（2024）「ソーシャルワーカーの仲間づくりや人材育成のコンピテンシーに関する研究 ―精神障害者の地域移行支援に着目して―」『高知県立大学紀要 社会福祉学部編』第 73 巻，pp. 71-85.
- ・藤代知美，高橋真紀子，塩見理香，稲垣佳代（2023）「メンタルヘルスにおける『つながり』の概念分析」『高知女子大学看護学会誌』，第 49 巻，1 号，pp. 26-37.
- ・塩見理香，藤代知美，高橋真紀子，稲垣佳代（2023）「メンタルヘルス上の課題を抱える人の専門職や地域とのつながりの構築」『高知女子大学看護学会誌』，第 49 巻，1 号，pp. 57-69.

（2）著書

- ・鈴木孝典（著，編集），鈴木裕介（著，編集），稲垣佳代（著）ほか（2023）「第 2 章 人々のライフサイクルと暮らしの課題」『図解でわかるソーシャルワーク』中央法規出版，pp. 26-29.
- ・森克彦，吉岡夏紀，稲垣佳代ほか（2023）『ソーシャルワーカーのための就労支援ハンドブック』公益財団法人日本精神保健福祉士協会

（3）発表

- ・溝内義剛，森克彦，稲垣佳代ほか（2023）「ソーシャルワーカーのための就労支援ハンドブックの検討プロセス 就労・雇用支援の在り方検討委員会活動の取り組みと活動に参加しての気づき」公益財団法人日本精神保健福祉士協会 第 22 回日本精神保健福祉士学会学術集会

（4）学内外の競争的資金の獲得状況

- ・2023 年度 日本財団助成事業「ソーシャルワーク視点による精神障害者のための就労支援ハンドブック及び人材育成プログラムの開発」（公益財団法人日本精神保健福祉士協会 就労・雇用支援の在り方検討委員会 プロジェクトメンバー 森克彦・吉岡夏紀・稲垣佳代ほか）
- ・令和 4(2022)年度 厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業）「障害者総合支援法の見直しを踏まえた，地域で暮らす障害者の地域生活支援の効果的な支援方法及び評価方法の検討のための研究」（研究代表者：田村綾子，研究分担者：青石恵子，鈴木孝典，曾根直樹，藤井千代，研究協力者：稲垣佳代 ほか）

○教育活動

（1）講義

- ・ソーシャルワークの理論と方法（精神）
- ・就労支援サービス
- ・精神保健福祉援助演習Ⅰ，精神保健福祉援助演習
- ・精神保健福祉援助実習指導Ⅰ・Ⅱ
- ・精神保健福祉援助実習Ⅰ・Ⅱ

（2）講義以外

- ・国家試験受験生への学習支援

○委員会活動

- ・実習委員会
- ・国試対策支援委員会
- ・入試委員会
- ・入試広報部会

○社会的活動

- ・日本精神保健福祉士協会「就労・雇用支援の在り方検討委員会」委員
- ・高知県精神医療審査会 委員
- ・高知医療学院 非常勤講師（「社会福祉学」担当）
- ・土佐リハビリテーション学院 非常勤講師（「社会福祉学概論」担当）
- ・特定非営利活動法人 就労サポートセンターかみまち 理事
- ・高知県立大学同窓会しらさぎ会 理事
- ・大学見学対応（国際中学校・高等学校）
- ・第22回日本精神保健福祉士学会学術集会 第2分科会座長
- ・ソーシャルワーク視点による精神障害者のための就労支援研修 講師

○総合評価と今後の課題

（1）教育活動について

新カリキュラムへの移行期であり、これまでの取り組みの見直しと内容の更新に取り組んだ。また、精神保健福祉士養成課程の教員の不足が続いている状況については、特任講師や非常勤講師、代替教員の雇用。ゲスト招聘等により、学生に対して不利益が生じないように協議や調整を重ねて対応した。学生自身の努力や上記の取り組みが功を奏し、精神保健福祉士国家試験では4回生22名全員が合格した。

学部長をはじめ、精神保健福祉士養成課程の運営にお力添えをいただきました教職員の皆様、ゲストスピーカーを快くお引き受けくださった現場の皆様にこの場をお借りして深謝申し上げます。

（２）研究活動について

学内外において共同研究の機会をいただき、研究分担者、研究協力者として調査・研究に携わることができた。それぞれの立場で携わることにより、研究の進捗管理、共同研究者への配慮、調査協力者との意見交換の機会の持ち方など共同研究に係るさまざまなノウハウを学ぶことができた。

（３）社会活動について

日本精神保健福祉士協会「就労・雇用支援の在り方検討委員会」の委員として、日本財団からの助成を受け「ソーシャルワーク視点による精神障害者のための就労支援ハンドブック及び人材育成プログラムの開発」に取り組んだ。ハンドブック作成、完成したハンドブックを用いた研修など盛りだくさんの１年であった。私を除き、委員は現場で活躍しているエキスパートばかりのなか、「自分に何ができるのか」「力不足の私がこのまま委員を務めていていいのか」と悩んだ時期もあった。しかし、委員の皆さんはいつも私をあたたく迎え入れ、自分で自分にブレーキをかける私に役割をくださった。本務のほうでは教員不足などさまざまな状況から心身が不安定な状況もあったが、委員の皆さんのおかげで何とか踏ん張ることができ、微力ではあるが委員として貢献することができた。

また、日本精神保健福祉士学会学術集会では初めて座長を経験させていただいた。時間をかけて発表に向けて準備され、緊張しながら懸命に発表されている方々を前に、労いや敬意、感謝など自然とさまざまな感情が生まれた。どの発表も実践への還元を意識し、結果を出すだけでなくその先も踏まえた発表だった。大学に身を置く者として、現場の方々が調査・研究等をされる際にサポートできるよう力をつけたいと感じた。

（４）今後の課題

現在は新カリキュラムへの移行期であり、学内外で必要となる手続き等も抜かりがないよう進めたい。精神保健福祉士養成課程の教員が不足している厳しい状況が次年度も続くため、学生に不利益がないよう尽力したい。

○研究活動

1. 論文
 - ・上杉麻理「生活相談員の介護経験の活用—ショートステイ業務における在宅支援を通して—」『高知県立大学紀要社会福祉学部編』73, 35-48.
2. 著書・発表
なし
3. 学内外の競争的資金の獲得状況
 - ・研究分担者
日本学術振興会科学研究費補助事業(基盤研究(C)令和5年度～令和9年度)
研究課題名:「施設職員の『演じる行為』を涵養する研修プログラムの開発」
研究代表者: 田中眞希

○教育活動

- ・生活支援技術Ⅱ
- ・生活支援技術Ⅲ
- ・介護総合演習Ⅰ
- ・介護総合演習Ⅱ
- ・介護総合演習Ⅲ
- ・介護総合演習Ⅳ
- ・介護実習Ⅰ
- ・介護実習Ⅱ
- ・介護実習Ⅲ
- ・介護過程Ⅳ
- ・介護技術

○委員会活動

- ・災害対策委員会
- ・実習委員会
- ・国試対策委員会
- ・介護人材確保事務部会

○社会的活動

1. 委員
 - ・高知県若い世代の福祉・介護人材確保・育成検討会
2. 外部講師等
 - ・高知県キャリア推進事業高校生講座 室戸高校:2023年9月6日,高知県立岡豊高校:2023年9月25日
 - ・高知工科大学「介護等体験事前指導」講師(2024年3月～4月※Moodle)

○総合評価及び今後の課題

1. 教育活動について

初めて教員として学生に関わり、全てにおいて手探りで過ごした1年であった。他の先生方の授業や関わりを参考に、自身の経験を活かした教育や関わりをしたいと考えていたが、気づけば1年が過ぎ去っていた。その中で介護教員講習会を受け、介護とは何か、介護福祉士に求められているものは何か、養成校に求められている教育とはどのようなものかについての考えが深まったように思う。またそれだけでなく、他の地域の教員と話す中で、学生理解や授業の組み立て方についても考えることができた。今後は、このことを活かし効果的な授業や学生のサポートに努めたい。

また、介護実習では初めて学生を担当した。個々の学生に対してどのように関わり、何を伝えれば良いのか。どのような配慮が必要なのか。そして実習先との調整について等、介護コースの先生方にも相談し、助言をいただきながら取り組んだ。学生達と関わる中で、授業だけでは知り得なかった新たな一面も発見することができ、学生理解や関係性の構築に役立ったと考える。試行錯誤する中で、一方的な指導ではなく、学生と一緒に考え、学生が1つでも自分で何かに気づけるように関わることを心がけたが、不十分な点もあったように思う。今後も引き続き実習先や先生方との情報共有を行うと同時に、学生との対話を大切にして関わっていききたい。

2. 研究活動について

修士論文としてまとめた研究について再度熟考し、ブラッシュアップしたものを紀要に投稿することができた。これにより、自身の研究について改めて整理でき、さらに理解が深まったように感じる。今後は同分野についてさらに研究を発展させていきたい。

また、科学研究費助成事業への応募を2回行った。助成金をいただくことはできなかったが、研究について、より具体的に考えることができたように思う。助成事業への応募は今年度が初めてであり、始めはどのように申請すれば良いのかもわからなかったが、先生方からの助言や相談に乗っていただくことで形作ることができた。今まで過ごしてきた福祉の現場ではなく、研究の分野に入ったのだと実感するとともに、今後は現場に還元できるよう、研究に励みたい。

3. 社会活動について

高知県キャリア推進事業高校生講座では、岡豊高校と室戸高校を訪問した。母校である岡豊高校では自身の実体験も踏まえながら主にファシリテーターの役割を務め、室戸高校では県立大の卒業生として話を行った。どちらも本学の卒業生であり、自身が在学時の同級生に講師をお願いした。高知県内の福祉の現場でしっかりと経験を積み活躍している2人の姿を見ることができ、うれしく思うとともに、励みにもなった。また、高校生にとっては大学生や福祉の現場で働く先輩から話を聞く機会は少なく、今回の交流は良い刺激になっていたと感じる。次年度も、福祉の重要性や面白さを伝え、より福祉への興味関心を引き出せるような関わりを行っていききたい。

大熊 絵理菜

Erina OGUMA

○研究活動

（1）論文

- ・ 大熊絵理菜, 西内章 (2023) 「スーパービジョンにおけるスーパーバイザーが抱く感情についての一考察」『医療社会事業 62』, pp. 135-140.

（2）著書

- ・ 鈴木孝典（著，編集），鈴木裕介（著，編集），大熊絵理菜（著）ほか (2023) 「第2章 人々のライフサイクルと暮らしの課題」『図解でわかるソーシャルワーク』中央法規出版, pp. 22-25.

○教育活動

- ・ ソーシャルワーク演習Ⅲ
- ・ ソーシャルワーク演習Ⅰ
- ・ ソーシャルワーク実習指導Ⅱ
- ・ ソーシャルワーク実習Ⅰ
- ・ ソーシャルワーク実習Ⅲ
- ・ 医療ソーシャルワーク論
- ・ チームアプローチ
- ・ ソーシャルワーク演習Ⅳ
- ・ ソーシャルワーク実習指導Ⅰ
- ・ ソーシャルワーク実習指導Ⅲ
- ・ ソーシャルワーク実習Ⅱ
- ・ 保健医療サービス
- ・ 医療福祉論

○委員会活動

- ・ 学部実習委員会
- ・ 学部国試対策支援委員会
- ・ 学部総務・予算委員会
- ・ 学部広報支援委員会
- ・ 学部情報処理委員会
- ・ 高知県立大学・高知医療センター包括連携事業

○社会的活動

1. 学外講師等

- ・ 学校法人すみれ学園 高知福祉専門学校非常勤講師（「ソーシャルワークの理論と方法」担当）
- ・ 令和5年度 高知市ケアマネジメント研修「ケアマネジメントの質をあげる面接技法」講師〔2023年11月15日（水）高知市保健福祉センター3階会議室〕
- ・ 令和5年度 高知県医療ソーシャルワーカー協会専門研修「Let's事例検討～事例検討を実践に活かす～」講師〔2023年11月25日（土）高知医療センター1階会議室〕
- ・ 令和5年度 高知県医療ソーシャルワーカー協会月例会研修「スーパービジョンにおけるズレを再考する」講師〔2024年1月27日（土）近森病院管理棟3階会議室〕

○総合評価及び今後の課題

1. 教育活動について

今年度は学生へスーパービジョンを意識した指導や助言等を行った。今までも指導や助言は行ってきたが、自分自身の価値観や思いが混在して発言していたのではないかと思う。スーパービジョンを意識すると、学生の持っている力を信じ、その力を発揮できるように指導や助言を行うため、自分自身へ関心が向くのではなく、学生へ関心が向く。そのため、授業での学生への指導や助言における言葉かけが、違ったように感じている。また関わった学生のことを今まで以上の情報量と捉え方で理解できたとも考えている。

しかし、自分自身の一感情で学生へ指導や助言をしてしまったこともあった。そのため自分自身の感情をどのように整理したりコントロールすればよいかについて、常に考えながら仕事していた。自分自身の学生への関わる姿は、学生へ影響すると考えているため、次年度もスーパービジョンを意識した指導や助言ができる教育を行いたいと考えている。

2. 研究活動について

今年度も引き続き、医療ソーシャルワークにおけるスーパービジョンについての研修会を、現場の医療ソーシャルワーカーへ実施したり、スーパーバイザーへコンサルテーションする機会があった。また、自分自身もスーパービジョンの理解を深めるために研修会へ参加した。その中で、スーパーバイザーは誰もが不安を抱えながら実践していることが理解できた。そのため次年度はスーパーバイザーを支えられるようなスーパービジョン体制を構築できるような研究を行いたいと考えている。そのためにも、引き続きスーパーバイザーへのコンサルテーションの実施やそこで学んだことを研究活動へ繋げていきたいと考えている。

3. 社会活動について

今年度は、高知県医療ソーシャルワーカー協会の月例会部会で会の運営を行い、研修会を実施した。研修会の大半が、ハイブリット開催となったが、その中で、現場のソーシャルワーカーと積極的にコミュニケーションをとり、実践についてや就職のことなど、様々な情報共有を行うことが出来たと感じている。

現在、学生（ソーシャルワーク実習）が、実習指導者に対して実習を報告する機会が無くなっている。実習指導者側からすれば、実習を経て学生がどのように理解していたり、どのような学びとなっているか等、関心が向けられている。次年度は協会活動を通じて、学生が実習について学んだこと、考えたことを実習指導者へフィードバックする機会を作りたいと考えている。

○研究活動

1. 論文
なし

2. 学内外の競争的資金の獲得状況

日本学術振興会科学研究費補助事業（基盤研究（C）令和4年度～令和6年度）

研究課題名：「重度要介護高齢者の内在的能力に着目した生活継続のための指標に関する研究」研究代表者：片岡妙子

日本学術振興会科学研究費補助事業（基盤研究（C）令和5年度～令和9年度）

研究課題名：「施設職員の『演じる行為』を涵養する研修プログラムの開発」
研究代表者：田中眞希

○教育活動

1. 担当科目

- | | |
|----------|-----------|
| ・介護総合演習Ⅰ | ・介護の基本Ⅱ |
| ・介護総合演習Ⅱ | ・介護の基本Ⅲ |
| ・介護総合演習Ⅲ | ・介護過程Ⅳ |
| ・介護総合演習Ⅳ | ・生活支援技術Ⅴ |
| ・介護実習Ⅰ | ・医療的ケアⅠ |
| ・介護実習Ⅱ | ・医療的ケアⅡ |
| ・介護実習Ⅲ | ・社会福祉入門演習 |
| | ・社会福祉基礎演習 |

2. 26期生学年担当

○委員会活動

- ・学部学生委員会
- ・学部実習委員会
- ・介護人材確保事業部会委員
- ・健康長寿センター委員
- ・学部情報処理委員会
- ・学部国試対策支援委員会

○社会的活動

1. 委員等

- ・高知県若い世代の福祉・介護人材確保・育成検討会委員

2. 地域住民に向けた講師等

- ・健康長寿センター体験型セミナーin 三里（10月4日）

○総合評価及び今後の課題

1. 教育活動について

（1）学年担当について

今年度着任された矢吹先生と1回生（26期生）の学年担当となった。入学前より要配慮の学生が確定しており、矢吹先生と打ち合わせを行いながら、新1回生受け入れの準備を進めた。また外国人留学生も3名と多く、支障なく授業を受けられるよう学生本人とも相談の上、サポートを行った。体調不良やその他の理由等で欠席が続く学生や、配慮申請が必要な学生もあり、その都度、矢吹先生と学生の状況を共有しながら支援を行った。

（2）介護福祉士養成課程について

今年度の実習については、施設内の新型コロナウイルス発症等により、急遽実習先の変更や日程の調整が必要となったが、大幅な影響なく実施することができた。3回生は、介護実習Ⅰの際3分の2が学内実習となっており、対象者に直接関わる機会が少ない学年であった。事前授業の「介護過程Ⅳ」で、受け持ち利用者に対する介護過程の展開が実施できるよう上杉先生を中心に指導を進めた。実習でどのように介護過程を展開できたかは学生個々に違ってくるが、次年度、この実習体験から事例研究にすすめられるよう、担当学生の指導を行っていく。

2. 研究活動について

研究代表者として、日本学術振興会科学研究費補助事業（基盤研究（C）令和4年度～令和6年度）の研究活動を行った。施設職員への調査を実施し、研究分担者である愛知東邦大学三好教授と調査結果の内容を検討した。今年度中に結果をまとめるには至らなかったため、次年度調査内容をとりまとめ考察を進めていく。

田中眞希先生が研究代表者である日本学術振興会科学研究費補助事業（基盤研究（C）令和5年度～令和9年度）については、今年度は調査実施に向けた準備を田中眞希先生が中心となり進められている。今後、先生方の研究スケジュールに沿って自身の分担内容に着手していく。

3. 委員会活動

主にこれまでの委員を継続して担当した。介護人材確保事業部会委員による高校訪問では、例年通りの訪問に加え、介護コース長の河内先生が進められた計画に沿って、事前の訪問も追加した。高校生と進路担当教員が介護福祉に関心を寄せられるよう、在学生、卒業生の協力のもと、実施することができた。

4. 社会活動について

高知県若い世代の福祉・介護人材確保・育成検討会に委員として参加し、各団体や県の取組について共有することができた。介護人材確保事業部会は高知県の補助を受けて実施している事業のため、この会議の内容を本学部が行っている高校生を対象としたアクティブラーニングによるキャリア教育（訪問講座）や、高校生や保護者を対象としたアウトリーチ方式による講義や相談会（集合研修）に反映できるよう、担当の先生方と相談していきたい。

玉利 麻紀

Maki TAMARI

○研究活動

競争的資金の獲得

- 1) 科学研究費補助金（基盤研究（C）、課題番号：19K02191、2019-2024年度）、研究課題名：「社会的マイノリティへの偏見軽減要因の探索～無関心という壁を越えるために～」
研究代表者：玉利 麻紀
- 2) 令和5年度 文部科学省「大学・専門学校等における生涯学習機会創出・運営体制のモデル構築」、研究課題：「リカバリーカレッジ高知による新たな共生の場づくり」、実施主体：高知県立大学（研究期間 2022年5月-2023年3月）、研究代表者：玉利 麻紀

著書(共著)

玉利麻紀（2023年11月）「第3章 ソーシャルワーカーが挑む課題 - SDGsとのかかわり、⑤-2「『ジェンダーマイノリティ』の問題とソーシャルワーク」、鈴木孝典・鈴木裕介（編著）「図解でわかるソーシャルワーク」、中央法規、80-82頁。

論文(共著)

玉利麻紀・佐々木旭美「にんげん図書館の展開からみえてきた景色 ～北海道砂川市『いそのさんち』の活動を中心に～」（2024年3月）Humanismus, 第34号, 74-81頁。

学会発表(国内)

- 1) 玉利麻紀、橋本達志、佐々木旭美、栄 セツコ、「にんげん図書館を通して共生の場を創り出す（1）～参加した学生の感想分析から～」（2023年11月）第58回公益社団法人日本精神保健福祉士協会全国大会第22回日本精神保健福祉士学会学術集会、分科会 I-E メンタルヘルス、抄録集 64頁。
- 2) 橋本達志、玉利麻紀、佐々木旭美、栄セツコ「にんげん図書館を通して共生の場を創り出す（2）～「生きている本」がどのように影響を受けたか～」第58回公益社団法人日本精神保健福祉士協会全国大会第22回日本精神保健福祉士学会学術集会、分科会 I-E メンタルヘルス、抄録集 65頁。

その他(報告書)

令和5年度 文部科学省「大学・専門学校等における生涯学習機会創出・運営体制のモデル構築」、 「リカバリーカレッジ高知による新たな共生の場づくり」成果報告書

○教育活動

1) 担当科目（10科目）

精神保健福祉援助実習指導Ⅰ、精神保健福祉援助実習指導Ⅱ、精神保健福祉援助演習、精神保健福祉援助実習Ⅰ、精神保健福祉援助実習Ⅱ、心理学理論と心理的支援、就労支援サービス、国際福祉論、対人関係とメンタルヘルス（前期・永国寺キャンパス）、対人関係とメンタルヘルス（後期・池キャンパス）

2) 学生支援

- ・ 国家試験の受験生への学習支援を行った。
- ・ 就職活動に困難を覚える学生に、個別に就職支援を行った。
- ・ メンタルヘルス上の課題を抱える学生に、個別支援を行った。

○委員会活動等

学部FD委員、学部教務委員、学部実習委員、学部国試対策支援委員

○社会的活動

1) 委員等

- 2018（平成31）年度～ 高知県精神保健福祉協会 研修委員
- 2018（平成31）年度～ 介護労働安定センター高知支部 ヘルスカウンセラー
- 2021（令和3）年度～ 高知県精神医療審査会 審査委員
- 2021（令和3）年度～ 高知県精神保健福祉士協会 研修部会委員
- 2022（令和4）年度～ 社会福祉法人土佐あけぼの会 第三者委員
- 2022（令和4）年度～ 県立野市総合公園再整備方針検討委員

2) 研修講師、講演等

- ・ NPO法人HIT主催 勉強会、講師「Human Library ことはじめ」（2023年8月31日、オンライン）
- ・ 高知県生徒保健委員研修会、講師「ストレス研修」（2023年9月8日、場所：岡豊高校）
- ・ 夜学、講師、「それってほんとに『できない』の？—発達障がい者支援が教えるヒント—」（2023年9月13日、場所：本山町プラチナセンター）
- ・ 未来をひらく教育のつどい～高知県高校・障害児学校教育研究集会～パネルディスカッション、パネラー、（2023年9月23日、場所：高知城ホール）
- ・ リカバリーフォーラム分科会「リカバリーカレッジ大集合」出演（2023年10月29日、オンライン）
- ・ 令和5年度高知県社会福祉協議会福祉職員基礎講座、講師「心理学の基礎」（2023年11月13日、オンライン開催）
- ・ 令和5年度「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業」「共に学び、生きる共生社会コンファレンス まるのつどい」全体会パネルディスカッションパネラー、分科会1「リカバリーカレッジ高知」講師（2023年12月26日、場所：愛媛県県民文化会館）
- ・ 未来をひらく教育のつどい～高知県高校・障害児学校教育研究集会～「多様性の教室」講師（2024年2月17日、場所：高知県立岡豊高校）

○総合評価及び今後の課題

精神・社会福祉コースの教員半減も2年目を迎え、大変厳しい状況であったが、学生の学習機会を保障するだけでなく、学生との共同創造を意識しながら、学生の主体性を伸ばすよう態度を改め、教育に携わった。学生は非常に熱心に取り組んでくれて、その成果は国家試験の合格率100%にも表れているように思う。また、精神・社会福祉コースの演習実習科目や国際福祉論、就労支援サービス等の担当科目において、その分野の当事者や専門家をゲストスピーカーとして招き、多彩かつ専門的な学びを学生へ届けることができた。ゲストスピーカーからのリアリティ溢れる話題提供に対し、学生からのコメントは大変好評であり、実りのあるものとなったと感じている。

研究面においても充実した一年だった。文科省から2年連続でモデル事業を受託し、永国寺キャンパスを拠点に、精神疾患等、障害を抱える人と専門職との共同創造を試みた。さらに、今年度は社会福祉学部だけでなく、看護学部の藤代准教授もスタッフに加わり、学際的な取り組みのきっかけとなった。本研究は2024年度も引き続き文科省モデル事業

教育研究活動報告書（玉利 麻紀）

に採択されており、高知県の共生社会への寄与を目指して運営を行なっていく。

また、科研に関しても、北海道での取り組みへ協力したほか、高知県内でも、一般開放形式の「にんげん図書館」を初めて開催することができた。他大学教員との連携のもと、学会発表も行った。これらの成果を論文の形に昇華するのが喫緊の課題である。

○研究活動

1. 学会発表

- ・福田敏秀「認知症対応型共同生活介護事業所の管理者業務に関する一考察」
第12回日本認知症予防学会学術集会（新潟）2023年9月

2. 競争的資金の獲得

- ・科学研究費補助金（基盤研究（C）：2021年度～2023年度）「高齢者の在宅介護推進の障壁「介護者の阻害要因」への適切なアセスメント方法の開発」（研究代表者）

○教育活動

1. 担当科目

- ・高齢者福祉論Ⅰ ・高齢者福祉論Ⅱ ・ソーシャルワーク演習Ⅱ ・ソーシャルワーク演習Ⅲ ・ソーシャルワーク演習Ⅳ ・ソーシャルワーク演習Ⅴ ・ソーシャルワーク実習指導Ⅰ ・ソーシャルワーク実習指導Ⅱ ・ソーシャルワーク実習指導Ⅲ
- ・ソーシャルワーク実習Ⅰ ・ソーシャルワーク実習Ⅱ ・ソーシャルワーク実習Ⅲ
- ・社会福祉入門演習

2. クラブ活動

- ・高知県立大学池キャンパス吹奏楽部顧問 ・映画鑑賞サークル顧問

○委員会活動

- ・学部教務委員会 ・学部実習委員会 ・学部国試対策支援委員会 ・学部防災委員会
- ・学部キャリア支援委員会 ・学部学生委員会 ・医療センター連携事業（看護・社会福祉連携部会）

○社会的活動

1. 委員等

- ・日本認知症予防学会 代議員 ・日本認知症ケア学会 代議員
- ・高知県福祉人材センター・福祉研修センター運営委員会副委員長
- ・高知市介護保険施設等整備事業者審査委員会委員長
- ・鳥取県介護支援専門員連絡協議会西部支部理事
- ・公益財団法人介護労働安定センターヘルスカウンセラー
- ・公益財団法人介護労働安定センター介護人材育成コンサルタント
- ・介護助手普及啓発テレビCM作成等委託業務公募型プロポーザル審査委員
- ・高知大学 医学部看護学科非常勤講師（「健康福祉行政論」担当）
- ・龍馬看護ふくし専門学校 福祉保育学科非常勤講師（「社会福祉の原理と政策」担当）

2. 学外講師等

介護支援専門員研修

- ・高知県介護支援専門員更新（専門）研修講師（高知県社会福祉協議会）2023年6月9日
- ・令和4年度介護支援専門員実務研修講師（鳥取県社会福祉協議会）2024年1月6日

教育研究活動報告書（福田 敏秀）

- ・令和4年度鳥取県介護支援専門員連絡協議会西部支部研修会講師（鳥取県介護支援専門員連絡協議会 西部支部）2023年9月30日

医療ソーシャルワーカー研修

- ・高知県医療ソーシャルワーカー協会基礎研修・Aコース講師2023年10月22日

高知県社会福祉協議会（福祉職員研修、施設管理運営に関するセミナー等）

- ・福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程令和5年度第1回研修企画会議2023年5月25日
- ・令和5年度介護助手スタートアップセミナー講師2023年7月21日
- ・令和5年度介護助手導入支援事業における第1回情報共有会2023年11月1日
- ・令和5年度福祉職員基礎講座講師2023年10月4日
- ・令和5年度ケアテーマ別研修「メンバーシップ基礎研修」講師2023年10月23日/11月27日
- ・福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程「チームリーダー研修」講師2023年12月15日
- ・令和5年度ケアテーマ別研修「メンバーシップリーダー研修」講師2024年2月2日
- ・令和5年度福祉人材育成推進セミナー講師2024年2月21日
- ・令和5年度高知県福祉人材センター・福祉研修センター運営委員会2023年8月25日/2024年3月14日

鳥取県社会福祉協議会

- ・令和5年度介護事業所の「介護助手」導入研修会講師2023年7月14日

介護労働安定センター（介護サービス事業者研修、管理運営支援等）

- ・ヘルスカウンセラー業務2023年8月23日/9月5日①/9月5日②/11月9日/2024年1月20日
- ・介護人材育成コンサルタント業務2023年6月2日/6月13日/9月11日/11月27日
- ・ケア・サポート講習講師2023年4月14日/5月9日/7月6日/11月10日/11月30日/11月8日/12月4日/2024年2月2日
- ・雇用管理責任者講習講師2023年8月25日

大学関連

- ・高知県立大学出前講座（令和5年度高知県立安芸高等学校高大連携事業）2023年11月20日

○総合評価及び今後の課題

1. 教育活動について

今年度の授業は、引き続き新型コロナウイルス感染防止に注意しながらも、受け持つ多くの科目で対面実施できた。学生の反応や質問を直接受け取れるなど、改めて対面の利点を感じながら、そのことを授業に活かせるよう心掛けて進めた。実習では、今回もそれぞれの実践現場で各学生とも貴重な体験をすることができた。学生たちが語るエピソードからそのことが鮮明に感じられ、それらの体験を事後学習のグループディスカッション等でより深めた。実習を通して、それぞれ目指したい社会福祉士像を明確にし、具体的な目標を導くこともできた。業務ご多忙の中、学生のために様々な学びの場をつくって頂いた実習指導者の方はじめ施設・機関の皆様には深く感謝申し上げます。また、引き続き学年担当として遠山真世先生と第24期生を受け持ち、本学での学生生活がより充実したものになるようサポートした。

教育研究活動報告書（福田 敏秀）

2. 研究活動について

科学研究費補助金（基盤研究（C））の研究について、関連する既存データの分析を基に論文作成や関連するテーマで学会発表は行えたものの研究計画に従った調査研究は実施できなかった。次年度は計画に沿った調査研究を確実に行っていく。

3. 社会的活動について

今年度も主に高齢者福祉に関連する現場に研修講師や相談を受けるかたちで関わることができた。これらの活動を通して、実践現場の生の声に触れられ、私自身とても勉強になり、たいへん貴重な機会が得られた。お声がけ頂いた関係機関、事業所の皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

湯川 順子

Junko YUKAWA

○研究活動

1 論文・著書等

なし

2 学会発表

なし

3 競争的資金の獲得

科学研究費助成事業（基盤研究(C)）「エイジング・イン・プレイス政策におけるインフォーマル・ケアの制度化に関する研究」2020年度～2022年度（延長中）
研究代表者：湯川順子

4 その他

「地域共生社会における多職種連携を促進するためのコンフリクト・マネジメントに関する調査研究」（研究代表：五石敬路）に参加

※ 大阪公立大学「2023年度 先端的都市研究拠点 『共同利用・共同研究事業』 及び同「2023年度 戦略的研究推進事業（学内公募型研究助成）重点研究支援」による共同研究。調査報告会で「高齢者支援分野」のインタビュー結果について中間的な報告をした（大阪公立大学梅田サテライト 2024年3月25日）。

○教育活動

（共通教養教育科目）

対人関係とメンタルヘルス

地域学実習Ⅰ

（学部専門教育科目）

ケアマネジメント論

ソーシャルワーク実習指導Ⅰ

ケアマネジメント演習

ソーシャルワーク実習指導Ⅱ

コミュニティソーシャルワーク

ソーシャルワーク実習指導Ⅲ

ソーシャルワーク演習Ⅰ

ソーシャルワーク実習Ⅰ

ソーシャルワーク演習Ⅲ

ソーシャルワーク実習Ⅱ

ソーシャルワーク演習Ⅳ

ソーシャルワーク実習Ⅲ

ソーシャルワーク演習Ⅴ

○委員会活動

（学部）

総務・予算委員会

実習委員会

国試対策支援委員会

入試実施委員会

入試広報委員会

ソ協連・中四国セミナー運営委員補佐

○社会的活動

1 高知県立大学社会福祉学部リカレント教育講座 講師

教育研究活動報告書（湯川 順子）

テーマ：「エイジング・イン・プレイスを実現するには」
2023年10月14日 高知県立大学池キャンパス（ハイブリッド）

- 2 大阪公立大学大学院都市経営研究科ワークショップ 講師
テーマ：「エイジング・イン・プレイス ー多職種連携とインフォーマルケアについて考えるー」2023年11月24日大阪公立大学 梅田サテライト
- 3 令和5年度県民公開講座 講師
テーマ：「住み慣れた地域で最期まで」を実現するしくみについて考える
2024年1月30日～2月5日・オンデマンド配信

○総合評価及び今後の課題

1 教育活動

多様なものの見方・考え方があなかで、ソーシャルワークの価値・知識・技術について、学生が主体的に考え、身につけられるような授業を心がけた。とりわけ、実習・演習科目はもちろんのこと、講義科目においても、双方向的な授業となるよう取り組んだ。例えば、授業中に学生同士が意見交換する時間を設けたり、グループ発表を取り入れたりした。また、振り返りシートを活用し、学生の理解度を把握し、次回の授業で質問に回答したり、シートに書かれた内容をもとに授業の内容を補足したりした。単独で担当する専門科目においては、ゲストスピーカーを招聘することで、より専門的な内容を学ぶとともに、社会福祉を学ぶ先に多様なキャリア形成があることを知ってもらうきっかけとした。

本学の必修科目である「地域学実習Ⅰ」を担当し、地域課題のフィールドワークと事前・事後学習の指導を行った。担当テーマは、土佐打ち刃物や高知の林業の現状と課題に関するものであり、地域の方々に協力していただき、学生とともに私自身も高知の地域課題を直接学ぶことができる貴重な機会となった。

2 研究活動

科研費による研究がコロナ禍で遅れていたが、ようやくオランダを訪問し、ソーシャルワーカーや政策担当者、現地で暮らす日本人の高齢者などにインタビューしたり、現地の研究者とも交流したりすることができた。また、国内の多職種連携のコンフリクト・マネジメントをテーマとした分野横断的な共同研究に参加し、地域包括支援センター職員へのインタビュー調査を行った。さらに、学部内公募の研究活動費支援に採択され、「地域包括ケア」政策における家族の位置づけをテーマとした研究に取り組んだ。

2022年度は、転職1年目という大きな環境変化の中にもかかわらず、多くの人に支えられ研究を進めることができた。非常にインプットの多い年となったので、2023年度はそれらの成果を学会発表や論文等で公表しつつ、さらに研究を進めていきたい。

3 社会的活動

リカレント教育講座や県民公開講座で、研究テーマであるエイジング・イン・プレイスについてお話する機会をいただいた。高校生から一般の方まで、広い世代の方から、質問や感想をいただくことができ貴重な機会となった。また、社会人大学院生を対象としたワークショップでも同様に貴重なフィードバックをいただくことができた。今後は、講演だけではなく、高知県内を中心にさまざまな地域貢献活動に取り組んでいきたい。

Ⅲ

社会福祉学部教員の委員会活動
(委員会活動年度報告書)

2023年度 社会福祉学部社会福祉学科 委員会体制一覧

全学	学部	構成メンバー						
部局長会議		杉原 俊二 (研究科長)	長澤 紀美子 (学部長)					
教育研究審議会		杉原 俊二 (研究科長)	長澤 紀美子 (学部長)					
学術研究戦略委員会		杉原 俊二 (研究科長)	長澤 紀美子 (学部長)					
大学教育改革委員会		杉原 俊二 (研究科長)	長澤 紀美子 (学部長)					
地域教育研究センター		遠山 真世						
	人事関係検討会	杉原 俊二	田中 きよむ	長澤 紀美子	西内 章	横井 輝夫		
	自己点検・評価運営委員会	杉原 俊二	長澤 紀美子	西内 章	横井 輝夫			
	倫理審査委員会	田中 きよむ	遠山 真世	福岡 隆康	行貞 伸二			
	実習委員会	河内 康文 (介護福祉士コース 主担当)	西梅 幸治 (実習委員長)	福岡 隆康 (社会福祉士コース 主担当)	田中 真希 (査査)	稲垣 佳代 (精神保健福祉士 コース主担当)	上杉 麻理	
		大熊 絵理菜 (社福 助教リーダー)	片岡 妙子 (介護 助教リーダー)	玉利 麻紀 (精神 助教リーダー)	福田 敏秀	湯川 順子		
	総務・予算委員会	西内 章	長澤 紀美子	西梅 幸治	田中 真希	辻 真美	大熊 絵理菜 (助教リーダー)	
		湯川 順子						
	国試対策支援委員会	西梅 幸治	加藤 由衣	田中 真希	稲垣 佳代 (助教リーダー)	上杉 麻理	大熊 絵理菜	
		片岡 妙子	玉利 麻紀	福田 敏秀	湯川 順子			
	教務委員会		横井 輝夫	河内 康文	西梅 幸治	矢吹 知之	玉利 麻紀	福田 敏秀 (助教リーダー)
共通教育専門委員会		矢吹 知之						
FD委員会		加藤 由衣	田中 真希	玉利 麻紀				
研究支援		横井 輝夫						
キャリア支援委員会		西梅 幸治 (全学)	田中 きよむ	加藤 由衣	福田 敏秀			
入学試験委員会		杉原 俊二	長澤 紀美子	西内 章				
入学試験実施委員会		遠山 真世	河内 康文	加藤 由衣	稲垣 佳代 (学部入学委員)	湯川 順子		
共通テスト実施委員会		河内 康文						
入学試験監査委員会		田中 きよむ	矢吹 知之					
学生委員会	行貞 伸二	田中 きよむ	遠山 真世	矢吹 知之	加藤 由衣	田中 真希		
	辻 真美	片岡 妙子 (ボランティア担当)	福田 敏秀					
就職委員会		辻 真美	行貞 伸二					
広報委員会(入試広報含む)	河内 康文	西内 章	遠山 真世	田中 真希	辻 真美	稲垣 佳代		
	大熊 絵理菜 (助教リーダー)	湯川 順子						
総合情報センター	図書部会	福岡 隆康						
	情報処理部会	行貞 伸二	大熊 絵理菜	片岡 妙子 (助教リーダー)				
国際交流センター 運営委員会		田中 きよむ	辻 真美					
人権委員会		横井 輝夫						
紀要委員会		行貞 伸二	西内 章					
健康長寿センター 運営委員会		辻 真美	片岡 妙子 (助教リーダー)					
介護人材確保事業部会		田中 真希	辻 真美	上杉 麻理	片岡 妙子			
医療センター連携事業 健康長寿・地域医療連携部会		長澤 紀美子						
医療センター連携事業 看護・社会福祉連携部会		長澤 紀美子	大熊 絵理菜	福田 敏秀				
健康管理センター運営委員会		河内 康文						
全学 プロジェクト	災害対策	行貞 伸二	辻 真美	上杉 麻理	福田 敏秀			
大学院(M)	講義	杉原 俊二 (講義+主査)	田中 きよむ (講義+主査)	長澤 紀美子 (講義+主査)	西内 章 (講義+主査)	横井 輝夫 (講義+主査)	河内 康文 (講義+副査)	
	委員会	遠山 真世 (講義+副査)	西梅 幸治 (講義+主査)	福岡 隆康 (講義+主査)	矢吹 知之 (講義+副査)			
大学院(D)	講義	杉原 俊二 (研究科長)	田中 きよむ (図書)	河内 康文 (学務)	遠山 真世 (広報)	西梅 幸治 (監査)	福岡 康文 (情報)	
	委員会	杉原 俊二 (研究科長)	長澤 紀美子 (学務 教務)	横井 輝夫 (入試)	西梅 幸治 (監査)			

: 全学委員
 : 学部委員長

教 務 委 員 会

横 井 輝 夫

2023年度の教務委員会は、西梅幸治准教授、河内康文准教授、矢吹知之准教授、玉利麻紀助教、福田敏秀助教、横井の6名体制であった。1年間の活動内容は次の通りである。

1. 教務委員会の開催

2023年度は、通常の審議・協議事項である非常勤講師の依頼や予算申請などの教務関連業務以外に、3年目に入った新カリキュラムの課題整理と改善が、教務委員会の業務の重要課題となった。

以下に審議、協議した項目と概要を示した。

2. 新型コロナウイルス感染予防と授業

新型コロナウイルス感染症が感染法上5類感染症に位置づけられたことに伴い、本学でも原則対面授業となったが、感染への注意喚起は継続した。また、学外実習については、2類感染症時に準じた対応を継続した。

3. 新カリキュラムの開始

2021年度から社会福祉士、精神保健福祉士の新カリキュラムが始まり、今年度は3年目に入り、新カリキュラムの課題を整理した。その結果、「ソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の授業スケジュールの見直し、および精神コースの選択時期を2か月遅らせる対応をとった。

4. 2024年度科目担当者の検討

2023年度は教員1名が退職し、2024年度から新たに1名の教員が着任した。教員の移動も鑑み、2023年度の担当科目、教員の教育歴と研究領域、そして担当科目数と担当時間を考慮して、2024年度の担当科目を協議・検討した。

5. 卒業研究論文発表会の開催

2022年度に続き2023年度も新型コロナウイルス感染症に留意しながら、卒業研究論文構想発表会、卒業研究論文中間発表会、卒業研究論文発表会を対面で実施した。

3回生の卒業研究論文の「仮テーマ」は2024年1月に提出された。なお、卒業研究論文指導教員の学部外教員の希望の有無を確認したが、学部外教員を希望する学生はいなかった。また、『卒業研究論文執筆のてびき』は、例年通り2023年2月に作成し、Moodle上に掲載した。

6. 2024年度のゼミ配属についての調整

例年通り、12月に『社会福祉専門演習選択資料』を作成し、2回生へ配布した。2日間のゼミ見学の上、14名の教員が担当する2024年度の「社会福祉専門演習Ⅰ・Ⅱ」のゼミは、1ゼミあたり上限6名の学生数を目安として調整した。

7. 学習到達度調査の実施

昨年度に引き続き今年度も2月にMoodle上で卒業予定者（23期生）を対象に「学習到

委員会活動年度報告書（教務委員会）

「達成度調査」を実施した。この調査の項目は、ディプロマポリシーで示す「知識・理解」「汎用性・実践的スキル」「態度・志向性」「総合的な学習経験と創造的思考力」の4つのカテゴリから構成され、この4つのカテゴリはそれぞれ8項目、計32項目からなる。そして各項目は「全く理解できなかった」、「あまり理解できなかった」、「概ね理解できた」、「理解できた」の4件法で回答をもとめるものである。今回の調査への回答では、「概ね理解できた」、「理解できた」を合わせると99%であり、昨年度より2ポイント上昇し、良好な結果であった。

8. ルーブリック（Rubric）

ルーブリックとは、学習到達度を示す基準であり、学生が何を学習するかを示す評価基準と学生が学習到達しているレベルを示す評価基準からなる。今年度は昨年度に引き続き社会福祉専門演習（卒業研究）について、昨年度のルーブリックと同様のものを使用して実施した。結果は昨年度と同様、ルーブリックはこれまでの評価方法での結果と強い相関を示した。社会福祉専門演習のルーブリックは、妥当なものになったと考えられる。

9. 今後の課題

2024年度は、新カリキュラムの運用が最終年の4年目に入る。毎年新カリキュラムの課題を整理し、対応してきたが、2024年度もこれまでと同様、的確な課題整理と迅速な対応が今後の課題である。

入 試 委 員 会

遠 山 真 世

1 令和6年度入学者選抜の概況

区 分	募集人員 A	志願者数 B		受験者数 C		合格者数 D		追加合格者数		入学手続者数		辞退者数	入学者数		志願倍率	合格倍率	
		全体	(県内)		全体	(県内)	B/A	C/D									
推薦	県内	20	26	26	26	26	20	20	/	20	20	0	20	20	1.3	1.3	
	全国	10	15	0	15	0	10	0	/	10	0	0	10	0	1.5	1.5	
	計	30	41	26	41	26	30	20	/	30	20	0	30	20	1.4	1.4	
一般	前期	35	139	26	125	23	41	8	0	0	33	8	0	33	8	4.0	3.0
	後期	5	75	18	29	9	10	6	0	0	10	6	0	10	6	15.0	2.9
	計	40	214	44	154	32	51	14	0	0	43	14	0	43	14	5.4	3.0
社会人	若干名	1	0	1	0	1	0	/	1	0	0	1	0		1.0		
私費外国人留学生	若干名	6	/	5	/	2	/	/	2	/	0	2	/		2.5		
合計	70	262	70	201	58	84	34	0	0	76	34	0	76	34	3.7	2.4	

- ・一般選抜（前期日程）の課題図書：：若松英輔（2019）『悲しみの秘義（文春文庫）』文芸春秋

2 令和6年度入学者選抜の特徴

（1）志願倍率、合格倍率、入学手続者の県内率

前年度と比べ志願倍率、合格倍率ともに上昇した。入学手続者の県内率は、年度ごとに増減を繰り返してきたが、前年度と比べ大きく増加した（下表）。

	令和6年度	令和5年度	令和4年度	令和3年度	令和2年度	平成31年度
志願倍率	3.7	2.6	4.7	4.9	4.7	4.1
合格倍率	2.4	1.6	3.0	3.2	2.6	2.5
入学手続者の県内率 (%)	44.7	37.5	40.0	39.2	37.2	42.1

（2）志願者数

学校推薦型選抜の志願者数（41人）は、前年度（31人）と比較し増加した（志願者前年比132.3%）。内訳をみると、県内枠の志願者数（26人）は、前年度（18人）と比較し増加し（志願者前年比144.4%）、全国枠の志願者数（15人）は、前年度（13人）と比較し増加した（志願者前年比114.5%）。

一般選抜前期日程の志願者数（139人）は、前年度（78人）と比較し増加した（志願者前年比178.2%）。一方、一般選抜後期日程の志願者数（75人）は、前年度（68人）と比較し増加した（110.3%）。この背景には、介護人材確保事業部会の教員が中心となって5～7月にかけて県内・県外の高校を訪問し、本学部の魅力や卒業生の様子を伝える活動に力を入れたことがあると考えられる。

委員会活動年度報告書（入試委員会）

（３）社会人選抜

平成 26 年度入試より開始した社会人選抜については、1 名の出願があり、1 名が受験して合格し、入学手続きがなされた。

（４）私費外国人留学生選抜

私費外国人留学生選抜については、6 名の出願があり 5 名が受験した。2 名を合格とし、2 名の入学手続きがあった。

3 課題

- ・本学部の志願者数（262 人）は、前年度（180 人）と比較し増加した（志願者前年比 145.6%）。この背景には、18 歳人口が減少している一方で、学部教員が県内・県外の高校を訪問したことが影響していると考えられる。今後も多くの受験生に本学部に関心をもってもらえるよう、県内・県外の高等学校を対象とした入試広報を行っていくことが引き続いての課題である。入試広報委員会と連携し、高等学校における進路指導の実態や大学志願者の志願傾向について情報を収集する。あわせて、広報委員会、介護人材確保事業部会、地域教育研究センターと協力し、公開講座、学部出前授業、キャンパス訪問の受け入れなど、志願者の増加に向けた取り組みを行う。
- ・学校推薦型選抜・一般選抜の高等学校別志願者数の動向を把握し、今後の入学者選抜に活用する。
- ・新入生を対象とした国語力および英語力測定テストを継続して行い、学力のデータを蓄積し、今後の入学者選抜に活用する。

学 生 委 員 会

行 貞 伸 二

○ 活 動 方 針

学生委員会は、学生の福利厚生の上昇、自主的活動の支援、学生生活に必要な情報提供を目的に活動している。

○ 活 動 内 容

1. 相談活動

今年度も継続して、学生の精神面や身体面の不調、友人間の悩み、より複雑化した生活上の悩みに対して、学年担当教員を中心に、実習担当教員、ゼミ担当教員、健康管理センター、学生・就職支援課と連携し、解決に取り組んだ。特に、様々な理由で欠席が続いた学生には、学年担当教員が連絡を頻回にとり、場合によっては学生宅に足を運ぶなど、学業の継続に向けた働きかけを行った。

2. 経済的支援に関する対応

ガイダンスの際に授業料の免除や各種奨学金の申請について、繰り返し説明した。さらに、一時金給付の情報も付け加えた。学生・就職支援課と連携しながら、情報提供及び手続き支援を行い、15名（全額免除9名、半額免除6名）の学生が本学独自の授業料免除制度（1号申請）に基づいた授業料免除に繋がった。また、本学後援会・しらさぎ会給付型奨学金に1名が繋がった。

3. 事故・事件への対応

交通事故を含めた事故があとを絶たない。事故等に対して学年担当教員を中心に迅速に対応した。交通安全講習会は、例年通り実施された。

4. 学生の活動への支援

コロナ対策を実施しない通常の紅葉祭（大学祭）が4年ぶりに開催された。1000人超の参加者があるなど盛況のなか、無事に日程を終えることができた。

バスハイク、学年間交流会、4回生を送る会などは実施されなかったが、4回生（卒業生）に贈る記念品の作成や、4年ぶりに実施された謝恩会の準備等において学年担当教員がバックアップを行った。

5. 配慮を要する学生への対応

学生・就職支援課や健康管理センターとの連携のもと、本人や保護者等との面談をとおして対象学生のニーズの把握、教員との意見交換を通じ、学部で5名（1回生3名、2回生1名、4回生1名）の学生から就学支援申請が提出され、これにもとづく配慮を行った。

○今後の課題

コロナ対策は一定程度落ち着いたものの、今後も引き続き、学年担当教員やゼミ担当教員を中心に日ごろの関わりをとおして学生の状況を把握し、精神面、経済面、友人、家庭等の課題などに配慮しつつ、それを乗り越え学業を継続していけるよう、健康管理センターや学生・就職支援課等との連携のもと迅速で適切な対応を継続する。

ボランティア活動なども含め、コロナ禍により中断した学生活動に対する支援を今後学部としてどのようにサポートしていくかについて（コロナ禍以前に戻すのか、新しい形を模索するか）、検討の必要がある。

実 習 委 員 会

西 梅 幸 治

1. 実習委員会の活動の特徴

実習委員会は、社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士の資格取得に向けた実習及び実習関連科目を円滑に実施するために、実習に関わる予算の計画や執行、コース相互に関連する実習事務やカリキュラム等の調整、学内外との連絡調整等を行うことを目的に設置されている。本学部の3つの福祉士養成課程に係るコースの運営及び教育は、コース主担当（コース長）を代表とする各コースの実習・演習担当教員が行っている。

2. 配属実習の実施状況

本年度の配属実習では、新型コロナウイルス感染について制限が昨年度より緩和されたものの医療機関などでは対策を継続する必要がある、大学（教員・学生）と実習先で必要な感染対策について確認し、配属予定分の実習は無事に終えることができた。

（1）ソーシャルワーク実習Ⅰ及びソーシャルワーク実習Ⅱ・Ⅲ

ソーシャルワーク実習Ⅰ39名の内訳は、社会福祉協議会8名、病院（精神科除く）7名、児童相談所7名、児童養護施設5名、小規模多機能型居宅介護2名、特別養護老人ホーム2名、地域包括支援センター2名、児童発達支援センター1名、障害児通所支援事業所2名、障害福祉サービス事業1名、相談支援事業・生活介護事業2名であった。

ソーシャルワーク実習Ⅱ・Ⅲ61名の内訳は、福祉事務所4名、社会福祉協議会18名、病院（精神科除く）9名、児童相談所1名、児童養護施設5名、児童家庭支援センター3名、児童自立支援施設4名、小規模多機能型居宅介護5名、特別養護老人ホーム1名、軽費老人ホーム1名、地域包括支援センター1名、障害福祉サービス事業所1名、児童発達支援センター1名、障害児通所支援事業所2名、相談支援事業・生活介護事業3名、放課後等デイサービス1名、知的障害児通園施設1名であった。

（2）精神保健福祉援助実習Ⅰ・Ⅱ

精神保健福祉援助実習Ⅰ・Ⅱの22名の内訳は、精神科病院16名、精神科病床を有する一般病院6名、精神保健福祉センター3名、地域活動支援センター（相談支援事業所併設）1名、障害福祉サービス事業所16名、相談支援事業所2名であった。

（3）介護実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

介護実習Ⅰの15名の内訳は、特別養護老人ホーム及び介護老人福祉施設9名、特定入居者生活介護6名、小規模多機能型居宅介護6名、生活介護9名、通所介護6名、通所リハビリテーション3名、障害者支援施設6名であった。

介護実習Ⅱの10名では、特別養護老人ホーム及び介護老人福祉施設7名、療養介護/医療型障害児入所施設3名であった。

介護実習Ⅲの20名では、特別養護老人ホーム14名、介護老人保健施設2名、療養介護/医療型障害児入所施設4名であった。

3. 実習連絡協議会

本学部の実習教育や配属実習について、実習指導者と本学実習担当教員が率直な意見交換を行い、適切な実習指導体制を整えるために実習連絡協議会を開催している。今年度も、コースごとに実習連絡協議会を企画し、ソーシャルワーク実習連絡協議会、精神保健福祉援助実習連絡協議会、介護実習連絡協議会を開催した。

委員会活動年度報告書（実習委員会）

- 2023年5月29日（月）ソーシャルワーク実習連絡協議会（Zoom開催）
参加施設数：39施設 実習指導者数：68名
- 2023年7月31日（月）介護福祉実習連絡協議会（対面開催）
参加施設：9施設 参加実習指導者：13名
- 2024年3月5日（火）精神保健福祉援助実習連絡協議会（対面開催）
参加施設：8病院、3事業所 参加実習指導者：12名

4. 成果と課題

（1）旧カリキュラムと新カリキュラムへの対応

2021年度入学生から、社会福祉士養成カリキュラムと精神保健福祉士養成カリキュラムは新カリキュラムを適用している。これに伴い、例年4月入学当初に実施している介護・社会福祉コースの選択希望に加え、1回生後期に社会福祉コースのソーシャルワーク実習Ⅰの配属先の提出、及び精神・社会福祉コースの選択希望を実施することにした。配属先の選定については、希望先の調整に時間がかかること、精神・社会福祉コースの選択後に変更希望が生じるなどがあり、精神・社会福祉コースの選択時期を2か月程度遅くすることにした。またソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲでは、総合的かつ包括的な支援を学ぶことが求められており、介護・社会福祉コース、精神・社会福祉コースとの実習先の調整が一部、生じることとなった。これらの点については、今後、継続的に協議していく必要がある。

（2）実習予算及び実習事務の確認・情報共有

本年度も、実習予算及び実習事務の確認・情報共有を行うために、実習支援室長と福祉実習支援室を担当する助教、実習委員長の三者による連絡会議を月1回実施した。日常的なコース運営については、各コースに一任しているが、特に実習費の使途と実習事務の進捗状況については、月1回の連絡会議で確認・情報共有を行っている。特に本年度は、総務委員会の管轄する学部予算との調整を図るため、実習予算の確認などについて情報共有を行った。

また今年度についても、新型コロナウイルスの感染予防とともに教員数・代替教員の配置の観点から、福祉実習支援室の学生への窓口対応を継続的に閉鎖した。次年度については、窓口対応の再開に向けた配置のあり方を検討する必要がある。

（3）新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う配属実習への影響

今年度の実習については、継続的に各学部で実習を管理し、新型コロナウイルス感染症に伴う実習の中断・再開について学部長が適切に判断することになっていたが、特に大きな問題は生じなかった。福祉実習支援室を中心とした丁寧な配属実習の管理により、感染症関連での大きな問題はなく、無事に実習を終えることができた。各コースの主担当の先生、及び実習担当の先生方、何よりも受け入れ先の実習指導者をはじめとした皆様に深謝したい。

就 職 委 員 会

辻 真 美

1 社会福祉学部の就職活動支援

(1) 就職ガイダンス等の実施

- ・オリエンテーション（2023年4月5日）

(2) 学生・就職支援課ワクワク Work!!との連携

学生・就職支援課ワクワク Work!!と連携し、求人情報や就職支援情報の提供、メールやWeb会議ツール ZOOM を活用した就職相談を行った。合格・内定後は速やかに学年担当教員に連絡するとともに、その都度、ワクワク Work!!に「進路決定届」（必須）および「就職活動報告書」（任意）を提出するよう促し、随時情報の共有を図った。

(3) 個別相談等

学生・就職支援課ワクワク Work!!と連携しながら、ゼミ担当教員、学年担当教員が中心となり、4回生の進路相談、応募書類の添削、模擬面接等を行った。

(4) 情報提供

ワクワク Work!!または社会福祉学部宛に届いた求人一覧を整理し、希望地域・業態が一致する学生に情報を提供した。また、ファイリングした求人票を学年担当の研究室で管理したり、SNS も活用したりしながら、求人の情報提供を行った。さらには、社会福祉学部棟のラウンジスペース卓上にパンフレット等の設置や「ふくし就職フェア」（各県福祉人材センター主催）に関する情報を随時掲示した。

2 進路状況

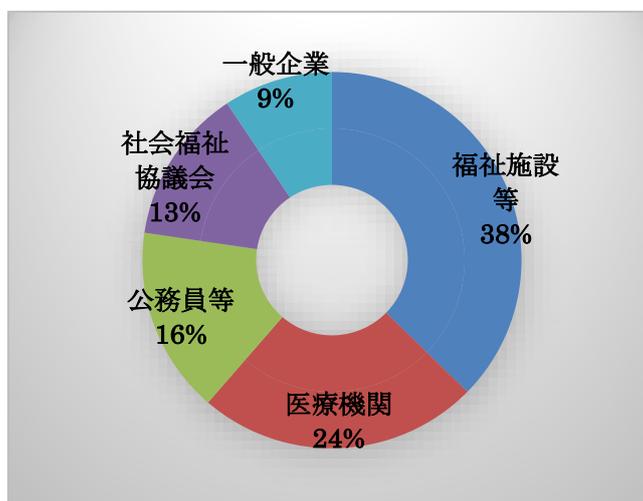


図 業務別就職状況（就職希望者 75 人/就職率 100%）

3 今後の課題

就職活動そのものに対する動機づけが低い学生に向けての個別的支援が重要である。また、就職活動に加えて取り組まれる国試対策や実習、卒業論文執筆の優先順位の付け方やスケジュール管理に対する学生の意識を高めていく必要がある。さらには、これらのバランスを見据えた学生生活ができるよう継続的、かつ丁寧なサポートが必要であると考えている。

広 報 委 員 会

河 内 康 文

○本年度の取り組み

広報委員会は、稲垣助教、大熊助教、河内が担当した。

（1）「大学案内」の編集・製作

2025年度版「大学案内」の社会福祉学部の紹介では、昨年コンセプト、デザインのまま大幅な修正は行わず、一部内容を更新した。

（2）オープンキャンパス

7月29日（土）に対面開催でオープンキャンパスを実施した。事前予約制とし、午前・午後の2部制であった。申し込み者数は133名であった（県内から87名、県外から46名）。また、同伴者102名の参加があった。

（3）キャンパス訪問への対応

6月8日（木）嶺北高等学校（担当：大熊）、6月20日（火）須崎高等学校（担当：河内）、10月2日（月）高知国際中学校・高等学校（担当：稲垣）

（4）高校生のための公開講座/出前講座

7月15日（土）夢ナビライブ2023 in Summer（於：Zoom：担当河内）
11月30日（木）池田高等学校（担当：河内）

（5）学部パンフレットの更新

在学生数や国家試験の合格率や就職先の分野について、最新情報に更新した。

（6）学部ホームページの更新

- ・在学生数や国家試験の合格率や就職先の分野について最新情報に更新するとともに国家試験の合格率や就職先の分野を更新した。
- ・高校生のための公開講座やリカレント講座など、社会福祉学部主催のイベントについて掲載した。
- ・学部教員の教育・研究活動「学部報」を掲載した。

○今後の課題

オープンキャンパスやキャンパス訪問への対応など多くの広報活動が対面による実施となった。今後は、社会福祉が価値をおく人と人とのつながりを大切にしつつ、アナログとデジタルの融合を工夫しながら高校生の個別性に応じて有益な情報提供をしていきたい。

介護人材確保部会

田中 眞希

1. 集合型研修 社会福祉の事を分かりやすく学ぶ

- 開催日時：2023年7月29日（土曜日）9:30～12:00 13:30～16:00
- 開催場所：高知県立大学池キャンパス ○対象：高校生及び保護者
- 参加者数：221名（スタッフ等含む）
- 外部講師：福島とみお氏（脳卒中リハビリテーション研究所）、横野綾氏（株式会社SMILE PLUS 児童指導員）
- 教職員：社会福祉学部；長澤紀美子、西内章、河内康文、矢吹知之、田中眞希、辻真美、稲垣佳代、上杉麻理、大熊絵理菜、片岡妙子、事務局；由比由紀、森田吹生
- 学生スタッフ：1回生；15名、3回生；4名、4回生；8名

（1）事業概要

高校生とその保護者に対して、福祉・介護分野でのキャリア像を明確に示すことで、長期的な展望をもち介護人材確保につなげることを目的とし、大学教員や学生に加えて、当事者と卒業生が実体験や福祉・介護で得た学びを伝えることで、専門職の役割やキャリアについて学ぶ機会とした。

（2）活動成果

アンケート結果から、学内の雰囲気や授業内容などを知ることができ、福祉に対するイメージがより広く変化し、福祉や本学部への関心が高まったことがうかがえた。また、学生スタッフが主体的かつ丁寧に関わったことから、参加した高校生や保護者各々が知りたいと思っていたことが明らかになり、充実した体験につながったのではないかと考える。

（3）活動評価

本事業のプログラムは7年目となる。本年度は「オープンキャンパス2023」と同時開催で実施し、高知県以外の地域からの参加もあった。新型コロナウイルス感染症が5類となり4年ぶりに対面で実施し、進学を検討する高校生にとってよい機会になったのではないかと考える。

（4）当日の様子



在学生によるプレゼンテーション



介護体験コーナー

2. 集合型研修 県大生と行く職場見学ツアー

- 開催日時：2023年9月23日（土曜日・祝日） 9：00～12：30
- 開催場所：高知県立大学池キャンパス及び土佐希望の家医療福祉センター
- 対象：高校生と保護者
- 参加者数：40名（スタッフ等含む）
- 外部講師：土佐希望の家医療福祉センター；吉川清志氏（施設長）、濱田美和氏（副部長）、高橋勝利氏（生活支援員）、高橋由吏氏（生活支援員）
- 教職員：社会福祉学部；田中眞希、事務局；由比由紀、森田吹生
- 学生スタッフ：2回生；5名、3回生；3名

（1）事業概要

大学教員や学生に加えて、施設長や卒業生（生活支援員）が福祉・介護現場での仕事ややりがいについてプレゼンテーションをし、実際に施設見学も行い利用者に関わることで、専門職の役割やキャリアについてより実践的に学ぶ機会とした。

（2）活動成果

アンケート集計結果からは、回答者のほぼ全員が「福祉・介護への興味を持った」「福祉・介護の勉強をしたくなった」ことが示された。また、自由記述からは「少し怖いイメージを持っていたけど、実際に現場で障害者の方と関わったことでよい方向にイメージが変わりました」「介護している方が利用者寄り添う場面を実際に見ることができて、不自由のない人と同じように楽しんでいる姿が印象的でした」「利用者の少しの変化や笑顔にやりがいを感じたり、想像力を働かせて利用者のしたいこと、意思を実現することも大事ということ学びました」などの記述が見られた。

（3）活動評価

参加者の様子やアンケート結果から、福祉・介護現場に直接触れる機会がほとんどない高校生にとって貴重な体験であり、より福祉・介護への興味が高まったことがうかがえた。また、障害者の生活を目の当たりにし、直接関わることで障害者に対する理解が深まり、地域共生社会の実現への一助にもつながったのではないかと感じている。昨年度の参加者数が大幅な減少に転じたため、広報活動により力を入れて回復を試み、一昨年度（94人）には及ばないものの、やや回復することができた。今後も先生方や入試課などとの連携を図り、広報活動に工夫をしながら行っていきたい。

（4）当日の様子



オリエンテーションの様子



施設内見学の様子

3. 集合型研修 県大生と行く最新の福祉体験ツアー

- 開催日時：2032年10月22日（日曜日） 13:00～16:30
- 開催場所：高知県立大学池キャンパス及びイオンモール高知
- 対象：高校生と保護者
- 参加者数：24名（スタッフ等含む）
- 教職員：社会福祉学部；辻真美、事務局；由比由紀、森田吹生
- 学生スタッフ：2回生；4名、3回生；2名

（1）事業概要

福祉体験型イベント‘ふくしフェア 2023’に参加するツアーを企画し、案内役の学生スタッフや大学教職員とともに、最新の福祉を見て、触れて、体験するなかで、人がよりよく生きることやともに支え合うことの大切さを学ぶ機会とした。

（2）活動成果

アンケート集計結果からは、回答者の80%が「福祉・介護への興味を持った」「福祉・介護の勉強をしたくなった」「福祉・介護の仕事をしたくなった」ことが示された。また、自由記述からは「今回のイベントを通して福祉の楽しさを知れてよかった。これからももっと福祉のことを学んで、良いところをたくさん見つけていきたい」「介護職の負担軽減などノーリフティングケアについて知ることができ、良いイメージとなりました」「パラスポーツ体験では、障害のあるないに限らず多くの人を楽しめるスポーツだと感じた」などの記述が見られた。

（3）活動評価

初めての試みである福祉体験型イベント‘ふくしフェア 2023’に参加するツアーを企画・実施した。アンケート結果から分かるように、高校生が体験を通して学ぶことで、より分かりやすく印象に残る体験となり、福祉・介護への興味・関心が高まったのではないかと考える。世間全般にある福祉・介護のマイナスイメージを払拭するためには、このような最新の福祉機器などを体験型の講座が効果的であると感じる。今後もさまざまな関係機関と連携し、体験を通じた学びの場を提供したい。

（4）当日の様子



ノーリフティングケア体験



自助具体験

4. 集合型研修 新高校生2・3年生のための入門講座

- 開催日時：2023年3月21日（木曜日） 13:00～15:00
※希望者に講座終了後学内見学ツアーを実施(15:00～16:10)
- 開催場所：高知県立大学池キャンパス（ハイブリッド開催）
- 対象：高校生と保護者・高校教員
- 参加者数：66名（スタッフ等含む）※オンライン参加者5名
- 外部講師：高知市保健福祉部 基幹型地域包括支援センター；谷脇志穂氏（社会福祉士）、
坂口友康氏（社会福祉士）、平山香苗氏（社会福祉士）、高知市社会福祉協議会 地域協働課；西川祐平氏
- 教職員：社会福祉学部；田中眞希、上杉麻理、事務局；由比由紀、森田吹生、松下哲子
- 学生スタッフ：2回生；2名、3回生；5名

（1）事業概要

高校1・2年生とその保護者等に対して、大学教員が高知県における福祉・介護の現状や課題について講義、学生スタッフが大学での学びの実際を報告した。その後、認知症サポーター養成講座をとおして福祉・介護分野に関心をもってもらうとともに、長期的な展望に立って人材確保につなげることを目的に実施した。

（2）活動成果

アンケート集計結果から、受講後の福祉・介護のイメージについて、回答者の約88%が良いイメージになったことが分かった。また、「正しく理解することで認知症の人を助け、互いに協力し合って生きていける」「知ることの大切さを教えてもらいました」「今の自分にも心掛けさえあれば最低限のことができる」と知ることができた」などが示されていた。

（3）活動評価

（2）で得られた結果は、福祉介護へのイメージが不透明な高校生1・2年生が対象であることが考えられる。早期かつ継続的なアプローチが重要といえる。本講座は、高知市が実施している認知症サポーター養成講座および高知市社会福祉協議会と連携して実施した。多機関と連携を図りながら取り組みを続けていく必要がある。

（4）当日の様子



オープニング「10年先の未来を学ぼう」



認知症サポーター養成講座



学内見学ツアー（図書館）



学内見学ツアー（入浴実習室）

5. 訪問型研修（計10校：10回）

○開催日時及び場所：

- ① 2023年8月23日（水）13：30～15：50 高知商業高校
- ② 2023年9月6日（水）14：20～15：20、15：45～17：15 室戸高校
- ③ 2023年9月8日（金）16：00～17：00 安芸高校
- ④ 2023年9月11日（月）17：00～18：00 高知国際高校
- ⑤ 2023年9月22日（金）16：00～17：00 高知丸ノ内高校
- ⑥ 2023年9月25日（月）16：30～18：10 岡豊高校
- ⑦ 2023年9月26日（火）16：00～17：10 高知工業高校
- ⑧ 2023年9月28日（木）16：10～17：30 春野高校
- ⑨ 2023年10月6日（金）16：10～17：00 中村高校
- ⑩ 2023年10月20日（金）16：40～17：40 高知小津高校

○対象：高校生及び高校教員

○参加者数：計248名（講師・スタッフ等含む）

○外部講師：①；青木遥香氏（ジェイエムシー株式会社）、石田翔大氏（株式会社四国銀行）、福本和生氏（住宅型有料老人ホームウエルリブじんざん）、山本桃香氏（介護老人福祉施設グランボヌール）、②；竹内奈津美氏（社会福祉法人室戸市社会福祉協議会）、④；勝賀瀬輝氏（高知警察署生活安全課）、神岡武流氏（安芸市市民課介護保険係）、⑥；猪野愛三氏（社会福祉法人本山町社会福祉協議会）、⑩；谷岡駿氏（特別養護老人ホーム湯の里）

○教職員：社会福祉学部；西内章（⑨）、辻真美（②③⑧）、田中真希（①②⑦⑩）、上杉麻理（①②④⑤⑥）、片岡妙子（④⑤⑩）、事務局：教育研究戦略課；由比由紀（②③⑥⑧⑨）、森田吹生（①④⑦⑧⑩）、入試課；岡田英（①）

○学生スタッフ：1回生；9名、2回生；1名、3回生；8名、4回生；5名

（1）事業の概要

高校生に対する福祉・介護への理解を深めることを目的に、高知県内の高等学校を訪問し、大学教員が理論、外部講師（卒業生）が福祉・介護現場での仕事内容や福祉・介護職の役割、学生スタッフが大学での学びの実際を説明した。また、各高校の担当者と事前に打ち合わせを行い、高校側の目的や意図、参加者の福祉・介護への関心度などの状

委員会活動年度報告書（介護人材確保部会）

況に合わせて内容を工夫して行った。

（２）活動成果

アンケート集計結果はおおむね好評であった。自由記述では、「今まで福祉や介護についてはあまりいいイメージがなく、遠ざけがちな話題だったが、今回の講義を受け、いかに身近な話題で自分に関係のあることであるのかよくわかった」「やりがいがあって視野を広げられる分野だと感じた」「将来社会に出てからコミュニケーションをとる際などに活躍する力が身につくことが分かり、世の中に求められている幸せを作り出すことができるのではないかと考えた」「オープンキャンパスよりもいろいろな話が聞けて、本当に参加してよかったなと思いました」「元学生さんの直接の発表だったので身近に感じられた」「卒業生に聞くことでどんな雰囲気学部なのかとか、先生に聞いたり自分で感じられるものではないのでそれが聞けて良かった」などの回答が得られた。

（３）活動評価

本事業が８年目となり、高校側担当者が事業の目的や意図をより深く理解し、高校の状況に応じた要望を伝えてくださり、それに応じた内容や時間帯などを工夫して実践できた。例えば、福祉・介護への関心度合いや学年に対応するため２部制にする、講師・スタッフを内容に応じて人選するなどである。こういった高校側との密な打ち合わせ、それに応じた内容の工夫から、前述のアンケート結果が得られたと考える。また、学生スタッフや外部講師にとっても、母校を先輩・後輩、教職員とともに訪問し、自己を振り返るよい機会になっているようだ。事業の継続と共に、満足度を高められる内容となるよう努めたい。

（４）当日の様子



高校生と卒業生とのグループワーク



学生による講義



卒業生による講義



教員による講義

キャリア支援委員会

西梅 幸治

キャリア支援委員会は、委員長を西梅、田中きよむ教授、加藤講師、福田助教で構成した。本年度に行った業務は、下記のとおりである。

1. 活動内容

①キャリア支援に係るガイダンスの実施

全学委員会の学部別キャリア教育・就職ガイダンス開催経費を用いて、学年担当教員の協力のもと、以下のガイダンスを開催した。開催された講座は、どの講座も好評であった。

開催日	テーマ	講師	対象
12月7日	卒業生によるキャリア支援講座	伊井雪乃（ウエルプラザ高知） 濱渦麻子（安芸市役所）	1回生
2月14日	卒業生による就職ガイダンス	小野祥子（社会福祉法人てくとこ会） 竹内七星（児童相談所）	2回生
3月15日	4回生からの就職活動報告会	本学部4回生5名	3回生
11月7日	国家資格取得のための勉強方法や心構え	本学部卒業生	4回生
12月21日	国家資格取得のための勉強方法や心構え	本学部卒業生	4回生

②リカレント研究会事業の取り組み

学部運営費による事業として、以下の研究会を実施した。継続的に実施されている研究会もあり、参加者には有益な機会となっている。

事業名 開催日（回数）	担当教員	内容と成果	参加人数
スクールソーシャルワーク研究会 1月26日（金） 3月8日（金） 3月14日（木） （計3回）	西梅 幸治 加藤 由衣	本研究会は年3回で、スクールソーシャルワーカー相互の情報交換や報告、活動の振り返り、研修の企画、資料作成、実習指導などの内容で実施した。新カリキュラムとなり、実習を受け入れるワーカーからの相談もあった。参加メンバーにとっては、実践面のみならず研修や実習指導に取り組む上での力量向上へ主体的に取り組む機会となった。	延べ 11人
ソーシャルワーク学習会	西梅 幸治	本学習会では例年、ゼミ生を中心とした卒業生に対して、個別スーパービジョンや、キャリアに関する相談などを実施している。今年度は、新採職員同	延べ 7人

委員会活動年度報告書（キャリア支援委員会）

10月19日（木） 10月30日（月） 3月8日（金） （計3回）		志で悩みややりがいを共有したり、実習指導者として受け入れを行っている卒業生の実習に関する相談に応じた。日々の業務やソーシャルワークの意義を見出す機会になり、かつこれまでの業務のふり返りにもなった。加えて、認定社会福祉士や大学院進学を含め、今後のキャリア形成について考える機会になった。	
児童福祉施設における実践研究会 7月27日（水） 12月12日（月） 3月9日（木） （計3回）	加藤 由衣	本研究会では、児童福祉施設に勤務する2021年度卒業生が参会し、グループスーパービジョン及び業務や支援に関する情報交換を行った。そのなかで、各施設の特徴や実践の相違とともに、入職1年目に共通する課題や悩みを共有することができた。加えて、参加者が実践する県外2施設の訪問を行い、県外施設の実践状況などを学ぶことができた。これらの内容をとおして、児童分野におけるソーシャルワーカーとしての力量の向上や同じ分野で実践する卒業生同士の交流を促進する機会となった。	延べ 4人
精神・社会福祉コース「卒後2年目のはなしをしよう」 11月14日（火） （計1回）	玉利 麻紀	社会人2年目（21期生）が集まり、現在の仕事内容や悩み、今後の展望について話し合った。2年目となり、ケースを持って充実していると語る卒業生が半数以上であったが、一方で、先輩など職場の同僚への不満や、新天地での変則勤務により友人ができない、等の悩みについても共有された。転職する予定の卒業生もいる。利用者支援に関しては、概ね順調であるようだが、高齢者の地域移行支援を行う際、精神障害を理由に介護施設への入所を断られる、などの問題意識が共有されていた。同級生同士で集まることに関しては、全員が望んでおり、今回は次年度の6月、あるいは7月くらいに実施したい、とのこと。2ヶ月前には勤務がはっきりするから、ということで、実施の2ヶ月前に日程調整を始める、と話し合っていた。また、卒業生の誰がどこにいるか、というマップづくりを行った。	延べ 8人

③キャリア支援特別講座の開催

学部の活動計画に基づき、リカレント研究会の一環として、卒業生・在学生・教員をつなぐ学内講演会を精神病理学者・作家の野田正彰氏を講師として招聘し、田中きよむ教授との対談を大講義室及びZoomによるオンラインとのハイブリッド形式で実施した。本講演会は、学部FD委員会とも共催で実施した。当日は、わが国の精神医療の特殊性について、総論的な講話をふまえ、特にうつや発達障害などに関するわが国の現状を分析した知見に基づいて対談が行われ、多くの貴重な示唆を得ることができた。本講演は、高知新聞でも周知を行い、一般の方の参加も多くあった。学内では、甲田学長、五百蔵副学長をはじめ、学部教員、事務局職員、学生、院生の参加もあった。またキャリア支援という点では、卒

委員会活動年度報告書（キャリア支援委員会）

業生とその職場の方の参加もあり、社会福祉に携わる専門職としての実践力を高める機会となった。

開催日	テーマ	講師	参加人数
6月12日	研究と社会正義 日本の精神医療は特殊である	野田正彰氏（精神病理学者・作家） 対談：田中きよむ 司会：田中眞希	241人

大講義室135名、オンライン104名（計239名）、うち卒業生と職場職員18名

④学内就職説明会等の開催

本年度は、本学部卒業生が在籍する都道府県や社会福祉法人より、新卒採用に向けて卒業生を通じた説明会開催の要請があった。また学生・就職支援課を通じて、教員への新卒採用に関する説明希望などがあり、就職委員や関係する教員の協力を得て対応した。

開催日	来学機関・施設	募集職種	参加教員
5月17日	都道府県	社会福祉士	西梅
6月2日	医療機関	介護職員	辻・西梅
6月28日	医療機関	M S W	大熊
7月31日	障害福祉サービス事業所	社会福祉士	西梅
9月6日	障害福祉サービス事業所	支援員	遠山・西梅
11月17日	高齢者施設	介護職員・相談員	辻・行貞・西梅
12月8日	福祉人材センター	介護職員	西梅
12月8日	医療機関	M S W	西梅

2. 今後の課題

本委員会に関する今後の課題としては、年度当初に活動計画を確認し、それに基づいた取り組みの具体的で継続的な推進がある。特に、卒業生を中心とするリカレント研究会事業や、卒業生・在学生・教員をつなぐ交流の場の提供により、学術的・実践的な力量を継続的に培うことが課題である。また今年度も継続して、既卒者への国試対策支援を含めて進めることができた。次年度は、今年度の活動を契機としたさらなる取り組みを活動計画に基づいて、加速していきたいと考えている。

健康長寿センター

辻 真美

○活動内容

1. 健康長寿センター運営委員会

全学での運営委員会として、令和5年4月から令和6年3月において対面とズーム、メールによる会議を12回実施した。

2. 健康長寿センター運営委員

池田光徳（センター長 看護学部）・看護学部教員・健康栄養学部教員・社会福祉学部教員（辻・片岡）・教育研究戦略課健康長寿担当者

3. 令和5年度活動実績（社会福祉学部がかかわった主なもの）

- ①リカレント教育講座ようこそ！知のフィールドへー社会福祉学部×SDGsー
- ②健康長寿体験型セミナー 社会福祉学部主管 in 三里
- ③健康長寿体験型セミナー 看護学部主管 in 土佐清水市
- ④健康長寿文庫の選定

○活動の評価と課題

- ①2名の教員による講座を大講義室にてハイブリッド開催した。質疑応答やアンケートには詳細な感想が多く寄せられており、2講座とも大変好評であった。また、受講者の多くはSWやCW、CM等福祉職であったが、一般参加や高校生も見られた。受講者の声を次年度の本講座に活かしていきたい。
- ②高知市三里地域包括支援センター及び高知市社会福祉協議会との共催にて三里地区で開催した。学部片岡助教による講演と高知市健康増進課、看護学部、健康栄養学部、社会福祉学部による体験ブースを実施した。三里地域包括支援センター及び高知市社会福祉協議会、本学事務局と事前に打合せを行い、アフターコロナとして地域のつながり戻しを目的に行った。本学部の介護コース2回生10名も参加し、地域住民との交流やサポートの活動を積極的に行っていた。
- ③社会福祉学部が担当した「新聞棒作りと体操」ブースでは、体験を希望する受講者が多く、健康維持や介護予防に対する意識の高さがうかがえた。
- ④健康長寿文庫の推薦図書として一般啓発書を30冊、選定した。多くの県民の方々が健康に関する書籍に興味を持ってくださるよう、推薦コメントを添えて提出した。

① リカレント教育講座ーようこそ！知のフィールドへー

開催日	テーマ	講師	参加者
10月14日	認知症フレンドリーな地域の育てかた	矢吹知之准教授	71人
	エイジング・イン・プレイスー「住み慣れた場所で最期まで」を実現するにはー	湯川順子助教	

② 健康長寿体験型セミナーin三里

開催日	テーマ	講師	参加者
10月4日	地域で取り組む健康づくりと楽しみづくり	片岡妙子助教	128人

高知医療センター・高知県立大学包括的連携協議会 看護・社会福祉連携部会

大熊 絵理 菜

○看護・社会福祉連携部会について

1. 組織

- 1) 高知医療センター：看護局長、地域医療連携室長、看護局、ソーシャルワーカー
- 2) 高知県立大学：看護学部長、社会福祉学部長、看護学領域教員、社会福祉学領域教員

2. 事業

- 1) 学生の臨地実習・教員の臨床研修における場の提供
- 2) 基礎教育・継続教育・大学院教育における相互協力
- 3) 教員によるコンサルテーションの実施
- 4) 臨床実践能力（知識・技術・態度）及び実践モデル等の開発・検証に関する共同研究
- 5) 県民・市民の健康づくりに資する活動の共同開催
- 6) その他看護・社会福祉連携活動の実施

○社会福祉連携部会における取り組みの評価

1. 学生の臨地実習（上記事業1にあたる）については、前期で社会福祉コース（3回生1名）のソーシャルワーク実習Ⅱ・Ⅲ（24日間）、精神コース（4回生2名）の精神保健福祉援助実習（12日間）を実施した。また後期には社会福祉コース（2回生2名）のソーシャルワーク実習Ⅰ（8日間）を実施している。
2. 共同研修会（上記事業3にあたる）を毎月1回、前期は事例検討を実施した。ソーシャルワーカーより事例を提供し、大学教員や院生、学部生を交えそれぞれの立場から意見交換を行うことにより、事例を深めることができた。またスーパービジョン体制の確立を目指し、大学教員の助言を受けながら1 on 1 ミーティング（週1回スーパーバイザーとスーパーバイジーの役割を決めて事例等について話し合い）を実施している。後期には大学教員から実践モデルについて講義を受ける等、専門性を高める機会を確保している。
3. 共同研究（上記事業4にあたる）については、キャリアラダーの初回評価の結果からみえてきた課題（専門職として求められる能力についての「研究」、「理論」や「管理」に関する自己評価が低い）について、今年度は1 on 1 ミーティングや理論の勉強会に取り組んだ。結果として、2023年8月末にキャリアラダーを再評価したところ、多くの項目で向上した結果がみられた。今回のキャリアラダーに関する取り組みは大学教員との協議を重ね、2024年度6月開催予定の日本医療ソーシャルワーカー協会全国大会への演題で発表予定である。

○社会福祉連携部会における取り組みの課題

1. 実習では、学生が現場のソーシャルワークに触れ学習してきた成果と実践を振り返らせる機会となるため、個々の学生の目標や課題の達成を意識して指導をしている。指導者側の課題としては、より効果的な指導を目指し実習プログラムを作成し、学生がクライアントや家族と関わる機会を確保できるよう検討が必要と考えている。
2. 引き続き事例検討を実施する。今後も看護部門や他職種の参加を促進し、多様な視

委員会活動年度報告書（高知医療センター・高知県立大学包括的連携協議会）

点から事例検討ができるよう取り組んでいく。またスーパービジョン体制の確立に向け大学教員の助言・指導を受けながら、1 on 1 ミーティングの取組みを継続・定着させていく。

3. キャリアラダーの取組みからみえてきた喫緊の課題であるスーパービジョン体制の確立を目指す。スーパービジョン体制の確立についても、大学教員の助言・指導を受けながら経過や効果等についてまとめ、研究発表につなげていきたい。またソーシャルワーカーのメンバーがローテーションで研究・発表を行えるように努めたい。

令和5年度 看護・社会福祉包括連携事業計画（社会福祉部会）

1. 学生の臨地実習・教員の臨床研修における場の提供

1) 学生の臨地実習

	実施日・期間	氏名or対象	人数	事業内容
1 前期	(社会福祉) ・8/14～9/14	(社会福祉) 社会福祉学部 3回生	1名	医療相談室におけるソーシャルワーク実習
	(精神) ・8/14～8/29 ・9/12～9/28	(精神) 社会福祉学部 4回生	2名	精神科外来・病棟におけるソーシャルワーク実習
2 後期	(社会福祉) ・12/12～12/22	社会福祉学部 2回生	2名	医療相談室におけるソーシャルワーク実習

2) 教員の臨床研修

	実施日・期間	氏名or対象	人数	事業内容
1	該当なし			
2				

2. 基礎教育・継続教育・大学院教育における相互協力

1) 基礎教育

	実施日・期間	氏名or対象	人数	事業内容
1	毎回 参加予定	社会福祉学部 3回生	順次 参加	定例研修会 (3. 教員コンサルテーションに該当)への参加

2) 継続教育

	実施日・期間	氏名or対象	人数	事業内容
1	該当なし			
2				

3) 大学院教育

	実施日・期間	氏名or対象	人数	事業内容
1	該当なし			
2				

3. 教員によるコンサルテーションの実施

	実施日・期間	氏名or対象	参加人数	事業内容
1 前期	4/17(月) 17:30～ 高知医療センター 相談室2	●高知県立大学 社会福祉学部教員(福田敏秀・大熊絵理菜) ●高知医療センター ソーシャルワーカー(藤井しのぶ・川上めぐみ・竹村貴深・西原梓・和田真奈美・羽方沙由美・武正和也・兵頭七海)	10名	●本年度計画の立案
2 前期	5/15(月) 17:30～ 高知医療センター 研修室1, zoom	●高知県立大学 社会福祉学部教員(福田敏秀・大熊絵理菜) ●高知県立大学 看護学部教員(zoom: 川本先生) ●高知県立大学 大学院生(現地: 安岡愛・駒村元貴・川野智代・駒村里香・小松原大典・狭間由紀 zoom: 尾崎廣裕美・古田さよ) ●高知県立大学 社会福祉学部学生(現地: 西村文瑛・中山蘭・武村里乃) ●高知医療センター 地域医療連携室(橋本恵) ●高知医療センター ソーシャルワーカー(藤井しのぶ・川上めぐみ・竹村貴深・西原梓・和田真奈美・武正和也・兵頭七海)	22名	●事例検討 ・発表者(藤井)、司会(和田) ・事例内容:『寄り添いに欠けた後味の悪さと共に、変らない事へのやりきれなさを強く感じた事例』

委員会活動年度報告書（高知医療センター・高知県立大学包括的連携協議会）

3 前期	6/19(月) 17:30～ 高知医療センター 研修室1、zoom	●高知県立大学 社会福祉学部教員(福田敏秀・大熊絵理菜) ●高知県立大学 大学院生(現地:川野智代・狭間由紀 zoom: 坂口結実) ●高知県立大学 社会福祉学部学生(高橋蓮、榎本悠花、今西 蘭) ●高知医療センター ソーシャルワーカー(藤井しのぶ・川上めぐみ・竹村貴 深・西原梓・羽方沙由美・武正和也・兵頭七海)	15名	●事例検討 ・発表者(竹村)、司会(西原) ・事例内容:『知的障がいのある両親に養育される児に ついて、“クライアントの利益の最優先”を捉えきれず、曖昧 な支援になってしまった事例』
4 前期	7/24(月) 17:30～ 高知医療センター 研修室1	●高知県立大学 社会福祉学部教員(福田敏秀) ●高知医療センター ソーシャルワーカー(藤井しのぶ・川上めぐみ・西原 梓・和田真奈美・羽方沙由美・武正和也・兵頭七海)	8名	●事例検討 ・発表者(西原)、司会(羽方) ・事例内容:『がん末期、高齢母と二人世帯の支援体 制、経済面について。SWの介入を振り返る』
5 前期	8/21(月) 17:30～ 高知医療センター 研修室1	●高知県立大学 社会福祉学部教員(大熊絵理菜) ●高知県立大学 社会福祉学部学生(迫楓) ●高知医療センター ソーシャルワーカー(藤井しのぶ・川上めぐみ・竹村貴 深・西原梓・和田真奈美・羽方沙由美・武正和也・兵頭七海)	10名	●事例検討 ・発表者(兵頭)、司会(川上) ・事例内容:『キーパーソンの支援力の見極めができていな かったと反省が残る事例』
6 前期	9/25(月) 17:30～ 高知医療センター 研修室1	●高知県立大学 社会福祉学部教員(福田敏秀・大熊絵理菜) ●高知医療センター ソーシャルワーカー(藤井しのぶ・川上めぐみ・竹村貴 深・西原梓・和田真奈美・羽方沙由美・武正和也・兵頭七海)	10名	●事例検討 ・発表者(和田)、司会(竹村) ・事例内容:『状況判断で動いて家族の気持ちに寄り添 うことが欠けており、主治医との関わりの困難さもあり、 後悔が残る事例』
7 後期	10/16(月) 17:30～ 高知医療センター 研修室1	●高知県立大学 社会福祉学部教員(福田敏秀・大熊絵理菜) ●高知医療センター ソーシャルワーカー(藤井しのぶ・川上めぐみ・竹村貴 深・西原梓・和田真奈美・羽方沙由美・武正和也・兵頭七海)	8名	●事例検討 ・発表者(羽方)、司会(藤井) ・事例内容:『同年代の患者に対する支援において、本 人へのアプローチが不十分で信頼関係が築けていなか った事例』
8 後期	11/20(月) 17:30～ 高知医療センター 研修室1	●高知県立大学 社会福祉学部教員(福田敏秀・大熊絵理菜) ●高知医療センター ソーシャルワーカー(藤井しのぶ・川上めぐみ・竹村貴 深・西原梓・和田真奈美・羽方沙由美・武正和也・兵頭七海)	10名	●事例検討 ・発表者(川上)、司会(兵頭) ・事例内容:『SWとして何か支援をしなくてはならないと 思いながら、何もできないと諦めてしまった事例』
9 後期	12/18(月) 17:30～ 高知医療センター 研修室1	●高知県立大学 社会福祉学部教員(福田敏秀・大熊絵理菜) ●高知医療センター ソーシャルワーカー(藤井しのぶ・川上めぐみ・竹村貴 深・西原梓・和田真奈美・武正和也・兵頭七海)	9名	●講義 講義名:『実践モデルについて(治療モデル・生活モデ ル・ストレングスマodel)』 講師:高知県立大学 社会福祉学部教員 大熊絵理菜
10 後期	1/15(月) 17:30～ 高知医療センター 研修室1	●高知県立大学 社会福祉学部教員(福田敏秀・大熊絵理菜) ●高知医療センター ソーシャルワーカー(藤井しのぶ・竹村貴深・西原梓・ 和田真奈美・羽方沙由美・武正和也・兵頭七海)	9名	●演習 テーマ:『実践における課題提供』 ソーシャルワーカー各自が実践する中で考える課題についてメ ンバーへ投げかけ、共有を図る
11 後期	2/19(月) 17:30～ 高知医療センター 研修室1	(参加予定) ●高知県立大学 社会福祉学部教員(福田敏秀・大熊絵理菜) ●高知医療センター ソーシャルワーカー(藤井しのぶ・川上めぐみ・竹村貴 深・西原梓・和田真奈美・羽方沙由美・武正和也・兵頭七海)	未定	●演習 テーマ:『実践における課題提供』 1月の演習をもとに、優先される実践課題を取り上げ、 今後の取組みについて話し合っていく。
12 後期	3/18(月) 17:30～ 高知医療センター 研修室1	(参加予定) ●高知県立大学 社会福祉学部教員(大熊絵理菜) ●高知医療センター ソーシャルワーカー(藤井しのぶ・川上めぐみ・竹村貴 深・西原梓・和田真奈美・羽方沙由美・武正和也・兵頭七海)	未定	●講義 講義名『2023年度スーパービジョンの振り返り』 次年度における包括連携事業での取組について確認

4. 臨床実践能力及び実践モデル等の開発・検証に関する共同研究

	実施日・期間	氏名or対象	人数	事業内容
1	2023/4月～2024 年3月	●高知県立大学 社会福祉学部教員(福田敏秀・大熊絵理菜) ●高知医療センター ソーシャルワーカー(藤井しのぶ・川上めぐみ・竹村貴 深・西原梓・和田真奈美・羽方沙由美・武正和也・兵頭七海)	10名	●ラダーに関する研究 高知県立大学教員と高知医療センターの担当者で、前 年度にまとめた研究成果を基により深く考察し、発表へ の準備を進める。
2				
3				

委員会活動年度報告書（高知医療センター・高知県立大学包括的連携協議会）

5. 県民・市民の健康づくりに資する活動の共同開催

	実施日・期間	氏名or対象	人数	事業内容
1	該当なし			
2				

6. その他看護・社会福祉連携活動の実施

	実施日・期間	氏名or対象	人数	事業内容
1	該当なし			
2				

災害対策プロジェクト

行貞 伸二

○本年度のとり組み

全学の災害対策プロジェクト担当として行貞、学部委員として辻講師、上杉助教、福田助教、がプロジェクトメンバーであった。主な取り組みは以下のとおりであった。

1. 3キャンパス合同避難訓練

10月24日（火）11:50～12:30に実施された。

授業中の学生や教職員等の地震発生時の避難訓練、キャンパス間の情報伝達訓練を目的に実施したものである。授業を行っていた教員による一時避難所への学生の誘導を災害対策プロジェクトメンバーがサポートした。当日の様子は次の写真のとおりである。



2. 高知医療センターとの合同災害訓練

（1）災害対策プロジェクトの会議

全学災害対策プロジェクトメンバーの会議は対面で一度実施された。その際、学内の備蓄品や機器の使用法などについても実地に確認した。

（2）合同災害訓練の実施

11月26日（日）の8時30分～12時30分に行なわれた。

実施内容は、学内訓練として、①災害対策本部の立ち上げ、②ガス発電機等の使用方法確認、③安否確認訓練を行い、高知医療センターとの合同訓練では、④避難者（帰宅困難者）及び軽症者の受け入れに関する高知医療センターとの通信及び連携訓練、⑤学内重傷者への対応と高知医療センターとの連携訓練であった。従来、社会福祉学部が中心となって担ってきた避難所の設営訓練は、今年度は行われなかった。

社会福祉学部からは、④の訓練に学生10名（1回生2名、2回生4名、3回生4名）が医療センターから県立大へ避難する軽度の患者役のボランティアとして参加した。また、⑤の訓練に重傷者役として辻講師が参加した。



④の訓練の様子



⑤の訓練の様子

3. 社会福祉学部における災害福祉教育

社会福祉学部専門科目における災害福祉に関する教育の実施について学部教員に確認した。「地域福祉論Ⅱ」、「女性福祉論」、「生活支援技術Ⅰ」、「生活支援技術Ⅳ」、「社会福祉基礎演習」等の授業科目で災害に関する教育に取り組み、延べ291人の学生が受講した。

さらに、高知県社会福祉協議会の開催する高知県 DWAT リーダー研修（10月20日（金）9:20～16:30、10月21日（土）9:30～16:30）に4回生6名と辻講師がボランティアとして参加した。同じく高知県社協の開催する DWAT スキルアップ研修に4回生2名が聴講生として参加するなど、災害時における社会福祉専門職の役割に関する学びを深めた。

4. 事務局若手職員による県大版 HUG 研修の見学

HUGとはHinanjo Unei gameの頭文字をとった略称である。事務局若手職員の有志が中心になり、県大版 HUG を用いた避難所運営研修を実施するため、これを見学させていただいた。日時と場所は次のとおり。

日時：①10月31日（火）および②11月7日（火）、各日9:30～12:00、13:30～16:00

場所：①池キャンパス 本部棟 A216 および体育館

②永国寺キャンパス 教育研究棟 A311

行貞は①の午前中の部の導入部分を、辻講師が①の午後の部を見学させていただいた。

○次年度に向けて

年度末をもって災害対策プロジェクトが解体され、防災に関する組織が見直されることとなった。新しい組織のあり方は不明である。ともあれ、学部全体の防災意識向上に向け、FD研修の機会を借りるなどしたい。また、事務局職員や他学部のメンバー間との連携強化を図るとともに、本学部における災害福祉教育については引き続き、学部専門科目で取り組まれている災害教育の内容について教員間で共通認識を深めていきたい。

総務・予算委員会

西内章

総務・予算委員会は、委員長を西内が担当し、長澤学部長、西梅准教授、田中講師、辻講師、大熊助教、湯川助教で構成した。本年度に行った業務は、以下のとおりである。いずれも学部事務職員の協力を得て取り組んだ。

1. 活動内容

- ① 「連絡会・教授会」の資料準備及び運営
 - ・ 開催計画、議題および資料等の整理、議事メモの作成等を行った（計30回）。
- ② 学部棟・看護福祉棟等施設・備品の整備
 - ・ 例年同様、社会福祉学部棟3階4階に設置してあるコピー機及び印刷機について、各教員のコピー代充当分として年度当初に一定額を確保し、使用枚数分の予算確保・調整を行った。
 - ・ 学部関連設備では、E203グループワーク実習室、E204観察室、E205ケースワーク実習室の録画用カメラ一式を新装した。
- ③ 学部日常事務の対応
 - ・ 寄贈資料・郵便物の整理、回覧等の仕事に対応した。
- ④ 『令和4年度社会福祉学部報』発行
 - ・ 令和4（2022）年度『社会福祉学部報』（自己点検評価資料・第25号）の冊子媒体100部を作成し、関係各所に配布した。
- ⑤ 学生教育用図書・資料等の充実
 - ・ 学部・大学院の学生教育用予算等を活用して、図書館を通じて定期購読している研究雑誌の拡充及び研究図書の充実を図った。
 - ・ 国家試験対策用図書や学内実習用教材、社会福祉に関する基礎文献等を福祉実習支援室に配置して資格関係教材・資料等の充実を継続的に図った。
- ⑥ 研究室の整備と学部備品の確認等
 - ・ 令和6年度は客員教授を迎えるため、そのために研究室の整備を行った。
 - ・ 学部事務と相談して、E416非常勤講師控え室に置いている学部備品の仕様目的と仕様状況を確認した。また、湿度が高い時期は、コピー機が詰まりやすくなるため、湿度対策を行った。

2. 今後の課題

令和5年度は、授業や実習が対面で行われることが多くなったため、旅費や特別講師等の予算を確保することにし、教務委員会や実習委員会等と予算の執行状況を常に確認し、適切な執行に努めた。

学生の学習環境の整備を引き続き行う必要がある。対面授業の際の学生の就学支援として予算を確保する必要がある。また実習先によっては、引き続きマスクや手指消毒剤を準備するように依頼される場合もある。

授業や会議の各種資料の印刷費用を削減するために、先生方の理解と協力を得て、例年より電子化を進めることができた。今後も電子化で対応可能な資料と、これまで通り紙で配付しなければいけない資料を区別する必要がある。

学部の備品については、新たに新装するものが少なかったが、今度、パソコンやプリンターなどは更新時期が集中しているため、近年中に購入しなければいけないものをリストアップしておく必要がある。

国試対策支援委員会

西梅 幸治

○本年度の取り組み

本年度の国試対策支援委員会は、委員長を西梅が担当し、加藤講師、田中講師、稲垣助教、上杉助教、大熊助教、片岡助教、玉利助教、福田助教、湯川助教で構成した。

（１）４回生への国試対策支援

主に、①事務手続きの説明、②受験対策スケジュールの確認、③過去問解答・模擬試験の実施、④国試対策講座開催への支援、⑤ソ教連などからの受験情報の周知、⑥国試対策勉強会実施への支援、⑦個別面談などの取り組みを行った。

月	概要
4月	国家試験に関するガイダンス（4/5）
5月	国試対策週間（過去問4/27-5/12）・参考等テキスト購入
6月	国試対策週間（過去問5/29-6/16）
7月	国試対策週間（過去問7/3-7/21）、個別面談
8月～9月	「受験の手引」解説・模擬試験（介護福祉士8/8） 「受験の手引」解説（Moodle：社会福祉士・精神保健福祉士8/28）
10月	国試対策委員ミーティング（10/4） 模擬試験（高知県社会福祉士会10/9） 模擬試験（日本ソーシャルワーク教育学校連盟10/26・10/27）
11月	介護福祉士国試対策講座（11/8）、卒業生による受験体験報告（11/7） 国試対策講座、個別面談
12月	介護福祉士模擬試験解説・国試対策（12/21）、受験対策直前web講座周知 卒業生による受験体験報告（12/21）、模擬試験（中央法規12/26） 学内国試対策勉強会（12/21）、国試対策講座、個別面談
1月	学内国試対策勉強会（1/9・1/10）、個別面談 介護福祉士国家試験（1/28）
2月	社会福祉士・精神保健福祉士国家試験（2/3・2/4）、自己採点集計（2/14）
3月	合格発表（社会福祉士・精神保健福祉士3/5、介護福祉士3/25） 卒業後の手続きに関する説明・資料配布（3/19）

委員会活動年度報告書（国試対策支援委員会）

（２）卒業生への国試対策支援

主に、①事務手続きの説明、②模擬試験などの案内・送付、③教科書や参考書などの貸出、④国試対策講座などの情報提供、⑤個別相談の受付などの取り組みを行った。

（３）2023年度の国家試験合格率

１）社会福祉士の合格率について

総数			新卒			既卒		
受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
94	85	90.4%	72	68	94.4%	22	17	77.3%

合格順位：全国 13 位（既卒含）、全国 24 位（新卒のみ）／200 校（総数での学校数）

合格基準点：90 点（満点 150 点）

全国平均合格率：58.1%

合格順位：全国 2 位／52 校（受験者 50 名以上・新卒）

２）精神保健福祉士の合格率について

総数			新卒			既卒		
受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
22	22	100%	22	22	100%	0	0	—

合格順位：全国 1 位（既卒含）、全国 1 位（新卒のみ）／88 校（総数での学校数）

合格基準点：95 点（満点 163 点）

全国平均合格率：70.4%

３）介護福祉士の合格率について

総数（新卒）		
受験者数	合格者数	合格率
19	19	100%

合格順位：全国 1 位（既卒含）、全国 1 位（新卒のみ）／244 校（総数での学校数）

合格基準点：67 点（満点 125 点）

全国平均合格率：82.8%

○今後の課題

今年度も、感染症流行を鑑み、継続的に実施内容を変更することとなった。教室確保の難しさもあったが、模擬試験や学生が中心で進める国試対策講座、国試対策勉強会を実施することができた。また例年同様、個別面談を前期・後期とも実施し、必要に応じて定期的に相談・助言を行った。その結果、今年度は社会福祉士の合格率が学部創設以来、最も高い合格率となり、精神保健福祉士・介護福祉士ともに100%の好成績となった。合格基準点が是正されたこともあるが、学生個々の努力の成果といえよう。今後も引き続き、国試対策の課題を整理しながら、支援体制を充実させていきたい。

IV

学生を中心とした活動

社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士

国家試験に向けての取り組み

国試対策講座について

本年度の国試対策講座では、学生に苦手と感じているものや、開講してほしい科目についてのアンケートを実施し、要望の多かった8科目 17 講座を先生方に開講していただきました。先生方には、これまでの出題傾向を基に、わかりやすくまとめてくださっている資料を準備していただきました。先生方の多くのサポートによって、自己学習では理解することが難しい内容に関しても丁寧に一つひとつ理解することができました。また、国家試験に向けて、どのように学習を進めていくと良いのか、国家試験に合格した先輩の体験談をもとにしながら勉強法を教えてくださいたり、頻出問題に絞って解説を行ってくださったりしたことが、私たちの勉強の一助となりました。講義後でも、質問に答えてくださり、曖昧になっている点を払拭することができました。

本年度は新型コロナウイルス対策として、対面とオンラインの双方を活用した講座となりました。対面時には講座の様子をビデオ録画し、当日参加できなかった学生や、もう一度復習したい学生が講座を受講し、復習することができるよう努めました。対面・オンライン双方において、先生方には分かりやすい資料や音声、授業を準備していただいたことに加え、授業前後には質問や相談を受け付けていただきました。そのため、分からない部分をそのままにせず、しっかりと理解したうえで自己学習につなげることができました。

国試対策について

新型コロナウイルスの影響により、例年行われていた国試対策合宿の開催が困難であったため、昨年度と同様に学内での国試対策勉強会を実施しました。本年度は、卒論から国試の勉強へと本格的に切り替わる12月21日に1日、お正月休み明けに2日（1月9・10日）行い、多くの学生が自主的に国試対策に取り組みました。勉強会の開催にあたり、ゼミ室の使用人数を制限したり、空き教室を開放したりするなどの感染予防策を講じることで、学生が安心して勉強会に参加できるよう努めました。

国試対策勉強会に参加したことで、国試勉強に励む他の学生に刺激を受けながら学習することができました。国試対策勉強会は、一人で勉強している際に、疑問に思ったことや理解できなかった点について、友人に聞くことができるとても良い環境でした。また、同じ目標や夢に向かって頑張っている仲間がいることを肌で感じるすることができました。勉強に対しての意欲が下がった際でも、仲間がいることを思い出して最後まで走り切ることができたと思っています。国試の勉強は長時間に及びます。思うように力が伸びず、苦しい時もありますが、同じ夢に向かって頑張っている者同士、互いに助け合って走り切ってほしいと思います。

後輩のみなさんへ

先輩から「4回生の1年間は実習、国試、卒論、就活と様々なことが同時並行で、すぐに過ぎ去るから早めに計画を立てて頑張ってね。」と助言をいただいていた。その言葉を皆さんにそのままお伝えしたいです。早めに計画を立てて、早めに行動することがポイントです。

そして、私からこれに加えてもう1つ伝えたいことは、「決して焦らないでほしい」ということです。国試に向けての1年間は、自分が今なにを優先しなければならないのかを明確にし、それに向けて無理のない範囲で計画を立て、一つひとつこなしていくことが大切だと思います。4回生の1年間は振り返ると、まだ自分が終えていないことを友人は終えていたり、自分ができることが友人はできるようになっていたり、そんなことが多くある1年でした。焦らないように前もって行動しておくことが重要ですが、そのなかで他人と比べず、自分のペースで頑張ることが大切だと思います。

私は、国試に向けての1年間について、忙しかったけれど先生方や仲間、家族に助けてもらい、とても充実した良い1年だったと思っています。みなさんが卒業後振り返ったとき、素敵な1年だったと思えることを、心からお祈りしています。

P シ ス タ ー ズ

地域活動サークル「P シスターズ」です。私たちは、本学にある「立志社中」というプロジェクトに加入し、県内の幅広い地域で活動を行っている団体です。P シスターズは、地域住民の「主体性」を何よりも大切にしながら、住民の「やりたいこと」の実現を目的として活動しています。昨年度は、安芸市東川地区、三原村、仁淀川町、高知市三里地区、津野町で活動を行いました。

◇安芸市東川地区

地域の伝統文化である「獅子舞踊り」を地域住民の皆さんから直接指導をいただきながら練習を行い、学生が担い手となって伝統を継承しています。



◇高知市三里地区

池キャンパスのある高知市三里地区での活動は、生活支援ボランティアさんからの「学生と一緒になにかしたい」というお声がきっかけとなり、はじまりました。昨年度の活動では地域の方との交流座談会を行い、地域の餅つき会への参加をしたり、学生がお好み焼きとクレープを作るイベントを企画、開催するなどしました。



その他にも、三原村や仁淀川町などで活動しています。三原村では学生が考えた三原村健康体操や PR 動画の完成に向けて、活動を行いました。また、中山間地の移動問題について、仁淀川町の住民さんの声を聞かせていただきました。

P シスターズは、SNS でも活動の様子を公開しています。ぜひ、ご覧ください。
Instagram [psis.u_kochi](#) Twitter : [@P29045067](#)

イケあい

2012年より活動を開始した、イケあい地域災害学生ボランティアセンター（以下：イケあい）は東日本大震災の復興ボランティアに参加した学生らによって作られた防災サークルです。

団体の活動目的は、災害時に大学周辺での被害を最小限にとどめ、いち早く復旧させることです。そのために、災害時にスムーズに支援に入れるよう日頃から地域との信頼関係を築くことや、災害ボランティアセンターで中核となれる人材を育成すること、活動や情報の発信によって地域や大学での防災啓発などを行っています。

今年度は、‘未災地ツアー’を行い、大阪の中学生に HUG ゲームをやってもらったり、三里地区を案内したりしました。‘未災地ツアー’とは未だ被災していないが、未来に被災するであろう地域の街歩きを通して、その地域の魅力や災害時の課題を見つける活動です。中学生に‘未災地ツアー’を行う前に、まず私たちが三里地区について詳しく知る必要があるため、外部顧問とともに三里地区を歩いて地域について学びました。‘未災地ツアー’を通して、私たち自身も地域の危険な場所や地域の良さについて知ることができました。また、様々な地域の活動にサークルとして参加することもできました。地域の方に防災の知識を伝えることができたと同時に、コミュニケーションを取るなかで交流を深められたことが、私たちにとっても多くの学びにつながりました。

しかし、コロナ禍から止まってしまっている活動がまだ多くあります。今後そのような活動を再び実施し、サークルの活動をさらに盛り上げていけたらと考えています。また、今年度は高知大学防災‘すけっと隊’と積極的に連携が取れました。今後、高知大学や高知工科大学との交流を深め、高知の大学が力を合わせて大学生だからこそできるような活動をしていきたいと思っております。防災は多くの人の中で、どうしてもハードルの高いものになってしまっている印象を受けます。「楽しいからはじまる防災を大切に！」をモットーとして掲げるイケあいは、多くの人に楽しみながら防災に触れられる機会を提供し、一人でも多くの方が災害発生時に大切な命を守れるようにこれからも活動を継続させていきたいと思っております。



かんきもん（土佐弁：元気者）

かんきもんは、障害の有無や住んでいる地域に関係なく子どもから高齢者まで誰もが暮らしやすいコミュニティ、『地域共生社会』を目指して活動しています。今年度は、状況をみながらではありましたが、コロナ禍以前のような対面での活動を実施することができ、より地域の方と交流を深めることができました。今年度の活動は、昨年度に引き続き「援農」「シグマ」「タウンモビリティ」「学習支援」「傾聴」の5部門が活発に、学生企画を交えながら活動を行うことができました。

◇援農

2023年度は新型コロナウイルスの影響で中止になっていた活動を再び再開することができました。四万十市では田植えや稲刈り、バラ園の草引きを行い、安芸市ではゆずや入河内大根の収穫、日曜市での販売などを行いました。こういった活動を通して地域の課題を知ることで私たち学生が何かできないかと考えることができ、大学祭では自分たちで発案した“栗おにぎり”を販売し地域をPRしました。

◇シグマ

シグマは、子ども食堂の活動を行っています。2023年度は「ミーム club」と「みつばち」という2つの子ども食堂で、子どもたちと一緒に食事を作り、触れ合う機会を多く持つことができました。また、子どもたちの居場所として子どもたちが安心して過ごせる空間を作るために、工夫して取り組んでいくことができました。子どもたちだけでなく、保護者の方や地域の方とも交流でき、とても活気ある活動となりました。

◇タウンモビリティ

毎月 NPO 法人「ふくねこ」の利用者と対面や zoom で交流を行いました。片麻痺、視覚障害、引きこもり、車椅子ユーザーなど様々な当事者の声を聞き、学生や支援者と共に意見を深め合うことで、机上だけでは分からない当事者理解につなげることができました。また、七夕とクリスマスには学生が企画したイベントを実施し、12月には活動的な障害者を取りあげたドキュメンタリー映画の上映会を行いました。積極的に活動する方々の姿に、こちらにも勇気とやる気をもらいました。さらに、福祉機器展にボランティアとして参加し、メーカーさんや支援者の視点を勉強させていただきました。

◇学習支援

昨年度に引き続き、土佐市の小中高生を対象に学習支援ボランティアを行ってきました。勉強面のサポートのみならず、積極的なコミュニケーションを図るなど、子どもたちにとってサードプレイスになるような居心地の良い環境作りに努めています。今後も子どもたちのために自分たちができることを考え、継続的に関わってまいります。

◇傾聴

今年度は高岡の「蚤の市」のお手伝いを行い、地域の方と交流することができました。メインの活動であるグループホームでの傾聴活動は行えていませんが、来年度は月2回程度を目処に行っていきたいと考えています。グループホームでの傾聴活動では利用者さんとの会話を楽しんだり一緒にいきいき百歳体操をしたりします。

◇YCPK：(Young Crime Prevention in Kochi)

高知東警察署と連絡を取りながら、少年犯罪、防犯に対する意識の向上に取り組んでいます。また、防犯かるたの普及にも取り組んでいます。今年度は活動できませんでした。コロナの状況も収まってきているため来年度に向けてまた活動の見直しや人員募集をさせていただきます。

学生を中心とした活動（かんきもん）

以上の通り、かんきもんは、子ども、障害者、高齢、過疎地域住民など、支援を要する人の地域生活の質を良くする活動に取り組んできました。

V

卒業論文題目一覧(2023年度)

令和5年度社会福祉学部社会福祉学科卒業論文題目

題 目
中学生教育における性教育の現状と課題～望まない妊娠を減らすために～
アートによるソーシャルインクルージョンを目指す上での大衆性と独創性
山間地域における高齢者の移動問題の現状と今後の展望及び考察
ひきこもり当事者の心理状況及び回復過程—若者サポートステーションでの調査を通して—
小学校における多文化共生教育についての一考察—マジョリティとなる日本人児童への影響に着目して—
中途障害者における就労支援サービスの現状と課題
緩和ケアにおける医療ソーシャルワーカーの必要性和その役割
児童自立支援施設のアフターケアの課題—卒園生のストレングスを地域でエンパワーするために—
知的障害者の一般就労における社会参加の促進
障害告知の現状と課題—母親、本人、きょうだいへの告知から—
世代間交流が孤立した状態にある人に与える影響と交流の課題に関する一考察
社会福祉協議会におけるスーパービジョンの有効性と課題
子ども食堂における居場所づくりの課題について
自閉スペクトラム症の子どもとの非言語コミュニケーションの可能性
地域における家庭での子育て支援—希望の持てる子育てのために—
社会的擁護下における被虐待児の愛着障害に関する支援と課題
中山間地域に住む免許を持たない高齢者の移動手段に関する研究—乗せてもらう側の心情に着目して—
MSWによる退院支援についての一考察—自宅生活を望む高齢者のために—
中学校における不登校の未然防止に対するスクールソーシャルワーカーの支援—チームとしての学校に焦点を当てて—
自閉症アーティストの創造性について 彼らの世界に魅了される理由とは
若年性認知症当事者の思いに関する研究 —希望の実現を目指すために—
脳卒中当事者に対するMSW の支援の在り方 ～在宅で生活していくための支援プロセスの解明～
高齢者介護施設と地域が関わることで期待される効果 —インタビュー調査から見えてくる課題とは—
ALS 患者・家族の意思決定支援 —ソーシャルワーカーの役割—
ヤングケアラー・コーディネーターによるヤングケアラー支援の現状と課題
虐待家庭における家族再統合 —保護者の抱える課題に対する家庭支援専門相談員の支援—
災害時要配慮者への支援におけるソーシャルワーカーの役割 —平時からの取り組みに焦点を当てて—
親子関係についての研究 —いわゆる「毒親」の概念整理と対処法—
遺族支援に求められる医療ソーシャルワーカーの役割と課題
ごみ屋敷に関する文献研究 —支援事例とその検討から考える福祉的支援とは—
刑務所等出所者の就労継続についての一考察 —協力雇用主を対象とした事例検討—
「障害者は不幸を生むだけ」なのだろうか —相模原障害者殺傷事件より—
女子校のジェンダーに関する歴史と隠れたカリキュラムによるジェンダー化された教育について
発達障害におけるグレーゾーンの児童への支援 —グレーゾーン児童の定義と現状—
放課後等デイサービスの実態と課題
支援を望まない人に対する アウトリーチに関する研究

児童虐待の連鎖を断ち切るためには —実際の事件を基に考える—
職務自律性と上司の配慮が経験学習に与える影響 -介護保険施設・事業所の介護職員を対象とした定量的分析-
高齢者男性の社会参加を促進する活動に関する一考察 —農福連携に着目して—
医療的ケア児の成長と家族に対する 支援の現状と課題
学校における「空気を読む」の『空気』の正体についての考察
認知症のある1人暮らし高齢者の地域支援について —社会的孤立の視点から—
災害支援における福祉専門職の役割に関する一考察 —災害派遣福祉チームの活動に着目して—
不登校児童生徒への積極的な支援-教育支援センターでの経験を中心に-
近所付き合いが希薄化している地域における住民同士の『居心地の良い関係』について —高知県における集落活動センターの活動を通して—
認知症高齢者の在宅生活を支える 地域支援ネットワークの研究
児童養護施設における子どものアドボカシー —訪問アドボカシー実践に焦点を当てて—
知的障害者の交際、結婚に関する支援の現状と課題
自閉スペクトラム症児への構造化を用いた支援 -児童養護施設への活用の可能性
ワーク・ライフ・バランスを見据えた子育て支援 —働く母親に着目して—
ケアリーバーでありかつ困難な問題を抱える若年女性に対する支援についての一考察
複合化・複雑化する支援ニーズに対する個別支援と地域支援の両輪をまわす支援の必要性 —夫婦のみ世帯を含む閉じこもりがちな高齢者に着目して—
若者の就学支援サービスの活用状況と課題 —奨学金制度に着目して—
里親養育の継続のための支援の考察 —子どもの意見表明を中心にして—
性的マイノリティに対するアウティングの防止策及び、多様性が尊重される社会の実現のために ～アウティングの事例から～
With コロナ時代における支援過程でおきるジレンマとそれに対応するケア —パーソン・センタード・ケアを通して考える—
交通事故における遺族への影響と支援について —池袋暴走事故から考える被害者家族への支援—
互助の振興 —地域おこし協力隊の活動—
若者が抱える金融トラブルの背景 —予防策としての金融教育とインターネットリテラシーに 焦点を当てて—
「サードプレイス」という新しい概念から子どもの居場所を考える
人と人とのつながりから生まれる地域づくり-地域コミュニティの今後を見据えて-
障害に関する表現についての一考察
入所施設における利用者のマイナスな感情の表出がもたらす効果と支援
薬物依存者への福祉的支援の考察 —日本における薬物依存問題—
HSP の特性とそれに対する向き合い方 —社会福祉職場で活かせる能力に焦点をあてて—
若者の自殺予防に向けたソーシャルワークの重要性と課題
地域の心理的居場所となる環境づくりにおいての一考察 -共食における効果に着目して
ひきこもりが及ぼす影響とひきこもり支援についての一考察
障害者入所施設における重症心身障害者の余暇活動を通じた自己実現の促進要因と阻害要因
医療ソーシャルワークにおける良好な関係構築のための要素—急性期病院に着目して—
「働くデイサービス」における農福連携の効用 —認知症当事者による支援に着目して—
住民主体のまちづくりにおける人のつながりと地域愛着の形成・向上
軽度要介護者の在宅での自立生活にむけて —家族介護者が生活者であるために—
精神障害のある親をもつヤングケアラーへの支援-生きづらさと親子間の愛着関係に着目して-

介護福祉職のファッションに関する一考察

差別されない職場づくり ～SOGI の視点から～

児童自立支援施設における発達障害のある子どもへの支援 —ソーシャルスキルの向上を目指した支援に着目して—

特例子会社における精神障害者の就業継続に関する一考察 —組織的公正に着目して—

過疎地域における高齢者の困りごとに対する支援と課題 —地域福祉に取り組んでいる 3 市町村をもとに—

ダブルケアに関する文献研究 —高齢者介護の視点から—

編集後記

社会福祉学部報第26号をお届けします。

本学部報は、令和5年度における社会福祉学部の活動や所属教員の教育研究活動、各種委員会や学生による活動の実績などをまとめたものです。ぜひご一読いただければ幸いです。

令和5年度は、講義や演習等の授業について対面授業に戻りました。一部の授業は、遠隔授業やオンデマンド授業でも実施しました。配属実習については、概ね予定通り実習を終えることができました。心より御礼申し上げます。

また学生のサークル活動やボランティア活動等の課外活動についても新型コロナウイルス感染前の体制に戻りつつあります。令和6年度は学生が地域に出向いて地域の方々と積極的に関わることも増えると思います。

4回生の国家試験についてご報告いたします。社会福祉士の合格率は94.4%（新卒のみ）でした。この合格率は、社会福祉学部開設以来の好結果です。また精神保健福祉士と介護福祉士の合格率は、ともに100.0%（新卒のみ）でした。次年度も学部による国家試験のサポートは継続いたします。

社会福祉学部は、学部創設以来、福祉の現代的課題を見据え、深い人間理解や人権尊重の精神に裏打ちされた専門的知識と実践的知識と実践的技能を教育・研究している学部です。社会福祉学部のディプロマポリシーやカリキュラムポリシー、アドミッションポリシーにあるように三福祉士の専門職養成だけでなく、変化する社会状況下でも思考・行動できるような教育を目指しています。

今後とも、社会福祉学部の教育にご理解とご支援を賜りますよう、よろしく願いいたします。

社会福祉学部総務委員会 西内 章

高知県立大学社会福祉学部報

第26号

発行日：2024年6月1日

発行者：長澤 紀美子（学部長）

編集：社会福祉学部 総務委員会

高知県立大学社会福祉学部
〒781-8515 高知県高知市池2751-1
Tel 088-847-8700（大学代表）
Tel 088-847-8757（学部代表）
Fax 088-847-8672（学部専用）

